

# 市立横手病院年報

平成 20 年 度

市 立 横 手 病 院

# 平成20年度年報発刊にあたり

横手市病院事業管理者 長山 正四郎

平成20年度は院長として自分なりに考えた陸上競技の三段跳の最後のジャンプで大きく飛躍する年と考えておりました。病院事業を振り返ってみれば、医業収益では予想外の赤字決算という結果になってしまいました。しかし、事業の内容を検討してみると医業収入が大幅に伸び、後期研修医獲得の道も開けたし、院内IT化がめざましく進んで電子カルテも順調に稼動し、病院内の基盤作りは順調に進み、将来へ大きな希望を持てる基礎が整えられた1年間であったのではないかと思います。今後は医師不在、医師不足の診療科の解消と、病院増改築工事完成を待って、ゆとりのある療養環境への整備を終えて、多くの患者さんに満足していただける安心、安全な医療を提供する確固たる強い意志で病院全職員が頑張る時期到来だと思います。

まず、病院事業としては“市民のためのやさしい病院作り”をモットーに押し進めて来ました病院としての大事業である第Ⅲ期の病院増改築工事も市議会の承認を得て、平成20年3月6日にやっと起工式を終えることができました。このあとは平成22年12月の完成に向けて工事が順調にすすんでくれることを祈るだけです。LDR室を2室備え、産後にゆっくり療養できるシャワールーム付きの個室が7室と、産科病棟は大きく様変わりし立派になります。又、新館の2階フロアには消化器センター・健診センターが設置され、消化器病診療、健診業務がスムーズに行われるようになり、きっと患者さん達に喜んでいただける施設になるものと大きな期待を持っている所です。

次に、医局の動きを振り返りますと、臨床研修制度が開始された時からの夢であった卒後3年目の後期研修医の獲得ですが、僅か1年間という期間でしたが当院で2年間の前期研修を終えた伊藤綾美先生が循環器内科に所属し、主に糖尿病の患者さんを多く診察してくれました。彼女の優しい言葉遣いと熱心な態度で多くの患者をひきつけ、患者さんにとっても病院にとっても非常に有り難い活躍であったと思います。彼女の跡に続く後輩医師に良い道筋をつけてくれたものと思い感謝しております。医局の人事としては20年5月に放射線科に泉先生が赴任してくれました。放射線科の専門医が2名となり、読影時間も短くなり、泉先生のキャラクターと相まって職場が明るく活気に満ちたものとなり、今後は検診事業の拡大にも好影響が出てくるものと期待されます。今年度の臨床研修医は秋田大学の卒業生2名でしたが真面目に仕事に励んでいますので将来が楽しみです。前期研修医採用が途絶えることのない様に、臨床研修指定病院として医局の先生方の協力を仰ぎたいと思っています。

病院としての医事関連の事業をみてみますと、まず院内のIT化が順調に進められ、電子カルテシステムが10月1日より全面稼動したことが大きな一大イベントであったと思います。開始にあたっては沢山の不安材料はありましたが、医療情報管理室職員の奮闘でそれも除々に解消され、度重なる検討により日々充実したシステムへと進展しました。医師、看護師の業務内容は当然の事としても、院内各部署との連携がスムーズに行くようになり、時間も無駄も省けたと思っています。職員がさらにコンピューター操作に慣れるとさらにすばらしい成果として医療の安全・安

心にもっと寄与するようになるものと思っています。院内が完全にフィルムレスとなり、コンピューターさえあれば院内どこでも画像がみられ、そして又検査成績も入手できる状況になりスムーズな医療の流れができて、勤務医の過重労働の軽減にも役立っていると思われまます。このシステムを地域の病診連携や、日当直体制の補てん策として有効利用していきたいものとも考えています。院内のこのITシステムを病院だけの財産とするのではなく、地域の財産として利用する方向でさらに前向きに検討してゆかねばと思っています。

電子カルテシステムがしっかり完成したことにより、DPC対応準備病院としての資料提出が非常にスムーズにっており、次年度のDPC対応病院としての医療情報が提出できるので、間違いなく平成21年4月からは新しい診療報酬の請求となると思われまます。急性期医療を目指す当院としては次年度はいい結果が出せるように頑張らねばと思う所です。

平成19年度に1年間のブランクのあった医療安全管理者の配置も講習を受けて来られた看護科主任の佐々木佳子さんを配置することができました。彼女は今までと全く違う分野の業務となりましたが、様々な講習会の企画、種々マニュアルの見直し、さらに院内の関連する各種委員会にも積極的に参加し、夜遅くまで毎日のように頑張っておりました。これから病院の安全管理も次第に良き方向へと向かうものと確信しています。

医療安全の一環として重要な院内感染に関しても、感染症認定看護師の資格取得のために看護科の小川伸さんに半年間研修のため出張してもらいました。様々な知識を身につけかつ国内に良き仲間を作り情報交換という大切な手法も身につけて帰院してくれました。資格取得は明年度になりますが大活躍が期待されます。楽しみにしている所です。院内の感染予防対策も大きな変化があるものと期待しています。

最近の医療界では医師不足特に勤務医不足が話題となり病院勤務医の過重労働が問題視されています。さらに急性期医療に関しては、基幹病院への集約化が押し進められています。産科や小児科などは地方の中核病院からどんどん医師が引き上げ空洞化する地方の病院が増える中で大病院ではスタッフがどんどん充実しています。地域医療を守らねばならない自分達の病院は、まず自分達でしっかり足場を固めてこの難局を乗り越えねばなりません。まずは医師が働き易い雰囲気のある病院作りが基本の第一歩だと思います。全職員で医局を盛りあげて是非この難局を乗り越えましょう。平成20年度は1人科長の診療科は整形外科、小児科、泌尿器科の3科ありましたが、それぞれの科長先生が頑張ってくれました。この先その診療科の医師補充のために医師探しに努めたいと思いますし、それが院長の最大の任務とも考えています。

平成20年度は医業収益こそ赤字決算となりましたが、先に述べたように様々な面で病院経営の基礎固めができた年と考えられます。将来に明るい希望を持って次年度も精進したいと思います。

# 目 次

|             |    |                      |     |
|-------------|----|----------------------|-----|
| 巻頭言         | 1  | 眼科                   | 45  |
| 目 次         | 3  | 泌尿器科                 | 46  |
| 沿 革         | 7  | 放射線科                 | 48  |
| 基本理念・基本方針   | 13 | リハビリテーション科           | 50  |
| 倫理綱領        | 14 | 救急センター               | 55  |
| 患者様の権利と責務   | 15 | 薬剤科                  | 56  |
| 病院の概要       | 19 | 診療放射線科               | 58  |
| 開設者         | 19 | 看護科                  | 61  |
| 名 称         | 19 | 2 病棟                 | 64  |
| 所在地         | 19 | 3 A 病棟               | 66  |
| 開設年月日       | 19 | 3 B 病棟               | 68  |
| 事業管理者       | 19 | 4 病棟                 | 70  |
| 病床数         | 19 | 外来                   | 72  |
| 診療科目        | 19 | 手術室・中央材料室・洗濯室        | 74  |
| 看護体系        | 19 | 人工透析室                | 76  |
| 医療機関の指定等    | 19 | 訪問看護センター             | 78  |
| 病院施設の概要     | 19 | ME 室                 | 80  |
| 部門報告        | 23 | 臨床検査科                | 83  |
| 診療科         | 23 | 食養科                  | 85  |
| 内 科         | 23 | 健康管理センター             | 88  |
| 血液内科        | 23 | 事務局                  | 91  |
| 神経内科        | 25 | 総務課                  | 91  |
| 脳神経内科       | 26 | 医事課                  | 97  |
| 消化器科        | 28 | 医療情報管理室              | 99  |
| 循環器科        | 30 | 病診連携室                | 100 |
| 呼吸器科・アレルギー科 | 32 | 医療安全管理室              | 103 |
| 心療内科        | 33 | 病院統計                 | 109 |
| 外科          | 34 | 収支決算                 | 109 |
| 整形外科        | 37 | 外来入院患者数・1 日平均患者数・収益・ |     |
| 小児科         | 39 | 1 人当たり平均単価           | 111 |
| 産婦人科        | 43 | 委員会活動                | 115 |

|               |     |               |     |
|---------------|-----|---------------|-----|
| 安全管理委員会       | 115 | 看護研究委員会       | 156 |
| 倫理委員会         | 117 | 看護支援委員会       | 157 |
| 栄養管理委員会       | 118 | 師長会           | 158 |
| N S T 委員会     | 119 | 抄読会           | 159 |
| 褥瘡対策委員会       | 121 | <b>学術研究業績</b> | 163 |
| 患者サービス向上委員会   | 122 | <b>同好会活動</b>  | 167 |
| 緩和ケアチーム委員会    | 123 | 野球部           | 167 |
| 救急センター運営委員会   | 125 | バレーボール部       | 168 |
| 手術室運営委員会      | 126 | 職員等互助会        | 171 |
| 薬事審議委員会       | 127 | 編集後記          | 173 |
| 輸血療法委員会       | 130 |               |     |
| 臨床検査適正化委員会    | 132 |               |     |
| 図書委員会         | 134 |               |     |
| 臨床研修管理委員会     | 136 |               |     |
| 治験委員会         | 138 |               |     |
| 診療材料新規採用検討委員会 | 139 |               |     |
| 電子カルテ導入推進委員会  | 140 |               |     |
| D P C 委員会     | 142 |               |     |
| クリニカルパス委員会    | 143 |               |     |
| 業務改善委員会       | 144 |               |     |
| 衛生委員会         | 145 |               |     |
| 病院教育委員会       | 146 |               |     |
| 広報委員会         | 147 |               |     |
| 個人情報保護推進委員会   | 148 |               |     |
| 診療記録開示審査委員会   | 149 |               |     |
| 年報編集委員会       | 150 |               |     |
| 医療ガス安全管理委員会   | 151 |               |     |
| 医療廃棄物管理委員会    | 152 |               |     |
| 防火管理委員会       | 153 |               |     |
| 看護科の委員会       | 154 |               |     |
| 教育委員会         | 154 |               |     |

# 沿 革



## 沿 革

- 明治14年 私立横手病院創立。
- 17年 公立平鹿病院と改称。
- 21年 3月 県が公立病院設置規則公布。
- 22年 7月31日 廃院と同時に横手町がこれを譲り受ける。
- 12月15日 公立横手病院として開院。総坪数78坪。初代院長中村良益氏就任。
- 24年11月 大町下丁に新築工事着手。
- 25年 1月30日 竣工開院。
- 33年 4月 1日 平鹿郡の委託をうけ看護婦養成所設置。
- 昭和27年 2月 7日 醍醐診療所開設。初代所長藤田健康氏就任（本院内科兼務）。
- 11月15日 保健婦、助産婦、看護婦法（昭和23年法律第203号）による附属准看護婦養成所設立（定員40名）。
- 28年 9月21日 栄診療所開設。初代所長和賀卓爾氏就任（専任）。
- 9月30日 横手市外21ヶ町村立伝染病隔離病舎組合設立竣工（249.75坪）。
- 34年 7月 3日 厚生年金保険積立金の還元融資を受け昭和33年度より3カ年計画による病院全面改築工事に着手。大町下丁36番地より根岸町5番31号旧北小学校跡へ移設。
- 35年 3月31日 醍醐診療所廃止。
- 7月31日 改築工事竣工（総面積3,116.26㎡、総工費8,500万円）。
- 9月 6日 竣工に伴い指令秋収医第2140号により施設の使用許可（一般病室19室113床）。
- 36年 2月 1日 地方公営企業法（昭和27年法律第292号）に基づき条例全部適用。
- 4月 1日 国民健康保険制度施行。
- 7月 7日 伝染病棟移転改築工事竣工。横手市外7ヶ町村立伝染病隔離病舎組合と改称。
- 7月 7日 結核病棟改築竣工（総工費300万円）。
- 38年10月 1日 健康保険法による基準寝具承認。3病棟160床。
- 39年 6月30日 救急指定病院の許可（優先使用される病床3床）。
- 40年 7月15日 集中豪雨による横手川氾濫。午後1時30分頃より同4時頃まで浸水、最高床上1メートルの被災のため3日間休診。復旧費150万円。
- 41年 1月 1日 地方公営企業法一部改正に伴い条例制定管理者を置く（院長）。
- 43年 3月25日 温泉浴治療棟新築工事及び送湯管布設工事着手。
- 7月30日 同新築工事竣工（面積322.99㎡、引湯管全長1,500m、総工費2,300万円）。
- 8月 1日 リハビリ棟竣工により指令医第1499号、指令環第690号で使用許可。
- 45年12月15日 准看護学院創立20周年記念式典。第20期までの卒業生358名。
- 48年 4月 1日 横手市外7ヶ町村立隔離病舎組合を横手平鹿広域市町村圏隔離病舎組合と改称。
- 5月14日 医第1012号をもって横手平鹿医療圏における地域センター病院に指定（地域医療センター）。

- 56年10月1日 基準看護一般病棟160床特二類承認。承認番号(看)第20号。
- 57年12月15日 看護職員に対する勸奨(希望)退職制度の適用。
- 59年7月31日 第1病棟(47床)、伝染病棟(10床)閉鎖。解体。
- 8月1日 病院開設許可事項変更許可(指令医-299)。  
一般病床160→194 伝染病床10→10 計170→204
- 8月30日 病棟改築工事起工式。
- 60年10月20日 新病棟竣工(着工59.8.24)。
- 62年3月31日 附属准看護学院閉校(昭和27年11月開校以来34期592名卒業)。
- 7月7日 CT導入(設置許可指令医-684)。
- 63年4月1日 健康管理センター発足。
- 平成元年1月25日 第1回コメディカル研究会開催。
- 9月16日 開設100周年記念式典。
- 12月1日 基準寝具承認指令保-1531 194床 承認番号(寝第7号)
- 2年7月24日 皆川浄司院長急逝。
- 9月1日 江本彰二院長就任。
- 10月1日 皆川浄司学術振興基金設立。
- 3年1月1日 基準看護(特2類看護)辞退。
- 1月9日 病院開設許可事項変更許可(指令医-1801)。  
一般病床194→250 伝染病床10→10 計204→260
- 2月1日 第2期診療棟等改築工事着工(250床)。
- 4月1日 基準看護(特2類看護)承認(看第61号)指令保2363
- 10月28日 大友公一産婦人科科長急逝。
- 4年4月1日 標ぼう科目に泌尿器科新設。
- 4月1日 名誉院長に品川信良先生発令。
- 4月4～5日 新しい診療棟移転。
- 4月6日 新しい診療棟に仮出入口をもうけて外来診療開始。
- 7月1日 泌尿器科外来診療開設。
- 7月3日 人工透析開設(10床)。
- 7月20日 新しい診療棟正面玄関オープン。
- 7月31日 第2期改築工事竣工(着工3.2.1、完成4.7.31)。
- 8月1日 看護4単位制に入る(250床 実施開始)。
- 8月29日 公立横手病院第二期改築工事竣工式。
- 10月1日 新カルテ(A4版)に変更。
- 11月7～8日 第1回病院祭。
- 12月1日 特3類看護(2病棟、3B病棟)117床承認される(承認番号(看)第25号)。  
重症者の収容基準承認される(承認番号(重収)第18号)。  
個室4床 201・218・367・420号室  
2人部屋6床 350・321・422号室

- 5年1月1日 夜間看護等加算承認（承認番号(夜看)第21号）。
- 4月1日 秋田大学医療技術短期大学部理学療法科実習病院の承認。
- 5月9日 経営問題で読売新聞ニュースになる。
- 8月1日 入院時医学管理料承認される。
- 9月24日 健康管理センター棟着工。
- 12月1日 特3類看護（4病棟）承認される。
- 6年3月10日 健康管理センター棟竣工（着工5.9.24）。
- 6月1日 完全週休2日制実施。
- 6月8日 秋田大学による地域包括保健・医療・福祉実習開始。
- 9月8日 経営コンサルティングの実施。
- 7年6月1日 新看護基準（2.5：1、10：1）承認。
- 6月30日 江本院長退任。
- 7月1日 新事業管理者・院長に長山先生就任、新副院長に丹羽先生就任。
- 8月5日 基本理念策定  
「安心できる良質な医療の提供」  
「心ふれあう人間味豊かな対応」  
基本方針策定  
「地域医療への貢献」  
「患者サービスの充実」  
「健全な病院経営」  
運営方針策定  
「急性期医療の充実」  
「生活習慣病の予防」  
「検診業務の拡大」
- 8年4月23日 (財)日本医療評価機構による病院機能評価運用調査受審。
- 6月3日 眼科外来診療開設（週1回月曜日午後）。
- 7月1日 院内感染防止対策加算承認。
- 7月5日 更年期外来開設。
- 12月5日 心療科外来診療開設（週1回）。
- 12月11日 MR I棟着工
- 9年3月19日 MR I棟竣工。
- 3月31日 名誉院長品川信良先生退任。
- 4月21日 食堂を開設。
- 4月28日 MR I装置稼働。
- 9月27日 横手病院温故会（OB会）設立。
- 10年4月1日 名誉院長正宗研先生就任。
- 4月13日 診療材料管理システム稼働。
- 11年4月1日 院外処方実施（7月から全面実施）。

- 4月1日 第2種感染症指定医療機関（4床）。
- 10月1日 オーダリングシステム運用開始。
- 10月30日 横手病院110周年記念式典。
- 平成12年2月1日 無菌製剤処理加算。
- 5月1日 重症者等療養環境特別加算 10床→15床  
検体検査管理加算取得（算定4月1日）。
- 平成13年4月1日 横手病院前バス路線開設。
- 平成14年4月1日 公立横手病院職員等互助会設立。
- 5月16日 全国自治体病院協議会総会 自治体立優良病院両会長表彰受賞。
- 6月10日 病院機能評価受診準備委員会委嘱。
- 7月1日 新財務会計システム稼動。
- 7月26日 新基本理念策定。  
地域の人々に信頼される病院を目指します。  
安心できる良質な医療の提供  
心ふれあう人間味豊かな対応
- 8月23日 新基本方針策定。  
患者さん中心の安全な医療の提供に努めます。  
地域医療・保健に貢献します。  
健全な病院経営に努めます。
- 平成15年2月13日 自動再来受付機稼動開始。
- 3月31日 正宗名誉院長退任。
- 4月1日 三浦傳名誉院長就任、加藤哲郎顧問就任
- 4月30日 マスタープラン策定部会答申提出
- 6月20日 「患者様の権利と責務」策定
- 8月22日 病床区分を一般病床として届出（250床）
- 9月12日 「公立横手病院の倫理綱領」策定
- 10月30日 臨床研修病院の指定を受ける
- 平成16年1月15日 S A R S 模擬訓練（保健所、消防署、当院）
- 1月16日 病院機能評価模擬サーベイ（練馬総合病院院長、総師長）
- 3月1日 公立横手病院広報第1号発行
- 3月25日～27日 病院機能評価受審
- 5月27日 自治体立優良病院総務大臣表彰
- 6月16日 管理職・主任者研修 講師：市長
- 7月1日 最初の臨床研修医研修開始（小林医師）
- 7月26日 自治体立優良病院総務大臣表彰祝賀会 ラポート
- 8月27日 病院教育委員会主催公開講座 かまくら館 講師：湊浩一郎先生
- 11月1日 外来二交代制試行
- 平成17年2月8日 第1回病院増改築検討委員会開催

- 2月10日 病院機能評価窓口相談
- 5月9日 新CT使用開始
- 5月30日 日本病院機能評価機構の認定を受ける
- 6月20日～7月8日 秋田大学医学部地域保健福祉医療包括実習
- 6月23日 長野県東御市議会が当院を視察
- 7月26日 兵庫県加西市議会が当院を視察
- 8月4日 福島県須賀川市議会が当院を視察
- 9月23日 閉市式 市民会館
- 10月1日 市町村合併により新横手市誕生、病院名を市立横手病院に変更
- 平成18年4月25日 市議会厚生労働委員会 病院視察
- 8月30日 福島県公立藤田病院 視察
- 平成19年3月1日 レントゲンフィルムレス化運用開始
- 5月15日 福島県桑折町議会 病院視察
- 6月18日～7月6日 秋大医学部学生地域包括保健・医療・福祉実習
- 10月1日 電子カルテ稼動

## 平成20年度の主な出来事

- 平成20年4月1日 辞令交付式
- 4月1日～4日 新規採用職員研修
- 4月25日 病院歓送迎会（ラ・ポート）
- 6月1日 電気設備年次点検
- 6月14日 看護学生対象合同就職説明会（秋田市）
- 6月16日～7月14日 秋大医学部学生地域包括保健・医療・福祉実習
- 6月23日 防災訓練（上期）
- 7月12日 県南病院対抗野球大会（仙北市）
- 7月13日 臨床研修病院合同説明会（東京都）
- 7月14日 医療ガス保安講習会
- 8月6日 ふれあい看護体験
- 8月15日 盆おどり
- 8月30日～31日 職員採用試験
- 9月6日 市民医学講座（かまくら館）
- 9月7日 市民と集う看護フォーラム（かまくら館）
- 9月9日～10日 企業会計決算特別委員会
- 9月17日 研修旅行（田沢湖）
- 10月4日 研修旅行（田沢湖）
- 10月8日 横手保健所立入検査
- 10月16日 研修旅行（仙台市）

- 10月17日 電話応対コンクール県大会（秋田市）
- 10月18日 研修旅行（仙台市）
- 10月21日 研修旅行（仙台市）
- 10月22日 防災訓練（下期）
- 10月23日 接遇研修会
- 10月25日 地域医療シンポジウム（かまくら館）
- 10月28日 病診連携室医局セミナー
- 11月7日～8日 研修旅行（那須高原）
- 11月8日 日本消化器病学会 市民公開講座（かまくら館）
- 11月15日 研修旅行（仙台市）
- 11月16日 糖尿病シンポジウム（秋田市）
- 11月17日 横手・大森病院合同感染症研修会（かまくら館）
- 11月21日 コメディカル研究発表会
- 11月27日 臨床研修病院合同説明会（秋田大学）
- 11月30日 秋田県医療学術交流会学術大会（秋田市）
- 12月19日 大忘年会（ラ・ポート）
- 12月23日 白衣のクリスマスコンサート
- 平成21年1月5日 年始式
- 1月15日 東北厚生局臨床研修病院実地調査
- 1月22日 東北厚生局秋田事務所施設基準等調査
- 2月1日 増改築工事開始
- 2月10日 臨床研修病院合同説明会（秋田大学）
- 2月23日 医療安全研修会
- 3月6日 病院増築安全祈願祭
- 3月15日 東北ブロック臨床研修病院合同説明会（仙台市）
- 3月19日 病院送別会（松與会館）
- 3月20日 県南地区輸血講演会（かまくら館）
- 3月31日 退職者辞令交付式

## 基本理念

地域の人々に信頼される病院を目指します。

安心できる良質な医療の提供

心ふれあう人間味豊かな対応

## 基本方針

1. 患者さん中心の安全な医療の提供につとめます。
2. 地域医療・保健に貢献します。
3. 健全な病院経営につとめます。

# 市立横手病院の倫理綱領

我々市立横手病院で働く者は、地域の医療機関や行政機関等との連携を図りながら、公平、公正な医療を提供し、地域住民の健康の維持・増進を図り、地域の発展に貢献することを使命とする。

その守るべき行動規範は次の通り定める。

## 1 医療の質の向上

我々は医療の質の向上につとめ、人格教養を高めることによって、全人的医療を目指す。

## 2 医療記録の適正管理

我々は医療記録を適正に管理し、その情報を原則として開示する。

## 3 患者中心の医療の確立

我々は患者様に対し、パートナーとしての認識を持ち、十分な説明と同意のもとに医療を提供し、患者様の権利を擁護し、プライバシーの保護に努める。

## 4 安全管理の徹底

我々は安心して医療を受けられる環境を整備し、職員の安全教育を推進する。

## 5 地域社会との連携の推進

我々は地域の人々とは勿論のこと、地域の医療機関や福祉保健施設との緊密な連携に努める。

## 6 健全経営の確保

我々は公共性を確保すると共に、合理的かつ効率的な病院経営につとめ、健全で自立した経営基盤を確立する。

## 患者様の権利と責務

1. 患者様には、平等かつ公平に医療を受ける権利があります。
1. 患者様には、診断・治療・経過について説明を受ける権利があります。
1. 患者様には、治療法を選択し、同意の上で医療を受ける権利があります。
1. 患者様には、プライバシーを尊重される権利があります。
1. 患者様には、疾病を克服するために提供される医療に協力し治療に支障がないよう配慮する責務があります。



## 病院の概要



# 病院の概要

|       |  |
|-------|--|
| 開設者   | 横手市長 五十嵐 忠悦  |
| 名称    | 公立横手病院（平成17年9月30日まで）<br>市立横手病院（平成17年10月1日から）   |
| 所在地   | 秋田県横手市根岸町5番31号   |
| 開設年月日 | 明治22年12月15日  |
| 事業管理者 | 院長 長山 正四郎  |
| 病床数   | 一般病床250床（第2病棟58床、第3A病棟67床、第3B病棟60床、<br>第4病棟65床）、感染症病床4床、計254床                              |
| 診療科目  | 内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、アレルギー科、外科、整形外科、小児科、<br>産婦人科、泌尿器科、眼科、心療内科、リハビリテーション科、放射線科、<br>耳鼻いんこう科（休診） |
| 看護体系  | 患者2.5：看護1、患者10：看護補助1   |

## 医療機関の指定等

|                             |                       |
|-----------------------------|-----------------------|
| 救急告示指定（Bランク）                | 平成14年3月22日（告示番号第186号） |
| 臨床研修病院（単独型及び協力型）            | 平成15年10月30日           |
| 地域医療センター                    | 昭和48年5月14日            |
| 運動療法施設基準承認施設（運動療法施設、作業療法施設） | 昭和49年2月               |
| 日本整形外科学会認定研修施設              | 昭和58年4月11日            |
| 在宅酸素療法指導管理施設                | 平成元年6月1日              |
| 在宅経営栄養法指導管理施設               | 平成元年6月1日              |
| 在宅中心静脈栄養法指導管理施設             | 平成2年6月1日              |
| 在宅自己導尿指導管理施設                | 平成2年6月1日              |
| 在宅寝たきり患者処置指導管理施設            | 平成2年6月1日              |
| 在宅悪性腫瘍患者指導管理施設              | 平成2年6月1日              |
| 公選法不在者投票施設                  |                       |

## 病院施設の概要

敷地面積 8,201.81㎡

|           | 構造                        | 建築面積(㎡)  | 延面積(㎡)    | 完成年月日      |
|-----------|---------------------------|----------|-----------|------------|
| 本館(第1期工事) | 鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階建、塔屋2階 | 1,389.12 | 5,175.29  | 昭和60年8月24日 |
| 新館(第2期工事) | 鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階、塔屋1階  | 2,175.96 | 6,406.67  | 平成4年7月31日  |
| 検診センター棟   | 鉄骨造、地上2階                  | 272.55   | 506.55    | 平成6年3月10日  |
| MR I棟     | 鉄骨造、地上3階                  | 160.91   | 414.97    | 平成9年3月19日  |
| 計         |                           | 3,998.54 | 12,503.48 |            |



# 部門報告



# 部 門 報 告

## 診療科

### 内 科

### 血液内科

スタッフ（非常勤） 高橋直人（秋田大学医学部血液内科）

平成20年度業務内容

週一回木曜日の内科外来で造血器腫瘍、造血不全症の外来治療、経過観察を行いながら、院内の先生方からの毎週数人のご紹介をいただいております。固定の外来患者は化学療法後あるいは移植後リンパ腫寛解症例、同じく白血病寛解症例、支持療法のみで予後良好な慢性リンパ性白血病、グリベック継続による慢性骨髄性白血病遺伝学的寛解症例、免疫抑制剤を投与している骨髄異形成症候群、エリスロポエチン定期注射が必要な腎性貧血、特発性血小板減少性紫斑病、良性M蛋白血症、ビタミンB12注射を定期的に行なう悪性貧血、鉄剤の注射が必要な重症鉄欠乏性貧血、輸血依存の不応性貧血などです。一方、紹介患者の多くはリンパ節腫脹、高ガンマグロブリン血症、血球減少、不明熱です。また検査室（血液部門の工藤さん）から入院患者の無症状の血液検査異常を指摘され連絡を受けることも多く助かっています。リンパ節腫脹が無痛性で2 cmを超える場合は40歳以上の患者で悪性疾患の可能性が約50%であり、外科の先生と検査室のご協力で迅速で多角的な病理学的診断（READ システム SRL）が可能となっています。高ガンマグロブリン血症では蛋白分画でMピークが認められた場合、多発性骨髄腫と良性M蛋白血症との鑑別が重要であり、正常のガンマグロブリンが低下している場合は多発性骨髄腫が考えられ、骨髄検査にて確定後、免疫不全に対して支持療法を行ないながら化学療法が必要となります。血球減少で多い症例は二次検診の血小板減少、白血球減少、そして鉄欠乏性貧血以外の原因不明の貧血です。血小板減少は慢性特発性血小板減少性紫斑病のことが多く、消化器内科でヘリコバクターピロリ感染を確認していただいた後、除菌療法が有用なことがあります。消化器内科の専門医の多い当院では藤盛先生らにお願いし除菌療法を積極的に行なうことができ、免疫抑制剤を用いないため副作用も少なく患者さんに易しい治療となります。高齢者の血球減少で多いのは白血病前段階の骨髄異形成症候群であり、骨髄検査にて白血病細胞の割合などから白血病化を予測し、可能性が低い場合は対症療法にて外来で治療を行なっています。白血病化が疑われるときあるいは急性白血病と確定診断された場合は当院に血液専門の常勤医師がいないため、秋田大学病院または平鹿総合病院との病診連携にて化学療法を行っています。移植適応の目安である年齢55歳以下の症例は秋田大学血液内科（澤田賢一）、55歳以上の症例は平鹿総合病院血液内科（久米正晃）で分担します。一方、70歳以上の高齢者の多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群などでは QOL を重視した化学療法やベストサポーターケアを選択し外来診療を当院で行っています。造血器疾患の患者さんは血小板減少による出血傾向や易感染性による予期せぬ合併症のため、たびたび入院

治療が必要なることがあります。船岡先生や和泉先生など院内の諸先生方のご協力を得て治療していただいています。不明熱の多くは細菌、真菌感染症と固形腫瘍を否定された上で紹介されているため、若い患者ですと EB ウイルスやサイトメガロウイルスなどヘルペス属のウイルス感染症が、高齢者であるとリンパ腫、骨髄異形成症候群などの血液腫瘍のことが多い傾向があります。ウイルス感染症などの感染症分野では呼吸器内科の斉藤先生に大変お世話になっています。今後も各科の先生方のご協力を得て、血液内科学分野においても期待される地域医療を行っていきたいと考えております。紙面をお借りして各科の先生方、検査室、看護部にお礼申し上げます。なお血液内科は副業として昨年閉じた腎膠原病内科の窓口もやっています。主に二次検診の尿蛋白、膠原病の診断と治療のための他院への紹介です。専門治療の紹介先は、ツインクリニックの斉藤公基、平鹿総合病院の月曜・腎膠原病外来（大学派遣奥山慎・佐藤隆太）、大学病院腎膠原病内科（第三内科涌井秀樹）です。近医にて治療可能な場合は、病診連携により逆紹介を積極的に行なっています。ご配慮をよろしくおねがいたします。当血液内科の業績としましては、H20年の内科学会第185回東北地方会にて検診の HbA1c 検査で偶然発見されたヘモグロビン変異体（高橋、検査室工藤真希子さん、佐々木美奈子さん）の学会発表と日本泌尿器科学会雑誌2009年580-585ページにて「Docetaxel を含む多剤併用化学療法後に11q23異常を伴う治療関連白血病を発症した進行前立腺癌の一例」（泌尿器科沼倉一幸先生、高橋）を発表しました。

<文責 高橋直人>

## 神経内科

スタッフ（非常勤） 石黒英明

神経内科は、毎週水曜日に外来業務を行った。今年度当初は石黒英明医師と成瀬聡医師が交代で診療にあたり、2008年10月に成瀬医師が辞職し代わって柴野健医師が担当することとなった。外来のみの診療で入院診療は行っていない。

外来では1日あたり30-70名程度の患者さんの診療を行っている。

主病名では脳血管障害（脳梗塞）後遺症、認知症、パーキンソン病などが多くを占めている。また数多くはないものの脊髄小脳変性症／多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、重症筋無力症、筋ジストロフィー症、末梢神経障害などの疾患の診療にもあたった。

秋田県全体で神経内科（専門）医が少なく、神経疾患／神経難病の患者さんが神経内科（専門）医の治療を受けることはなかなか容易でないことが多い。

当院では今後も引き続きこの神経内科外来で神経疾患／神経難病を継続的に診療していくことが必要と思われる。

<文責 石黒英明>

## 脳神経内科

スタッフ：医師 塩屋 斉  
外来診察助手 高橋香里（月、水、金）  
看護師 吉岡麻子（木）

診療時間：午前は8時45分から、午後は1時30分から

診療内容：月曜日（午後）・・・頭痛外来  
火曜日（午後）・・・脳ドック  
水曜日（午後）・・・頭痛外来  
木曜日（午前）・・・脳神経内科・頭痛外来  
金曜日（午前）・・・脳神経内科・頭痛外来

平成19年1月から頭痛外来を開始しましたが開始1年後に毎日新聞、1年半後には朝日新聞に取材に来ていただき記事を掲載していただきました。また秋田県医師会広報委員会から番組Drに推薦していただきテレビ・ラジオ番組で頭痛について話す機会をいただきました。少しずつですが頭痛外来の存在を認知してきていただいているようです。今後とも啓発・啓蒙活動に努めたいと思います。頭痛で初診される患者さんは全員当日CT scanを施行しております。放射線科スタッフの皆様には無理を聞いていただきありがとうございます。

入院患者さんは下記の如く脳卒中の患者さんが7-8割を占めますが入院当日あるいは翌日にはリハビリテーションを依頼してベットサイドから早期のリハビリテーションを開始しております。リハビリテーション科スタッフの皆様にも無理を聞いていただきありがとうございます。

今後とも宜しくお願い致します。

平成20年度頭痛初診患者数：総計766人（男性217人、女性549人）

片頭痛： 382人（男性82人、女性300人）  
緊張型頭痛： 227人（男性67人、女性160人）  
群発頭痛： 8人（男性7人、女性1人）  
神経痛： 94人（男性39人、女性55人）  
副鼻腔炎： 76人（男性25人、女性51人）  
外傷後： 7人（男性2人、女性5人）  
その他（くも膜下出血、脳出血、動脈解離、髄膜炎、他）：33人

上記の頭痛初診患者さんの中で薬物乱用頭痛は60人で全体の7.8%を占めていた。

平成20年度疾患別入院患者数：総計83人

脳梗塞： 51人  
一過性脳虚血発作： 3人  
脳出血： 5人  
椎骨脳底動脈循環不全： 2人  
めまい発作： 5人

片頭痛発作： 3人  
神経痛発作： 2人  
症候性てんかん： 2人  
髄膜炎： 2人  
その他： 8人（動脈解離、脳脊髄液減少症、頸髄症、他）

論文発表：

塩屋 斉：「頭痛外来」へようこそ、秋田県臨床内科医会誌、2008、27巻、3-8

講演・出演・学会発表：

平成20年1月26日（土）

第25回秋田県脳神経研究会「頭痛外来の現状：開設から1年を経過して」  
（秋田ビューホテル）

平成20年8月18日（月）

A B S ラジオ「みんなの健康」「悩ましい慢性頭痛①：片頭痛」

平成20年8月25日（月）

A B S ラジオ「みんなの健康」「悩ましい慢性頭痛②：緊張型頭痛」

平成20年10月3日（金）

A K T テレビ「健康でけっこー」「片頭痛」

平成20年11月20日（木）

Headache Clinical Seminar：頭痛診療の実践（問診編）（日常よく遭遇する頭痛編）  
（ホテルプラザアネックス横手）

平成20年12月26日（金）

湯沢市養護教諭部会冬期研修会「頭痛外来へようこそ」  
湯沢雄勝広域交流センター

<文責 塩屋 斉>

## 消化器科

### 消化器内科医師

船岡 正人

藤盛 修成

奥山 厚

小田嶋 傑

武内 郷子

中島 裕子 (週 2 回腹部超音波検査担当)

佐藤美知子 (週 1 回腹部超音波検査担当)

近年消化器内科医不足が顕著になってきている秋田県内において、当院消化器内科は常勤医 5 名と腹部超音波検査を担当していただいている非常勤の中島先生、佐藤先生により消化管・肝胆膵領域ともに非常に充実したスタッフにめぐまれて診療を行っている。

消化管の分野では毎年上部・下部内視鏡検査数の増加が認められていたが、平成20年度はさらに件数が増加し、内視鏡室のスペース、人的キャパシティの限界に達していると考えられる。さらに自院での検査による発見された症例のみでなく横手、湯沢、大仙、由利本荘地区からも紹介される食道・胃・大腸の早期癌症例も増え、食道・胃・大腸の粘膜下層剥離術症例が増加した。

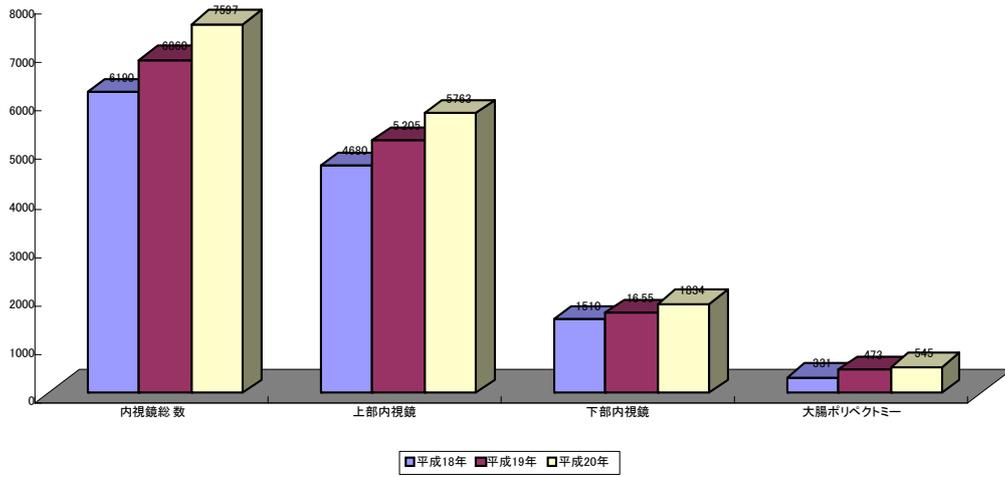
肝胆膵の分野でも肝疾患の専門医である船岡先生、武内先生と腹部超音波検査のスペシャリストである中島先生、佐藤先生により高いレベルの診療がなされている。肝疾患においてはウイルス性肝炎、自己免疫性肝炎など種々の肝炎に対する診断と治療、食道・胃静脈瘤に対する硬化療法も積極的におこなっており他院よりの紹介も増加している。肝癌の治療では RFA や放射線科との共同による TAE をおこなっており、肝疾患に対しては自院での完結した診療がおこなえている。

課題としてはさらに高度な医療を行うために、超音波内視鏡などの最新機器の導入が必要なことと消化器内科のスペース・コメディカルの拡充が必要と思われる。

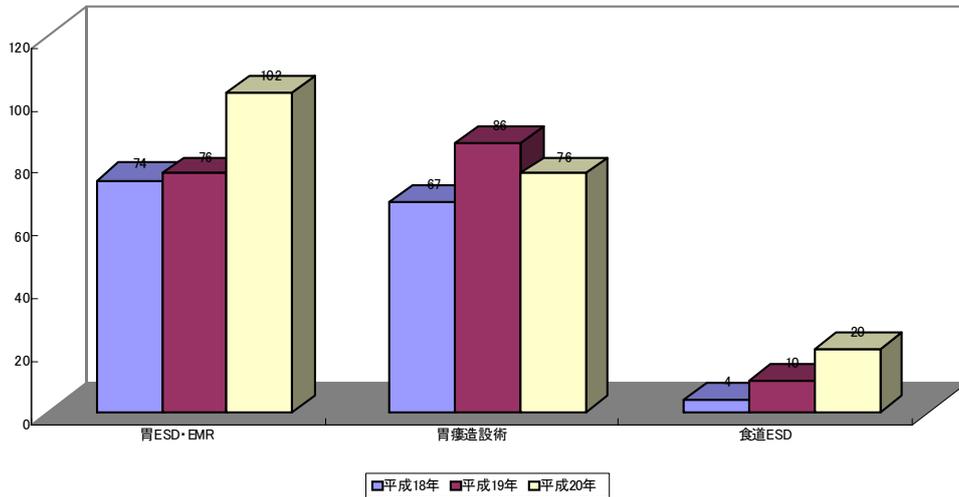
今後は研究発表や症例報告などの学会活動や臨床研究などを行い県南における消化器疾患の臨床をさらに高度なものを目指し、また消化器専門医を育成するために後期研修医を積極的に受け入れられるよう教育システムを構築することが重要と考えている。

<文責 小田嶋 傑>

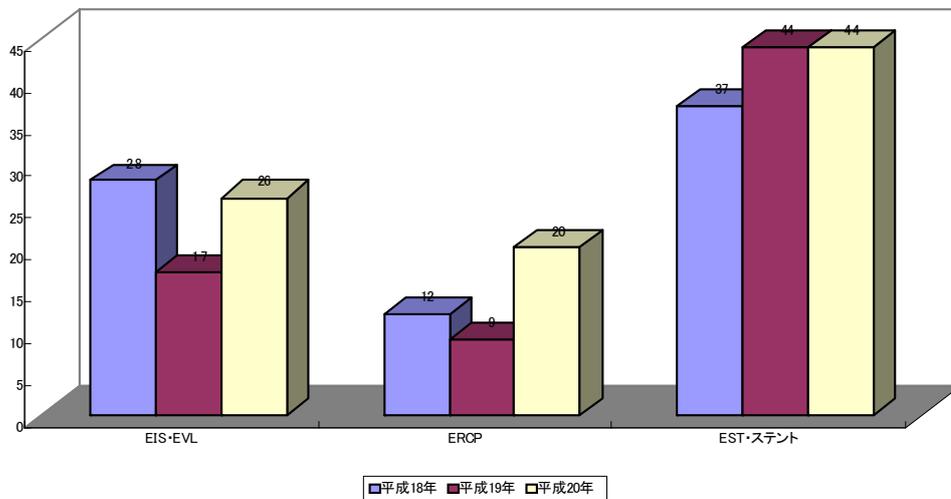
内視鏡検査数の推移①



内視鏡検査数の推移



内視鏡検査数の推移③



## 循環器科

### スタッフ

#### 常勤医師

##### 循環器科科長

根本 敏史 (平成15年5月1日から 現在在職中)

和泉千香子 (平成8年6月1日から 現在在職中)

#### 検査技師

平塚多喜雄 (生理検査室)

川越 弦 (臨床工学技士)

柏谷 肇 (臨床工学技士)

大嶋 聡子 (生理検査室)

#### 外来診察助手(循環器科担当)

金子 洋子

### 検査 (平成20年4月1日から平成21年3月31日)

|                   |                      |
|-------------------|----------------------|
| 心臓カテーテル検査         | 14件                  |
| 心臓超音波検査           | 1903件 (経食道心臓超音波検査含む) |
| 頸動脈超音波検査          | 343件                 |
| ホルター心電図           | 313件                 |
| トレッドミル            | 14件                  |
| 24時間心電血圧計         | 3件                   |
| ペースメーカー植え込み       | 18件 (新規 9、交換 9)      |
| 体外ペーシング           | 2件                   |
| 下大静脈フィルター留置       | 0件                   |
| 血圧脈波検査            | 433件                 |
| CCO用スワンガンツカテーテル留置 | 1件                   |

循環器科の体制は、これまで通り、根本・和泉の2人体制である。看護助手の金子さん、平塚さん、大嶋さん、ME川越さん・柏谷さんの協力のもと、何とか今まで通りの業務をこなした。

仕事内容としては大きく変化はないものの、血管撮影装置が9月に更新され、10月から心臓カテーテル検査を再開した。これに伴い、心臓CTでの冠動脈病変の確認も可能である上、息止めが困難でCTに不適である患者の評価も可能となった。研修医への心カテーテル検査指導も再開することができた。

外来は両名とも週3回をこなしている。循環器疾患は慢性疾患であるため、患者数が減ることではなく、増加傾向に変わりはないが、マンパワーに限界があるため、長期処方に対応している。助手の金子さんもスムーズな患者さばきで、外来の流れが滞らないように活躍してくれている。高齢患者が多く、滞りがちな外来であるが、何とか予約時間どおりに進む様子ががんばっていきたい。

入院に関しては、例年通り、高齢患者の心不全が多かった。入院で改善しても、退院後の服薬

コンプライアンス、塩分制限、生活指導を遵守できずに悪化し、入院を繰り返す症例も多く、高齢患者のコントロールの難しさを実感している。

ペースメーカー植え込みは昨年以上に増加した。5-7年前に植え込んだ症例のバッテリーが切れ、交換の時期が重なったこともあるが、新規の9例と過去最高となった。植え込み症例の高齢化も進んできているが、特別な問題もなく経過順調である。ペースメーカークリニックはME柏谷さんが精力的に行ってくれている。訪問看護や施設入所中の患者には出前クリニックも行ってくれており、医師との連携も順調で、交換もスムーズにできている。

高齢化が進む現在の当地域の現状と、メタボリックシンドロームの概念に基づく健診の開始により、循環器科患者は増加傾向にある。できれば患者教育、予防教室なども行いたいところではあるが、マンパワーの問題から厳しいのが現実である。

<文責 和泉千香子>

## 呼吸器科・アレルギー科

### <スタッフ>

常勤医師 齋藤紀先

### <診療内容の概要>

現在、月（小川）、水・金（齋藤）に外来を行っている。外来では、気管支喘息、肺気腫、肺炎等については主に小川が、その他呼吸器全般、特殊なアレルギー疾患については齋藤が担当している。近年は肺癌患者が増加しており、入院および外来にて化学療法を行っている。また、肺気腫、結核・非結核性抗酸菌後遺症等による慢性呼吸不全患者に対し、在宅酸素や NIPPV（非侵襲的陽圧換気装置）を導入している。

### <特徴・特色>

アレルギー疾患はストレスにより増悪する（心身相関する）という報告が多々あり、また呼吸器科においては、過呼吸症候群、原因不明の胸苦、肺がん患者末期など、心療内科的および緩和医療的アプローチが非常に重要となってきた。当科では昨年度から、問診・症状によって心療内科的アプローチが必要と考えられた場合には積極的に心理テストを行い、心身症、神経症、うつ病等の鑑別を行い、心身両側面から診断・治療を行うよう心がけている。

<文責 齋藤紀先>

## 心療内科

### <スタッフ>

非常勤医師 榊田理恵

看護師 赤平綾子

心療内科は毎週火曜日、金曜日と診療を行っている。完全予約制で、スタッフは医師一名（榊田理恵）、看護師一名（赤平綾子）の体制で行っている。

火曜日は榊田理恵が外来を担当している。外来のほか、内科・小児科等からの依頼を受けて入院・外来で診療している。子供の心療内科、ということで、やはり15歳以下の子どもは多く、不登校が最も多く、他に発達障害（自閉症など）、引きこもり、が受診されている。「子どもの心療内科」と標榜しているとはいえ、診療エリアは多岐に渡り、ターミナルケア、老年期のうつ、などに及んでいる。受診人数は20人／日である。一人につき30分を目安としているが、初診の場合特に1時間は超えることが多い。また、看護師との役割分担においてもスムーズで、看護サイドの受容的かわりにより、受診している患者さんたちの自己治癒力が引き出されているようである。今年度5月より臨床心理士によるカウンセリングの導入されている。ただし5月21日より6月30日まで、榊田理恵が急病で休診となり、医師一名体制のため外来受診の際に対応に苦慮した。火曜日、金曜日に臨床心理士によるカウンセリング、箱庭療法などを定期的に行っている。

<文責 榊田理恵>

## 外科

### スタッフ

常勤

- ・丹羽 誠 (S55秋田卒)
- ・吉岡 浩 (S59自治卒)
- ・粕谷孝光 (S63秋田卒)
- ・加藤 健 (H6秋田卒)

### 専門医修練認定施設関係

- ・日本外科学会専門医制度関連施設
- ・日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設
- ・日本消化器病学会専門医制度認定施設

### 人事動向

- ・若林先生が平成20年4月より秋田赤十字病院へ転出し、更なる研修をされることとなった。毎週(水)大森病院の藤田先生に手術応援をして頂いた。
- ・臨床研修医1年目の本郷麻衣子先生、寺田考太先生が外科研修をされた。

### 診療関係

- ・ストマ外来、リンパ浮腫外来：長く担当して下さった秋田大学医学部看護学科准教授村山志津子先生は、ストマ外来をH20/4に佐藤美夏子WOC-Nr.へ引き継ぎ、リンパ浮腫外来は月2回H21/3まで担当された。秋田市以外では唯一の外来であり、継続可能であることは患者さんに喜ばれた。
- ・乳腺外来は週1回完全予約制としたが、慢性的に待ち時間が長くなり、体制の見直しが必要となっている。
- ・緩和ケア外来を開設した。他院からの紹介患者があること、外来患者での対応の場の確保を念頭に月曜日午後完全予約制とした。現実的には、各科外来のサポートに回り、助言などで対応している。
- ・肺悪性で縦隔郭清を前提とする症例の手術では、秋田大学呼吸器外科小川教授に今年も御指導を頂いた。
- ・門脈合併切除を前提とする症例の手術で、秋田赤十字病院外科佐藤勤先生に御指導を頂いた。
- ・加藤先生が消化器外科専門医を取得され、研修の責任者となった。加藤先生を中心に小川感染管理認定看護師と協力し、SSIサーベイランスをみすえて、閉創時の手術道具、縫合結紮糸などで種々の改善を始めた。
- ・病棟での連携（医師同士、看護師、薬剤師、リハビリ、事務）を今まで以上に心がけ診療の質向上に努めた。

### 学会発表

- ・平成20年7月11日 日本消化器病学会東北支部 第185回例会 秋田市

「保存的治療で治癒後対側破裂来した特発性食道破裂の1例」

市立横手病院外科 加藤健、本郷麻依子、粕谷孝光、吉岡浩、丹羽誠

- ・平成20年7月16日 第63回 日本消化器外科学会総会 札幌市

「直腸局所再発 GIST に対し経直腸的ラジオ波焼灼療法が有効であった1例」

市立横手病院外科 加藤健、若林俊樹、粕谷孝光、吉岡浩、丹羽誠

- ・平成20年7月5日 第3回 秋田県腹部救急研究会 秋田市

「保存的治療で治癒後対側破裂来した特発性食道破裂の1例」

市立横手病院外科 本郷麻依子、加藤健、粕谷孝光、吉岡浩、丹羽誠

#### 院外活動

- ・横手市栄養師連絡協議会総会研修会 講演『最新のがん治療について』丹羽誠  
H20/7/31 横手市
- ・由利本荘市看護協会看護の日市民講演会 講演『あなたが癌を告知されたら』丹羽誠  
H20/5/17 由利本荘市
- ・第9回秋田県チーム医療研究会主題『チーム医療で行う安全管理』当番世話人及び特別講演座  
長 丹羽 H21/2/21 秋田市
- ・第3回腹部救急研究会主題『消化管穿孔の診断・治療』当番世話人デスカッション司会 丹羽  
H20/7/5 秋田市

#### 手術件数

| 疾患名         | 数  | 鏡視下手術件数、再掲 |
|-------------|----|------------|
| 食道悪性        | 3  |            |
| 胃良性         | 4  |            |
| 胃悪性全摘       | 14 |            |
| 胃悪性幽門側      | 29 | 8          |
| 胃悪性噴門側      |    |            |
| 胃悪性その他      | 5  |            |
| 胆摘(胆石・胆のう炎) | 57 | 57         |
| うち術中胆管切石    |    |            |
| 膵・胆管・胆のう悪性  | 14 |            |
| 胆道良性        |    |            |
| 肝悪性         | 1  | 1          |
| うちRFA       | 1  |            |
| 結腸良性        | 2  |            |
| 結腸悪性        | 45 | 4          |
| 直腸悪性        | 14 |            |
| 成人虫垂切除      | 25 | 22         |
| 腸閉そく        | 13 |            |
| 腹膜炎         | 4  | 2          |
| 小腸良性        | 1  |            |
| 炎症性腸疾患      | 1  |            |

|             |     |   |
|-------------|-----|---|
| その他の消化器     | 5   |   |
| 成人鼠径・大腿ヘルニア | 61  |   |
| 閉鎖孔ヘルニア     |     |   |
| 痔核          | 7   |   |
| 痔ろう・肛門周囲膿瘍  | 4   |   |
| その他         | 6   |   |
| 乳腺良性        | 4   |   |
| 乳腺悪性        | 16  |   |
| 肺良性         | 3   |   |
| 肺悪性         | 2   |   |
| 副甲状腺        |     |   |
| 甲状腺良性       | 1   |   |
| 甲状腺悪性       | 4   |   |
| 中心静脈ポート     | 20  |   |
| 成人その他       | 63  |   |
| 小児鼠径ヘルニア    | 11  |   |
| 小児虫垂切除      | 4   | 4 |
| 小児その他       | 1   |   |
|             | 444 |   |
| 全麻          | 319 |   |
| 腰麻          | 17  |   |
| 局麻          | 108 |   |
|             | 444 |   |

<文責 丹羽 誠>

## 整形外科

### スタッフ

平成20年4月1日現在のスタッフ氏名

医師：江畑公仁男

看護師：小野ゆう子

田中京子

工藤真美

事務：藤原真喜子

### 【外来】

H. 19年度に続き、常勤医1名に秋田大学整形外科医局より週に4日の外来応援をいただき外来を継続した。

外来患者数 1497人/月、94人/日であった。

### 【入院】

入院患者総数 5745人/年、16人/日であった。ほとんどが手術患者であり、入退院がめまぐるしい印象であった。

### 手術件数

|            |            |    |
|------------|------------|----|
| 脊椎         |            | 65 |
| 腰椎         | ヘルニア切除術    | 26 |
|            | 開窓術        | 16 |
|            | PLIF       | 12 |
| 胸椎         |            | 1  |
| 頸椎         | 拡大術        | 6  |
|            | 固定術        | 4  |
| 骨折         |            | 53 |
|            | 大腿骨骨接合術    | 24 |
|            | 大腿骨人工骨頭挿入術 | 5  |
|            | その他骨接合術    | 24 |
| 人工関節置換術    |            | 9  |
|            | THA        | 3  |
|            | TKA        | 6  |
| 手根管・肘部管開放術 |            | 4  |

|     |    |
|-----|----|
| その他 | 31 |
|-----|----|

|    |     |
|----|-----|
| 総数 | 162 |
|----|-----|

医師不足によりなかなか手が回らず、脊椎関連の紹介患者さんと骨折の患者さんを中心に手術を行った1年であった。脊椎固定術12例のうち6例が多椎間固定であり、年々難しい症例が多くなってくる印象である。

整形外科医師の充足によりもっと十分な対応をできるように期待したい。

<文責 江畑公仁男>

# 小児科

stuff 医師：常勤 小松 明  
 非常勤 小山田 遵（第1、3月曜日午前中）  
 看護師：佐藤幸子（～H. 21. 3. 31）、石田亜希子、  
 伊藤良子（H21. 3. 19～）  
 事務：福田富美子（～H21. 2. 6）、高橋香里（H. 20. 4. 1～）、  
 梅川素子（H. 21. 1. 26～）

## 外来

診療時間：午前8時30分～、午後14時～ 内容：表－I～IVを参照。

表－I：外来診療内容

|   | 午 前  | 午 後                    |
|---|------|------------------------|
| 月 | 一般診療 | 検査、予防接種（冬季インフルエンザワクチン） |
| 火 |      | 乳児健診                   |
| 水 |      | 予防接種                   |
| 木 |      | 1、3週 乳児健診              |
| 金 |      | 慢性外来                   |

表－II：各外来患者数

|            | 一般<br>外来 | 乳 児 健 診 |     |      | 予防<br>接種 | 慢性<br>外来 | 合 計   |
|------------|----------|---------|-----|------|----------|----------|-------|
|            |          | 1か月     | 7ヶ月 | 10ヶ月 |          |          |       |
| H. 20/ 4月  | 2180     | 30      | 5   | 19   | 171      | 97       | 2502  |
| 5月         | 2220     | 37      | 6   | 22   | 115      | 118      | 2518  |
| 6月         | 1896     | 29      | 8   | 12   | 209      | 121      | 2275  |
| 7月         | 1747     | 35      | 9   | 18   | 281      | 124      | 2214  |
| 8月         | 1906     | 30      | 10  | 18   | 148      | 127      | 2239  |
| 9月         | 2032     | 37      | 15  | 11   | 111      | 101      | 2307  |
| 10月        | 2647     | 34      | 9   | 17   | 122      | 111      | 2940  |
| 11月        | 2352     | 18      | 8   | 8    | 280      | 154      | 2820  |
| 12月        | 2342     | 23      | 11  | 26   | 510      | 168      | 3062  |
| H 2 1 / 1月 | 2099     | 32      | 5   | 18   | 212      | 112      | 2478  |
| 2月         | 2146     | 28      | 6   | 14   | 100      | 125      | 2419  |
| 3月         | 2081     | 18      | 14  | 17   | 127      | 101      | 2358  |
| 合計         | 25631    | 351     | 106 | 200  | 2385     | 1459     | 30132 |

表－Ⅲ：予防接種内訳

|       |       |       |         |
|-------|-------|-------|---------|
| DPT三混 | MR    | BCG   | DT二混    |
| 830   | 383   | 183   | 7       |
| おたふく  | 水痘    | 麻疹    | 風疹      |
| 130   | 101   | 2     | 2       |
| ポリオ   | ビームゲン | エイムゲン | インフルエンザ |
| 2     | 4     | 2     | 739     |
|       |       |       | 合計      |
|       |       |       | 2385    |

- \* 一日平均患者数 約 82.6人（土、日、祝日も含む）。前年比 -10.0人。
- \* 外来患者総数 30132人。前年比 -3654人。
- \* 一般外来患者総数 25631人。前年比 -8155人。
- \* 乳児健診受診総数 657人。前年比 -85人。
- \* 予防接種外来受診総数 2385人。前年比 +507人。
- \* 慢性外来患者総数 1459人。前年比 +100人。

表－Ⅳ 医療機関別紹介件数

| 他医療機関から紹介      |     | 当院から紹介         |     |
|----------------|-----|----------------|-----|
| 朝日ヶ丘レディースクリニック | 200 | 高橋耳鼻咽喉科眼科クリニック | 133 |
| 高橋耳鼻咽喉科眼科クリニック | 57  | 平鹿総合病院         | 32  |
| しおたこどもクリニック    | 19  | (耳鼻咽喉科 17)     |     |
| おかだ小児科医院       | 11  | (小児科 12)       |     |
| ダイゴクリニック       | 4   | (産婦人科 1)       |     |
| 秋田大学附属病院       | 3   | (第二内科 1)       |     |
| (産婦人科 1)       |     | (整形外科 1)       |     |
| (小児科 2)        |     | 阿部耳鼻咽喉科医院      | 26  |
| えのきこどもクリニック    | 2   | 山田眼科医院         | 3   |
| 石橋小児科          | 2   | 秋田大学附属病院 小児科   | 3   |
|                |     | 雄勝中央病院 耳鼻咽喉科   | 2   |
|                |     | おのぼ高橋小児科クリニック  | 2   |
|                |     | すずき皮膚科クリニック    | 2   |
| 他 医療機関         | 11  | 他 医療機関         | 23  |
| 合計             | 309 | 合計             | 226 |

## 病棟（入院）

3 A病棟（整形外科との混合病棟、定床15床）。新生児入院は2 F 新生児室にて管理。

表－V：疾患別入院数

|            |             | 患者数 |
|------------|-------------|-----|
| 感染症        | 気管支炎・肺炎等 1) | 265 |
|            | 上気道炎 2)     | 69  |
|            | 喉頭炎 3)      | 29  |
|            | 腸炎 4)       | 126 |
|            | 歯肉・口内炎 5)   | 43  |
|            | 中耳炎         | 16  |
|            | 髄膜炎・脳炎 6)   | 6   |
|            | インフルエンザ     | 21  |
|            | その他 7)      | 13  |
| 気管支喘息      |             | 85  |
| 精神・神経系     | 熱性けいれん      | 7   |
|            | 無熱性けいれん     | 4   |
|            | その他 8)      | 2   |
| 周産期        | 高ビリルビン血症    | 2   |
| 川崎病        |             | 7   |
| 代謝・内分泌系 9) |             | 8   |
| その他 10)    |             | 7   |
| 合計         |             | 710 |

- 1) マイコプラズマ感染症 39例、百日咳肺炎 2例、RSV 感染症 49例を含む。
- 2) 溶連菌感染症 6例、咽頭結膜熱 1例を含む。
- 4) ロタウイルス感染症 32例、サルモネラ感染症 1例、カンピロバクター感染症 1例、病原性大腸菌感染症 2例を含む。
- 5) 手足口病 13例、ヘルパンギーナ 16例、ヘルペスウイルス感染症 14例
- 6) ムンプス性髄膜炎 2例を含む。
- 7) 突発性発疹症 10例、ムンプス 1例、SSSS 1例を含む。
- 8) 心身症 1例、片頭痛 1例
- 9) 1型糖尿病 1例、GH 分泌負荷試験 5例、周期性 ACTH・ADH 分泌異常症 2例
- 10) アレルギー性紫斑病 2例、肥厚性幽門狭窄症 3例、腸重積 1例、結節性紅斑 1例含む。

表－Ⅵ：年齢別入院患者数

|        | 男児  | 女児  | 合計  |
|--------|-----|-----|-----|
| 0－1才   | 67  | 44  | 111 |
| 1－2才   | 97  | 72  | 169 |
| 2－3才   | 68  | 37  | 105 |
| 3－4才   | 54  | 41  | 95  |
| 4－5才   | 40  | 17  | 57  |
| 5－6才   | 21  | 19  | 40  |
| 6－8才   | 27  | 21  | 48  |
| 8－10才  | 21  | 23  | 44  |
| 10－12才 | 9   | 10  | 19  |
| 12－14才 | 4   | 8   | 12  |
| 14才～   | 1   | 9   | 10  |
| 合計     | 409 | 301 | 710 |

### 院外活動

明照保育園、県南愛児園（園医）

横手市 4ヶ月、1才6ヶ月、3才児健診、ももの家講話

### 最後に

外来、入院ともに患者数は落ち込みが続いている。特に、外来患者数は目に見えて減り続けているのが現状だ。科の特性から、どうしても感染症中心になってしまうため、何らかの感染症が流行しないと、外来患者数は伸びない。外来が伸びないと入院も増えるわけではないのである。

年が明けてH21年になり、2月から病院増改築が始まった。患者用駐車場は病院後ろへと遠ざかり、工事の音はうるさく、患者様には迷惑のかけどおしである。順調な工事の進行と、一日も早い竣工を願うばかりである。

表－Ⅶ：年次患者数の推移

|    | H. 16 | H. 17 | H. 18 | H. 19 | H. 20 |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|
| 外来 | 36781 | 38559 | 38025 | 33786 | 30132 |
| 入院 | 904   | 828   | 801   | 717   | 710   |

<文責 小松 明>

## 産婦人科

### スタッフ

平成20年4月1日現在のスタッフ氏名

常勤医師 畑澤 淳一、滝澤 淳

看護師 藤沢 親子、佐藤 志穂

### 概要、平成20年度特記事項、業務内容

平成20年度の産婦人科は医師は畑沢、滝澤に研修医で変わりなく、病棟・外来ともに大きな異動などはありませんでした。ただ外来の佐藤志穂さんが出産され、年度の後半を産休・育休でお休みされ、代わりに日替わりで助産師、看護師がカバーしてくれました。また病棟の永田咲子さんが4月にご結婚され、その後妊娠されるというおめでたいこともありました。

なんといっても、今年度の産婦人科の大きなイベントは県立衛生看護学院の横手市への移転でした。助産科の学生に対し、畑沢、滝澤ともかなりの時間の講義を依頼され、年度の前半は毎週のように学院に出かけ、講義をしました。看護学生に講義をする機会など、当然ながらこれまで全くなく、スライド作りなどゼロからのスタートでした。10人と少人数ではありましたが、こちらも勉強になり、大変よい経験をさせていただきました。また6月には病院実習として産婦人科を回ることになり、外来、分娩、入院に分かれて実習してもらいました。こちらもスタッフが半年以上前から準備を重ね、指導にあたりました。分娩が見られるか不安だったのですが、あまり見ることが出来ない双胎の分娩や、帝王切開なども見学してもらえ、なかなか充実した実習になったと思います。

本来の仕事に関しては、かなり厳しい状況が続きました。分娩数は私が横手病院に赴任した頃の半数近くまで落ち込み、手術に関しては、昨年度末がかなり忙しかったのに比較して今年度末は全麻の手術で月1-2件という状態でした。

これは周囲の施設より分娩環境が悪いこともあるのですが、自分が普段感じている以上に、秋田県の、また横手近辺の分娩数が減っていることも大きな要因と思います。秋田大学の医局は、かねてから産婦人科医師の集約化の意向をもっており、いろいろ悩みが多い1年でした。今後、横手病院産婦人科がどうなっていくかは、私にも全く予想が付きませんが、今できる最善のことを少しずつ積み重ねていくしかないと思いながら仕事をしています。とりあえず延び延びになっていた病棟の改築を出来るだけ早く行えるように病院にはお願いしました。

冒頭にも述べたように今年は仕事外ではおめでたいことが多く、年の後半には助産師の菅原沙綾さんと齊藤紗希子さんも結婚され、大変喜ばしいと思います。

これをはずみに、来年度の改築に向けて引き続きがんばっていきたいと思います。

各種数値資料及びグラフ等

○平成20年度手術数 143件

|                       |     |
|-----------------------|-----|
| 腹式子宮全摘術(子宮筋腫・子宮腺筋症)   | 14件 |
| 腔式子宮全摘術(子宮筋腫)         | 9件  |
| 腹腔鏡+腔式子宮全摘術           | 1件  |
| 腔式子宮全摘術(子宮頸部異形成・上皮内癌) | 3件  |
| 子宮筋腫核出術               | 3件  |
| 腹腔鏡下子宮筋腫核出術           | 1件  |
| 腔式子宮筋腫切除              | 2件  |
| 子宮脱根治術                | 12件 |
| 腔閉鎖術                  | 2件  |
| 腔壁形成術                 | 1件  |
| 子宮腔部円錐切除術             | 6件  |
| 広汎子宮全摘術               | 1件  |
| 子宮体癌手術                | 4件  |
| 卵巣囊腫手術(腹腔鏡)           | 13件 |
| 内膜症手術(腹腔鏡)            | 2件  |
| 卵巣腫瘍手術(開腹)            | 3件  |
| 卵巣癌手術                 | 7件  |
| 腹腔鏡検査                 | 1件  |
| 子宮鏡検査                 | 7件  |
| 子宮鏡下子宮筋腫切除            | 1件  |
| 子宮外妊娠手術(開腹)           | 1件  |
| 流産手術                  | 13件 |
| 人工妊娠中絶術               | 4件  |
| 人工妊娠中絶術+腔式卵管結紮術       | 1件  |
| 帝王切開                  | 24件 |
| その他                   | 7件  |

○平成20年度分娩数 155件

|        |      |
|--------|------|
| 自然分娩   | 102件 |
| 圧出分娩   | 6件   |
| 吸引分娩   | 6件   |
| 鉗子分娩   | 12件  |
| 骨盤位牽出術 | 5件   |
| 帝王切開術  | 24件  |

< 文責 畑沢淳一 >

## 眼 科

スタッフ

医師 月曜日：早川真弘 木曜日：阿部早苗  
看護師 小川 伸 小松則子 高橋正子 小沼時子  
事務 小松陽子 高橋朋子

診察時間 月曜日 1時30分～5時 木曜日 2時～5時

静的量的視野検査；79件 網膜光凝固術；12件（H20. 4～H21. 3）

これまで月曜日の午後のみであった診察を、平成21年2月から月曜日および木曜日の週2日体制に増やして診療を行っています。月曜日は早川、木曜日は阿部が主に担当しています。

スタッフの変化とともに、眼底カメラがかなり老朽化していましたので、新しいデジタル眼底カメラへを購入しました。写真をとってすぐにその場で、患者さんに自分の眼底写真を見ていただけますので、病気やその状態を理解していただくのに、非常に役に立っています。（特に、血糖コントロールが悪い糖尿病網膜症の患者さんには効果的面です。）

また、視野検査の結果を経時的に表示できるシステムを導入し、緑内障患者さんへ説明の際に表示して、治療への意欲を薄れさせないように工夫しています。

週2日体制になったのに伴い、当院で行われた人間ドックの2次検診も積極的に受け入れるようになりました。こちらは今後も受診される方が増加するものと思われます。

「情報の80%は視覚から」と言われています。横手地方は人口に比べて眼科医が少なく、今後はさらなる患者増が見込まれます。患者さんがよりよい視環境で過ごせるよう、スタッフ一同頑張りますのでよろしく願いいたします。

<文責 阿部早苗>

## 泌尿器科

### スタッフ

医師 神崎正俊

病棟 木下文子（3B病棟師長）

外来 藤坂マリ子、得平やす子

人工透析室 和泉奈保子、小田嶋明子、小川伸（6月～感染管理認定看護師研修へ）、  
中村勇美子、佐々木美紀子（5月～11月まで病休）、小田嶋千枝子、  
伊藤優子（6月より）、佐々木智美、高階利子（4月より）

ME 川越弦、柏谷肇

泌尿器科は平成20年4月より前任の沼倉医師の転勤に伴い、後任として神崎が診療を担当した。

### 〈平成20年度特記事項〉

尿路結石患者の減少や手術室Aの工事に備えて、リースしていた体外衝撃波結石破砕装置を撤収した。

以前は、手術室で施行した尿管ステント留置術、腎瘻造設術、経皮的シャント血管拡張術などの局所麻酔の手術は可能な限り外来透視室で施行した。

### 〈日常業務〉

月～金まで毎日午前は外来診療、午後は検査・手術、夜間透析（月水金）は23時半まで土曜日や祝日も休むことなく血液透析施行。

### 〈概要〉

外来患者延べ人数は12557人（平成18年度14640人、平成19年度13377人）と年々減少しているが、透析患者延べ人数は6188人（平成19年度5866人）と増加している。

これは、当院で新規導入した透析患者を患者の希望通り他院へ紹介しなかったためである。

その結果、透析室ベット数10床に対して90%以上の稼働率になってしまったため緊急や臨時に対応できなくなる可能性が高くなってしまった。

透析患者の増加が今後困難である以上、泌尿器科患者が増加しないと今後厳しい状態になるので精進したい。

入院患者延べ人数は2745人（平成18年度4720人、平成19年度3282人）と年々減少、平均在院日数は12.0日（平成18年度18.3日、平成19年度10.8日）と前年より延長・前々年よりは短縮。

手術件数は154件（平成18年度107件、平成19年度172件）と前年より減少・前々年よりは増加。先に述べたとおり尿路結石患者が減少したため、体外衝撃波結石破砕やTULは減少した。シャント造設も再手術が少なくなった為、全体のシャント再建件数は減少した。

その代わりに、全身麻酔での開腹術件数は20件（平成19年度11件）と増加した。

平成20年度は経験豊富な常勤医師3名のいる平鹿総合病院に紹介する件数が多かったが、紹介

件数を減らすことによって平成21年度は入院患者や手術件数の増加は期待できると思われる。

|              |     |
|--------------|-----|
| 体外衝撃波結石破碎術   | 17  |
| 後腹膜膿瘍切開排膿術   | 1   |
| 前立腺全摘        | 13  |
| 前立腺摘除        | 4   |
| 膀胱結石摘出       | 1   |
| 経尿道的前立腺切除術   | 21  |
| 経尿道的膀胱腫瘍切除術  | 22  |
| TUL          | 6   |
| TUR凝固術       | 2   |
| 尿道ステント       | 5   |
| 膀胱水圧拡張術      | 3   |
| 包茎手術         | 5   |
| カルンケル        | 1   |
| 除睾術          | 12  |
| 陰嚢水腫         | 3   |
| CAPDカテ留置     | 1   |
| CAPDカテ抜去     | 1   |
| 経皮的シャント血管拡張術 | 4   |
| シャント静脈瘤切除術   | 1   |
| 内シャント造設術     | 17  |
| 膀胱瘻造設術       | 4   |
| 腎瘻造設術        | 6   |
| 総計           | 154 |

<文責 神崎正俊>

## 放射線科

### スタッフ

常勤医師：平野 弘子、泉 純一（平成20年5月～）

応援医師：秋田大学放射線科より随時。

### 特記事項

平成19年9月に血管撮影装置が使用不可となり、平成19年10月～20年9月までは、透視装置（A室）を使用して血管造影検査を施行していたが、平成20年10月からは、新しい血管撮影システム（Bransist Safire SHIMADZU社製）での検査が可能となった。

現在、当科での血管撮影・IVRのほか、心臓カテーテル検査、胆道系造影・IVR等の広い範囲での検査に使用されている。

平成19年度より、当院での画像診断は完全にモニター読影へと移行しており、今年度の放射線科常勤医の増員に伴い、高精細モニターによる読影システム（NV-1000 HITACHI社製）を1セット増設した。

### 業務内容

平成20年度に放射線科で行われた画像読影件数は、CT全体では6592件、MRI全体は1538件であった。造影剤使用検査は、CTが2598件、MRIが279件施行されていた。造影CTの内、CT angiography が160件、このうち93件が心臓CTであった。当科で読影した単純撮影写真は、他診療科からの依頼による胸部単純写真等が406件で、この内、胸部単純が400件あった（表.1）。病診連携室を介しての他施設依頼の撮影・読影件数は、CT 300件、MRI 411件、胸部単純写真の撮影・読影は17件であった。依頼CT,MRIは、各々読影件数全体の4.6%、26.7%になる（表.1）。

検診業務としては、脳ドックが127件あり、頭部MRI & MRA が125件、頭部CTが2件施行されていた。健診の胸部単純写真の読影は5451件であった（表.1）。今年度より、CTによる内臓脂肪量の測定が開始され、214件の依頼があった。

血管造影検査は23件施行された。このうちTAE等のIVRが19件であった。この内訳は、肝細胞癌に対するTAEが15件、膵癌術後出血に対するTAEが1件、胃静脈瘤に対するB-RTOが1件、重症膵炎に対するリザーバ留置が1件、大腿骨頸部骨折術中出血に対するTAEが1件であった（表.2）。

過去5年間の検査・読影件数の推移を示した（表.3）。CT機種は、平成17年5月より、MDCT（Philips、Brilliance CT40）に移行している。MRIは、0.5T機種（GE、SIGNA Contour）を継続使用している。昨年度と比べると、CTの総件数は増加し、MRIの総件数はほぼ横ばいであった。CT angiographyが208件から160件と減少が目立ったが、心臓CTは93件と微増していた。血管撮影検査数は23例で、装置故障前の平成18年度に近い数値であった。

平成20年度 検査・読影件数

| 検査      | 件数          |
|---------|-------------|
| CT 総計   | 6592        |
| 病診      | 300 (4.6%)  |
| 脳ドック    | 2           |
| MRI 総計  | 1538        |
| 病診      | 411 (26.7%) |
| 脳ドック    | 125         |
| 胸部写真 総計 | 5851        |
| 健診      | 5451        |
| 病診      | 17          |

表.1

| 血管造影検査 |    |        |    |
|--------|----|--------|----|
| 検査治療内容 |    | 疾患名    |    |
| 肝 TAE  | 15 | 肝細胞癌   | 16 |
| その他塞栓術 | 3  | 胆管癌    | 1  |
| リザーバ留置 | 1  | 胃静脈瘤   | 1  |
| 撮影のみ   | 4  | 重症膵炎   | 1  |
|        |    | 消化管出血  | 1  |
|        |    | 膵癌術後出血 | 1  |
|        |    | 大腿骨頸部  | 1  |
|        |    | 骨折術中出血 |    |
|        |    | 左上腕外傷  | 1  |
| 合計     | 23 | 合計     | 23 |

表.2

放射線科で施行された年度別の読影件数

|      | 平成 16 年度 | 17 年度 | 18 年度 | 19 年度 | 20 年度 |
|------|----------|-------|-------|-------|-------|
| CT   | 4921     | 4637  | 5747  | 6026  | 6592  |
| MRI  | 1813     | 1974  | 2050  | 1544  | 1538  |
| 血管造影 | 37       | 15    | 21    | 17    | 23    |

表.3

<文責 平野弘子>

# リハビリテーション科

## I. リハビリテーション科・組織

|       |                           |
|-------|---------------------------|
| 江畑公仁男 | (副院長兼整形外科科長兼リハビリテーション科科長) |
| 高橋 信夫 | (技師長) あんま・マッサージ師          |
| 小田嶋尚人 | (副技師長) 理学療法士              |
| 高橋 貞広 | (主任) 理学療法士                |
| 高橋 洋  | (主任) 作業療法士                |
| 高橋 茂実 | (副主任) 理学療法士               |
| 鈴木 務  | (副主任) 理学療法士               |
| 熊谷 剛  | (副主任) 作業療法士               |
| 渋谷 美紀 | 助手                        |

## II. 定例スケジュール

|       |                    |
|-------|--------------------|
| 毎週月曜日 | : リハビリテーション科ミーティング |
| 第1月曜日 | : 3A病棟カンファレンス      |
| 第1金曜日 | : 4病棟カンファレンス       |
| 第2金曜日 | : 3B病棟カンファレンス      |
| 第2木曜日 | : 2病棟カンファレンス       |

## III. 業務

### 1. 院外活動

#### ① 横手市ディサービスセンター康寿館

|          |        |       |
|----------|--------|-------|
| 5月26日(月) | 高橋 貞広、 | 鈴木 務  |
| 5月27日(火) | 高橋 洋、  | 高橋 茂実 |
| 5月28日(水) | 小田嶋尚人、 | 熊谷 剛  |
| 5月29日(木) | 高橋 貞広、 | 鈴木 務  |
| 5月30日(金) | 高橋 洋、  | 高橋 茂実 |

#### ② ヘルパー講習 横手市社会福祉協議会 小田嶋尚人

|        |                   |
|--------|-------------------|
| 10月 3日 | 「福祉用具、住宅改修に関する知識」 |
| 10月15日 | 「リハビリテーションの基礎知識」  |

### 2. 研修活動

平成20年

|           |               |
|-----------|---------------|
| 4月12日～13日 | 熊谷 剛          |
| 秋田市       | 第17回秋田県作業療法学会 |
| 4月19日     | 高橋 洋          |
| 秋田市       | 第1回秋田県NST研究会  |

|            |                         |
|------------|-------------------------|
| 5月 8日～10日  | 高橋 洋                    |
| 仙北市        | 第1回上肢の神経機能回復セミナー        |
| 5月10日～11日  | 高橋 茂実                   |
| 秋田大学       | 秋田県理学療法士会講習会            |
| 5月15日～17日  | 小田嶋 尚人                  |
| 福岡市        | 第43回日本理学療法学会大会          |
| 6月14日      | 熊谷 剛                    |
| 平鹿病院       | 秋田県言語聴覚士協会公開講演会         |
| 6月29日      | 小田嶋 尚人、 鈴木 務            |
| 秋田市        | 秋田県理学療法士会サポートトレーナー研修会   |
| 7月12日      | 小田嶋 尚人                  |
| 秋田市        | 秋田県理学療法士会小児理学療法ネットワーク   |
| 7月18日～21日  | 小田嶋 尚人、 鈴木 務            |
| 秋田市        | 第90回全国高等学校野球選手権記念大会秋田大会 |
| 7月19日      | 熊谷 剛                    |
| 秋田市        | 秋田県整形外科疼痛セミナー           |
| 7月27日      | 小田嶋 尚人、 高橋 茂実、 鈴木 務     |
| 由利本荘市      | 秋田県理学療法士会理学療法週間公開事業     |
| 8月24日      | 熊谷 剛                    |
| 秋田市        | 秋田県作業療法士会現職者共通研修会       |
| 9月 6日～ 7日  | 小田嶋 尚人                  |
| 弘前市        | 平成20年度弘前大学保健学科臨床実習指導者会議 |
| 9月27日      | 高橋 茂実、 鈴木 務             |
| 秋田市        | 秋田県理学療法士会講習会            |
| 10月 4日     | 高橋 貞広、 鈴木 務             |
| 秋田市        | 第12回東北緩和医療研究会           |
| 10月 9日～12日 | 小田嶋 尚人、 鈴木 務            |
| 札幌市        | 第43回日本理学療法士協会全国学術研修大会   |
| 10月11日～12日 | 熊谷 剛                    |
| 盛岡市        | ハンドセラピーセミナー             |
| 10月18日     | 小田嶋 尚人                  |
| 秋田市        | 秋田県理学療法士会小児福祉部研修会       |
| 10月18日～19日 | 高橋 洋、 熊谷 剛、 鈴木 務        |
| 仙台市        | 東北摂食・嚥下研修会、ADL講習会       |
|            | 高橋 貞広                   |
| 青森市        | 青森県立保健大学理学療法学科臨床実習指導者会議 |
| 10月23日     | 熊谷 剛                    |
| 美郷町        | 美郷町立金沢小学校学校訪問指導         |
| 10月31日     | 小田嶋 尚人、 高橋 洋            |
| 秋田市        | 秋田大学医学部保健学科臨床実習指導者連絡協議会 |
|            | 高橋 洋                    |

|            |       |                               |
|------------|-------|-------------------------------|
|            | 秋田市   | 日本めまい平衡医学会                    |
| 11月1日      |       | 高橋 貞広、 高橋 茂実、<br>鈴木 務、 熊谷 剛   |
|            | 大仙市   | 秋田県理学療法士会県南ブロック研修会            |
| 11月15日～16日 |       | 小田嶋 尚人                        |
|            | 東京都   | 日本理学療法士協会公益事業リーダー研修会          |
| 11月18日     |       | 高橋 洋                          |
|            | 湯沢市   | 秋田県市町村共済組合会議員選挙代議員会           |
| 11月19日     |       | 小田嶋 尚人                        |
|            | 秋田市   | 秋田県理学療法士会企画調整会議               |
| 11月28日～29日 |       | 熊谷 剛                          |
|            | 大阪府   | 日本肩関節学会肩の運動機能研究会              |
| 12月6日      |       | 小田嶋 尚人、 高橋 貞広                 |
|            | 秋田市   | 秋田県理学療法士会第5回理事会               |
|            |       | 高橋 洋                          |
|            | 秋田市   | 第2回秋田県NST研究会                  |
| 平成21年      |       |                               |
|            | 2月28日 | 小田嶋 尚人、 高橋 貞広、<br>高橋 茂実、 鈴木 務 |
|            | 秋田市   | 秋田県理学療法士会学会、総会                |
|            | 3月20日 | 高橋 洋                          |
|            | 秋田市   | 秋田県作業療法士会研修会                  |

### 3. 臨床実習受け入れ状況

#### 理学療法

|                 |           |        |
|-----------------|-----------|--------|
| 青森県立保健大学        | 総合臨床実習    |        |
| 6月2日(月)～        | 7月12日(土)  | 山本 晶平  |
| 弘前大学医学部保健学科     | 臨床実習Ⅳ     |        |
| 4月7日(月)～        | 5月31日(土)  | 野村 朋子  |
| 秋田大学医学部保健学科     | 4年        |        |
| 4月7日(月)～        | 5月31日(土)  | 吉田 佳那子 |
| 6月9日(月)～        | 8月2日(土)   | 伝農 秀樹  |
| 新潟リハビリテーション専門学校 | 3年        |        |
| 8月18日(月)～       | 10月10日(金) | 花脇 香奈  |

#### 作業療法

|             |           |       |
|-------------|-----------|-------|
| 秋田大学医学部保健学科 | 4年        |       |
| 8月27日(月)～   | 10月13日(土) | 後藤 朝美 |

### IV. 人事

平成21年3月31日 技師長 高橋信夫(マッサージ師)退職

## V. 総括

昭和44年から勤続されていた高橋信夫技師長が平成21年3月31日で退職なされました。永年にわたりリハビリテーション科の発展にご尽力いただき深く感謝申し上げます。

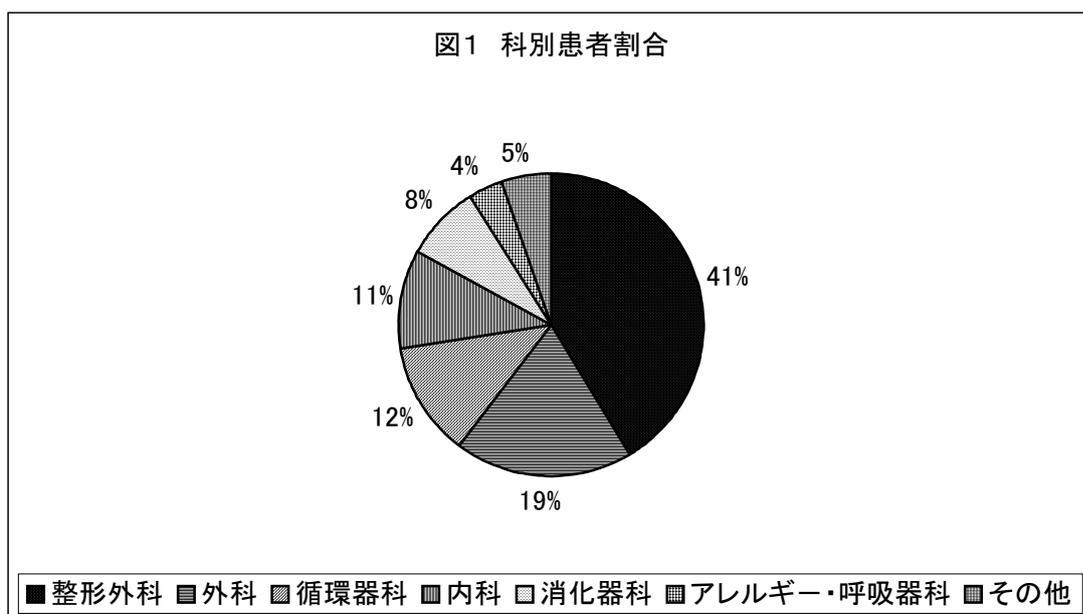
平成20年4月1日の診療報酬改定は小幅なものになった。具体的には脳血管疾患リハビリテーション料Ⅱが新設されたこと、算定制限後のリハビリテーションにおいて月13単位まで算定可能になり医学管理料が削除されたこと、呼吸器リハビリテーションの対象疾患にCOPDが組み込まれたことが大きな変更点だった。

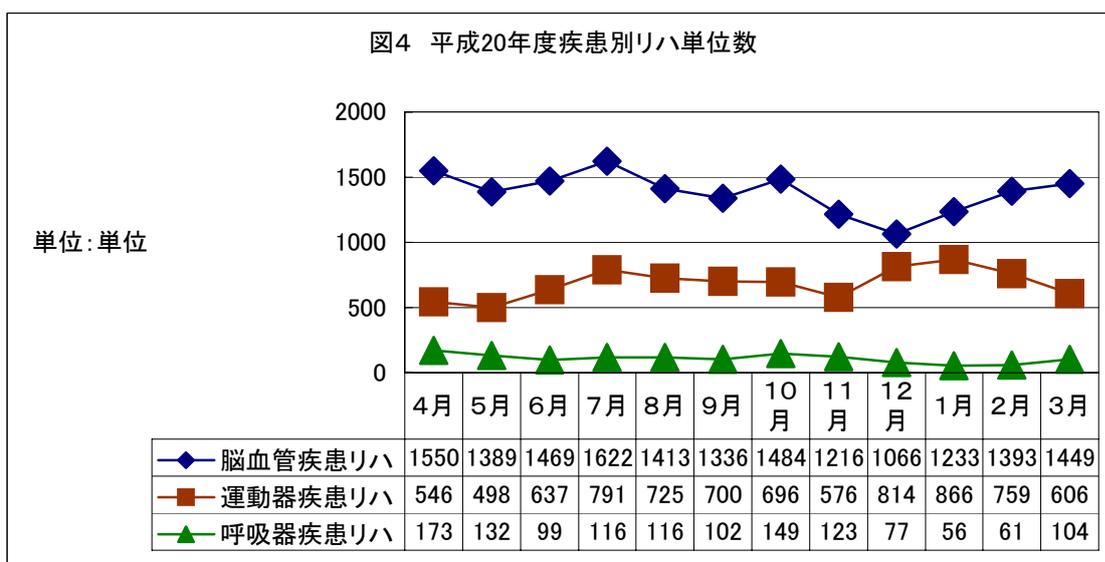
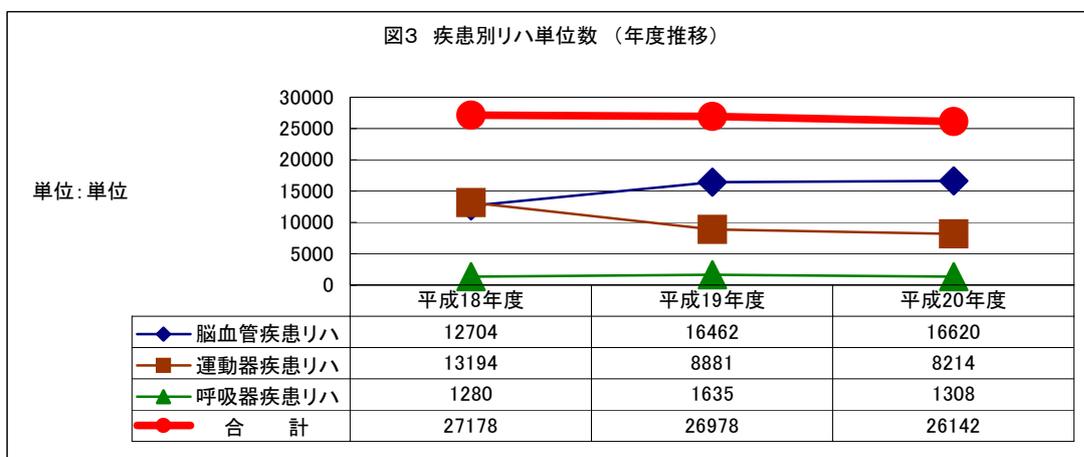
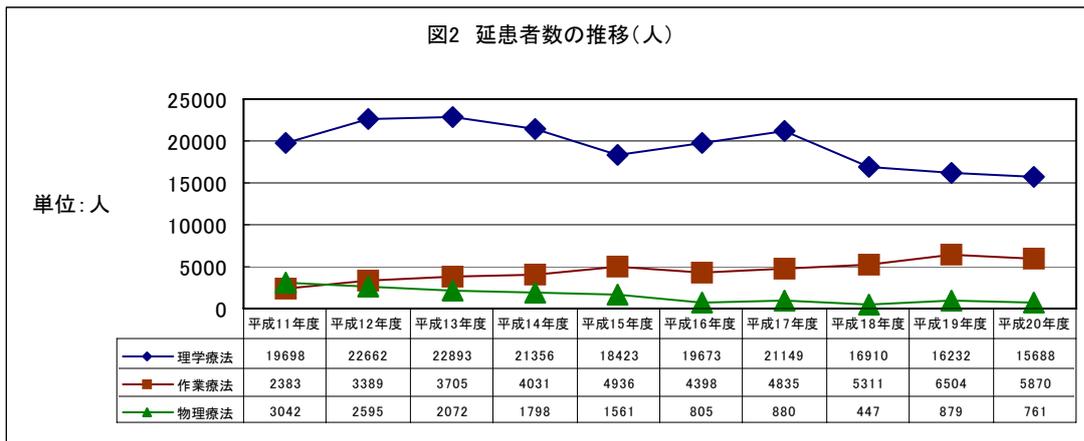
平成20年度1年間の科別割合は（図1）、整形外科41%・外科19%・内科系35%であり整形外科が最も多くの割合を占めていた。年間延患者数（単位数）は漸減していた（図2）。これは脳血管疾患リハが増加しているものの運動器疾患リハが減少傾向にあることに由来しているものと考えられる（図3）。疾患別リハビリテーション単位数の月別集計（図4）を見ると、「脳血管リハ」と「運動器リハ」の単位数の間で冬期間の変化が逆に動いているのが分かる。昨年度・一昨年度はこの動きが連動していたものであるが今年度だけ逆相に動いた。今後の経過を観察していかなければならない。

院外活動として、今年度は「第90回全国高等学校野球選手権大会秋田大会」へのトレーナー活動に参加した。全県レベルへのアピールとしてこのような機会があれば積極的に参加していきたい。

院内での他部門との連携活動では、「摂食嚥下機能」の院内勉強会での講師を行った。また例年通り臨床実習指導を行った。このような活動は、日常の診療だけでなく学術的な活動につながるので今後も継続して行きたい。

全体を通じて、今まで継続してきている活動や新たに行った活動があり、各スタッフがそれぞれの役割を果たしてきていると思われる。





<文責 小田嶋尚人>

# 救急センター

## <救急センターの理念>

当院は救急告示医療機関である。

病院の基本理念：地域の人々に信頼される病院を目指します。

安心できる良質な医療の提供

心ふれあう人間味豊かな対応

に鑑みて、全職員(非常勤職員も含めて)の協力の下に、24時間体制で良質な救急医療を実践する。

## <スタッフ>

救急センター責任者 吉岡 浩

専任看護師 和賀美由紀

## <救急患者取り扱い状況> H20年4月1日～H21年3月31日分

1. 取り扱い患者数 12,070人

### 2. 来院時間と来院方法

患者数

| 区 分   | 標ぼう時間内 | 標ぼう時間外  | 深夜(再掲) | 計       |
|-------|--------|---------|--------|---------|
| 救 急 車 | 234人   | 446人    | 115人   | 680人    |
| そ の 他 | 0人     | 11,390人 | 918人   | 11,390人 |
| 計     | 234人   | 11,836人 | 1,033人 | 12,070人 |

### 3. 患者取り扱い診療科

| 診療科目  | 患者数    | 診療科目  | 患者数  | 診療科目  | 患者数     |
|-------|--------|-------|------|-------|---------|
| 内 科   | 4,366人 | 脳 外 科 | 0人   | 精 神 科 | 0人      |
| 小 児 科 | 5,766人 | 循環器科  | 0人   | そ の 他 | 136人    |
| 整形外科  | 803人   | 産婦人科  | 104人 |       |         |
| 外 科   | 893人   | 眼 科   | 2人   | 計     | 12,070人 |

### 4. 患者の症状など

| 区 分   | 疾病程度(患者数(人)) |     |     |     | 受付後の扱い(患者数(人)) |     |     |     |
|-------|--------------|-----|-----|-----|----------------|-----|-----|-----|
|       | 軽 症          | 中等度 | 重 症 | 死 亡 | 帰 宅            | 入 院 | 転 送 | その他 |
| 交通事故  | 61           | 6   | 3   | 2   | 58             | 9   | 3   | 2   |
| 急 病   | 10,469       | 472 | 286 | 27  | 10,442         | 758 | 27  | 27  |
| そ の 他 | 702          | 12  | 29  | 0   | 701            | 41  | 2   | 0   |
| 計     | 11,232       | 490 | 318 | 29  | 11,201         | 808 | 32  | 29  |

## <H20年度総括>

救急医療機能のさらなる充実のために、質の改善に対して取り組み、救急医療をチームで効果的に行うシステム維持、向上を目指して努力していかねばと考えます。

<文責 和賀美由紀>

## 薬 剤 科

|      |       |
|------|-------|
| 科長   | 石田 良樹 |
| 主任   | 佐々木洋子 |
| 主任   | 渡邊 圭子 |
| 主任   | 小宅 英樹 |
| 薬剤師  | 谷川 裕子 |
| 主査   | 小川由起子 |
| 薬剤助手 | 大山 丹子 |
| 薬剤助手 | 北小路由紀 |
| 薬剤助手 | 柿崎 幸  |
| 薬剤助手 | 高橋 紀子 |
| 薬剤助手 | 近江真梨子 |
| 薬剤助手 | 伊藤 優子 |

### 概要及び特記事項

#### ●持参薬を電子カルテ上に処方型式で入力開始（11月～）

医療資源の有効利用と投薬の安全性担保のため、患者が入院時に持参した薬剤（持参薬）を当院の処方と同様に電子カルテ上への入力を開始した。これにより当院処方と持参薬が電子カルテ画面上で一元管理できるため、重複投与や相互作用の確認、薬剤の中止指示入力等が電子カルテ上で可能になった。

#### ●外来化学療法の調整開始（12月～）

入院については以前から当科にて抗がん剤の調整を行っていたが、外来についてはマンパワーの不足から処方監査に留め、実際の調整は外来看護師に依頼していた。しかしながら抗がん剤化学療法の調整に伴う被爆が問題視されている事を受けて外来化学療法についても12月より薬剤科で担当することとした。マンパワーの有効利用のため、業務の再構築を行い、薬剤助手が当日の点滴調整をコーディネートすることにより外来分調整の待ち時間を短縮するシステムを構築した。

統計資料（平成20年度実績）

|               |        |
|---------------|--------|
| 院外処方箋発行枚数     | 92243枚 |
| 院内処方件数        | 21484枚 |
| 薬剤管理指導 2      | 1202件  |
| 薬剤管理指導 3      | 1640件  |
| 退院時指導件数       | 564件   |
| 麻薬指導件数        | 166件   |
| 入院処方枚数（持参薬含む） | 33245件 |
| 持参薬鑑別件数（入院）   | 1509件  |

|              |        |
|--------------|--------|
| 注射剤セット件数(定期) | 41482件 |
| 無菌製剤処理 1 件数  | 774件   |
| 無菌製剤処理 2 件数  | 8800件  |
| 外来化学療法件数     | 634件   |
| 入院化学療法件数     | 719件   |

<文責 石田良樹>

## 診療放射線科

### スタッフ

|            |         |                |
|------------|---------|----------------|
| 診療放射線技師技師長 |         | 藤原 理吉          |
|            | 総括室長    | 岡根 和義          |
|            | 室長      | 郡山 邦夫          |
|            | 室長      | 法花堂 学          |
|            | 主任      | 細谷 謙           |
|            | 副主任     | 斉藤 千尋          |
|            |         | 佐藤 裕基          |
| 看護師        | : 小松 則子 | 平成20年10月31日まで  |
|            | 小松田江利子  | 平成20年11月 1 日から |
| 看護助手       | : 佐藤富美江 |                |
| 受付         | : 三浦 真理 |                |

### 平成20年度目標と評価

- 1、ホスピタリティを大切にし、改善を行う。  
評価：毎朝のミーティングで常に患者様への対応の見直しや対応マニュアルの読み合わせを行い接遇の向上に努めたが、明らかな改善は無かった。
- 2、他職種との連携を図る。  
評価：造影剤使用検査や MRI 検査の危険性について、又は自然放射線や散乱線についての研修会を行い、他職種の理解が得られ連携・啓発になった。
- 3、医療技術の向上を目指す。  
評価：CT 検査で内臓脂肪測定導入に向けて低線量で行うためのパラメータを検討した。また、院内・院外の研修会等に積極的に参加し技術の向上に努めた。

### 院内・院外の発表

|                         |              |       |
|-------------------------|--------------|-------|
| コ・メディカル研究発表会            | 平成20年11月21日  |       |
| 電離箱を利用した透視室散乱線量の測定      |              | 細谷 謙  |
| 「はかるくん」を利用した院内自然放射線量の測定 |              | 細谷 謙  |
| 秋田県医療学術交流会              | 平成20年11月30日  |       |
| CT 内臓脂肪測定導入に向けたパラメータの検討 |              | 佐藤 裕基 |
| 秋田県放射線技師会 県南支部 学術大会     | 平成20年12月 6 日 |       |
| 「はかるくん」を利用した院内自然放射線量の測定 |              | 細谷 謙  |
| 秋田県放射線技師会 学術大会          | 平成20年 5 月25日 |       |
| CT 内臓脂肪測定導入に向けたパラメータの検討 |              | 佐藤 裕基 |

CTリンパ管造影による乳癌センチネルリンパ節描出の経験 齊藤 千尋  
 INNERVISION (インナービジョン) 誌2008年8月号 投稿  
 メタボリックシンドロームにおけるワークステーションの活用 法花堂 学

平成20年度 放射線科カンファランスと担当者 (演題)

平成20年4月23日      こんなに役立つ放射線      岡根 和義  
 平成20年5月22日      バイオポジティブ効果について      藤原 理吉  
 平成20年6月25日      造影剤副作用について      法花堂 学  
 平成20年7月23日      アナログCT実験      齊藤 千尋  
 平成20年8月21日      CTにおけるIPを用いたX線ビームの検討      佐藤 裕基  
 平成20年10月2日      インプレーンZIP512について      郡山 邦夫  
 平成20年12月18日      GSDFグレースケール標準関数の搭載と測定      藤原 理吉  
 平成20年1月28日      Subtraction法併用脳血管CT-Angioにおける撮影方法の検討      法花堂 学  
 平成20年3月5日      デジタルマンモにおけるRhフィルターの有用性      齊藤 千尋

平成16年度を100とした時の推移

| 年 度     | 16年度     | 17年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 |     |
|---------|----------|------|------|------|------|-----|
| 一般撮影    | 総撮影件数    | 100  | 101  | 107  | 93   | 93  |
|         | 出張撮影件数   | 100  | 111  | 132  | 121  | 126 |
|         | 乳房撮影件数   | 100  | 138  | 169  | 170  | 199 |
| 健診      | 胸部撮影人数   | 100  | 106  | 135  | 133  | 140 |
|         | 胃透視検査人数  | 100  | 101  | 123  | 110  | 105 |
| 造影・透視検査 | 消化管      | 100  | 87   | 110  | 110  | 126 |
|         | 肝・胆・膵    | 100  | 67   | 75   | 73   | 87  |
|         | 泌尿器・産科領域 | 100  | 149  | 170  | 72   | 122 |
|         | 整形領域     | 100  | 569  | 553  | 386  | 353 |
|         | 心カテ・血管造影 | 100  | 72   | 84   | 34   | 51  |
| CT人数    | 100      | 105  | 131  | 137  | 149  |     |
| MRI人数   | 100      | 106  | 110  | 101  | 84   |     |

件数、人数の推移

|         |          | 16年度   | 17年度   | 18年度   | 19年度   | 20年度   |        |
|---------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般撮影    | 総撮影件数    | 外来     | 25,797 | 25,999 | 26,950 | 22,746 | 22,558 |
|         |          | 入院     | 11,195 | 11,416 | 12,765 | 11,579 | 11,938 |
|         |          | 合計     | 36,992 | 37,415 | 39,715 | 34,325 | 34,496 |
|         | 総曝射回数    | 外来     | 42,504 | 42,493 | 43,398 | 35,203 | 34,939 |
|         |          | 入院     | 14,532 | 14,830 | 16,290 | 14,435 | 15,083 |
|         |          | 合計     | 57,036 | 57,323 | 59,688 | 49,638 | 50,022 |
|         | 出張撮影件数   |        | 4,857  | 5,411  | 6,415  | 5,856  | 6,104  |
|         | 乳房撮影件数   |        | 1,083  | 1,494  | 1,826  | 1,844  | 2,155  |
| フィルム枚数  |          | 65,224 | 61,557 | 46,066 | 485    | 2,527  |        |
| 健診      | 胸部撮影人数   |        | 3,938  | 4,183  | 5,326  | 5,232  | 5,515  |
|         | 胃透視検査人数  |        | 880    | 888    | 1,078  | 969    | 923    |
| 造影・透視検査 | 消化管      |        | 398    | 345    | 438    | 439    | 501    |
|         | 肝・胆・膵    |        | 230    | 155    | 173    | 168    | 199    |
|         | 泌尿器・産科領域 |        | 232    | 345    | 394    | 167    | 282    |
|         | 整形領域     |        | 59     | 336    | 326    | 228    | 208    |
|         | 心カテ・血管造影 |        | 76     | 55     | 64     | 26     | 39     |
| CT      | 人数       | 外来     | 3,209  | 3,319  | 4,179  | 4,457  | 4,828  |
|         |          | 入院     | 1,198  | 1,325  | 1,576  | 1,578  | 1,750  |
|         |          | 合計     | 4,407  | 4,644  | 5,755  | 6,035  | 6,578  |
|         | フィルム枚数   |        | 17,249 | 27,748 | 31,522 | 1,361  | 1,231  |
| MRI     | 人数       | 外来     | 1,520  | 1,673  | 1,677  | 1,351  | 1,275  |
|         |          | 入院     | 342    | 299    | 373    | 536    | 293    |
|         |          | 合計     | 1,862  | 1,972  | 2,050  | 1,887  | 1,568  |
|         | フィルム枚数   |        | 9,405  | 10,480 | 10,330 | 1,270  | 1,260  |

平成17年、18年、19年の健診胸部撮影人数に転記の誤りがあり訂正。

<文責 藤原理吉>

## 看護科

平成20年度、医療安全管理室に医療安全管理専任として看護師が配置されたことと、感染管理認定看護師の長期研修を終え、12月復職し感染管理担当となり感染研修会・ICTなど組織的活動に力を入れている。組織の安全管理、危機管理上の課題が明確となり重要な役割を果たしていると言える。また、電子カルテ稼働から半年経過した4月、新採用看護師が入職し、今年度から電子カルテ説明を医療情報管理と看護科で行いました。また、長期休暇（育児休暇）後の職員にも同様に行い、現場にスムーズに入ることができたと思います。産休育児休暇は前年度より多く、また、様々な理由で中途退職者が前年度より多く、人員配置では不足をきたし厳しい勤務状況の一年でありました。

|        |         |         |
|--------|---------|---------|
| 平成20年度 | 入院総患者数  | 79,874人 |
|        | 一日平均患者数 | 218.8人  |
|        | 稼働率     | 87.5%   |
|        | 平均在院日数  | 15.3日   |

### 看護科理念・方針

- 理念 1、人間愛に基づいた患者様中心の看護を提供します。  
2、地域の人々と信頼関係を築ける看護を提供します。
- 方針 1、専門性を高め、質の高い看護の提供とやりがいの感じられる看護を目指します。  
2、病院の健全経営に積極的に参加します。

### 1、平成20年度看護科目標

- 1) 質の高い看護を提供する。
- 2) 確認を徹底し、医療事故を未然に防ぐ努力をする。
- 3) 患者様が満足される接遇を心がける。
- 4) 電子カルテを活用し、利便性の向上と業務の効率化を図る。

### 2、結果評価

- 1) 固定チームナーシングの確立をし責任ある看護を行う事を目標に、毎年研修会に参加し取り組んでおりますが、まだ完全な固定チームナーシングには至っていない。今後も継続して取り組む必要がある。医療安全管理専任、褥瘡管理専任、12月より感染管理担当として配置し院内ラウンド・研修会など組織的活動をしたことで管理体制強化を図ることができた。
- 2) 大きな事故に繋がるようなことはなかったが、薬剤の間違い、確認ミスなどあった。現場では分析し今後の課題としたい。
- 3) 職員の対応で患者様や家族の方に不愉快な思いをさせた事例もあった。患者様アンケート調査結果も踏まえて更に努力していきたいと思っております。
- 4) 電子カルテ稼働してから看護記録・看護計画・実施確認など業務改善されてきている。電子カルテに伴い、手術室もクリパスバリアンス・手術記録について運用方法など検討中で来年度の課題としたい。

### 3、次年度への課題

- ①入院基本料10：1について人員配置のため看護必要度導入や業務量調査を活用した適正な人員配置と離職防止に努めていきたい。
- ②増改築工事に向けてソフト面の強化と、入院患者がスムーズに入院できるようベットコントロールに協力する。

#### 平成20年度看護科職員数

|         | 保健師 | 助産師 | 看護師 | 准看護師 | 看護補助者 | 合計<br>(人) |
|---------|-----|-----|-----|------|-------|-----------|
| 平成20年4月 | 2   | 8   | 153 | 7    | 35    | 206       |
| 平成21年3月 | 3   | 8   | 148 | 7    | 37    | 203       |

臨時職員含む

#### ○看護要員関連

##### 1) 看護要員

- 2008・4・1 正職員看護師 143名
- 2008年度採用看護師 6名
- 2008年度正職員退職者 6名 (退職率3.9%)

##### 2) 平成20年度産休・育児休業・長期病欠・退

- 月平均の育児休暇 7.8名
- 平成20年度新規育休者 4名
- 育休取得日数合計 3,600日
- 育休一人平均取得日数 300日 (取得期間：最低3ヶ月～最長3年)
- 産休育休者は常時、8～10人
- 2008・4月現在、看護科正職員 平均年齢34.6歳

#### ○横手市事業への協力

- ・救護班 2008・5/31 あさくら地区登山 (男鹿三山) 寫田麗子
- 7/6 市民登山の集い (駒ヶ岳) 高橋礼子 和泉奈保子
- 8/16 送り盆まつり (横手) 佐々木佳子 高橋共子
- 8/18 ゲートボール (大森) 小田嶋恵美子
- 10/11 朝倉地区秋のハイキング (乳頭温泉郷) 小田嶋千枝子
- 2009・2/17 ぼんでん (横手) 照井洋子 丹久美
- ・まちの保健室 「ハッピータウンよねや」 内にて血圧測定・健康相談 年3回参加
- ・いきいきサロン 地域に出向いて血圧測定・健康相談 年3回参加

○院外発表

- 2008・7/9 「経鼻内視鏡導入後の評価と今後の課題」 (仙台市) 加藤真由美  
9/12 第4回県南緩和医療研究会 (横手市) 高橋共子  
10/15・16 第47回全国自治体病院学会 (福井県) 泉谷真理子 高橋はるみ  
10/26 第26回岩手地区消化器内視鏡研究会「経鼻内視鏡検査」  
(岩手県) 加藤真由美  
11/9 第25回秋田県消化器内視鏡技師研究会 (秋田市) 加藤真由美  
12/7 第27回東北地区消化器内視鏡研究会 (仙台市) 加藤真由美  
12/4 横手平鹿地区支部看護研究発表会 (横手市) 大日向希  
2009・1/30 第24回日本静脈経腸栄養学会 (鹿児島) 櫻谷麻美  
2/21 第9回秋田県チーム医療研究会 (秋田市) 高橋礼子

○院外講師

- 10/3 在宅看護の基礎知識 (横手市) 高橋礼子  
11/7 性教育講座 (横手市) 藤沢親子  
11/7 性感染症セミナー (横手市) 藤沢親子

○認定看護師活動実績

皮膚・排泄ケア認定看護師

院外研修講師等

- 1) 県南地区自治体病院からのコンサルテーションへの対応  
①市立大森病院 褥瘡回診 (6月～3月 月1回)  
②町立羽後病院 褥瘡回診 (9月～3月 月1回)  
③横手興生病院 褥瘡研修講師 (11月・1月・3月の3回)  
3) アルケア(株) ストーマケアセミナー 実習講師 (5/31青森市)  
4) 介護養成研修2級課程「基本介護技術・体位姿勢交換、褥瘡への対応」  
講師 (11/11 秋田県南部老人福祉総合エリア)  
5) 看護職カムバック研修「新しいスキンケア(技術研修)」  
講師 (2008・1/28 県立衛生看護学院)

院内研修講師 3回

<文責 木村カズ子>

## 2 病棟

### <構成スタッフ> (H20年4月1日現在)

|      |             |       |       |       |       |
|------|-------------|-------|-------|-------|-------|
| 師長   | 高橋千鶴子       |       |       |       |       |
| 主任   | 照井 洋子 (助産師) |       |       |       |       |
| 助産師  | 佐藤 悦子       | 池田 弘恵 | 田中 由江 | 吉川ちあき |       |
|      | 高橋 智美       | 斉藤紗希子 | 菅原 沙綾 | 永田 咲子 | 鈴木 智都 |
| 看護師  | 赤川恵理子       | 高田真紀子 | 佐々木史子 | 松本 優子 | 高橋 優子 |
|      | 佐々木 薫       | 安藤 宏子 | 森本 和子 | 金子由美子 | 佐藤 友紀 |
|      | 岡部 沙織       | 鈴木 美香 | 高橋亜由美 | 佐藤 千春 |       |
|      | 高橋 希        | 高橋かおり | 黒沢奈保子 |       |       |
| 看護補助 | 土田 輝子       | 長澤 唱子 | 木津川恵美 |       |       |
| 病棟事務 | 佐藤 裕香       |       |       |       |       |

### <特徴>

- ・定床数 59床 (重症加算室3床)
- ・産婦人科・内科の混合病棟 (主に消化器内科) です。
- ・今年度より秋田県立衛生看護学院・助産科の実習指定病院となりました。4年程前より研修会の受講・学院の先生方との話し合いをもち、10名の生徒さんの実習指導にあたりました。生徒さん全員卒業し、国家試験にも合格しました。助産師による妊婦指導も本年度より開始し、母親学級とともに、妊婦さんの不安の軽減となっています。消化器病棟としては、検査・治療の日々加え、後期高齢者の患者さんの増加にて、寝た切り、認知症の患者さんの看護ケアが増加しています。

### <病棟目標>

- 1、固定チームナーシングの充実を図り、責任ある看護を行う
  - ・各チーム、チーム目標をもち看護ケアを行う
- 2、確認ミスをなくし、医療事故を防ぐ
  - ・指差し確認 呼称確認 二人で確認
- 3、勤務開始時、終了時患者様へ挨拶し、よりよい接遇を心がける
- 4、電子カルテを活用し、業務の効率化を図る

### <目標の反省>

- 1、チーム目標を、達成できたチームと、できなかったチームがありました。来年度の課題です。
- 2、医療事故はなかったが、ヒヤリ・ハットはなかなか減少せず。来年度は病棟独自の勉強会を開き、確認ミスの減少に努めたい。
- 3、朝の挨拶は、徹底しています。よりよい接遇に努めたい。
- 4、業務の効率化は、これからの課題です。

<年間延べ入院退院患者数 在院日数 稼働率 年間分娩数>

年間延べ患者数 18,266名

在院日数 14.2日

稼働率 84.8%

年間分娩数 155件（帝王切開 24件）

<文責 高橋千鶴子>

## 3 A病棟

定床数：68床（亜急性病床 10床を含む）

担当科：小児科 整形外科 内科

### 【看護スタッフ】

師 長：木村真貴子

主 任：高橋 共子

看 護 師：町本 典子 高橋加美子 小田島千津子 高橋はるみ 佐藤由美子

小松田江利子 桐原 峰子 真壁美保子 真田由美子 小野寺撰子

藤井 涼子 地主 愛 高橋 亮子 阿部 萌子 川崎 智美

藤谷 栄 高橋 美樹 泉谷真理子 熊澤あゆみ 須田 鮎美

高橋 朋子 佐藤 奈央 小田嶋勝子

看護補助：高橋美江子 佐藤多重子 織田美和子

病棟事務：島田万里子 伊藤 尚子

退 職 者：真田由美子（12月退職） 川崎 智美（9月退職） 藤井 涼子（3月退職）

佐藤 奈央（3月退職）

### 【看護方式】 固定チームナーシング

### 【年間の入退院状況】

- ・ 延べ患者数 19,819名
- ・ 稼働率 79.9%
- ・ 平均在院日数 11.5日

### 【病棟の概要】

- ・ 整形外科は常勤医師1名で外来、病棟、手術をこなしている。予定手術は椎体疾患が多い。今年度は高齢化に伴ってか大腿骨頸部骨骨折の手術件数が増加した。
- ・ 小児科は常勤医師1名で朝早くから回診を行い外来、病棟業務をこなしている。平鹿総合病院の新体制に相まって入院患者は昨年から減少している。疾患的には喘息、嘔吐、下痢の患者様が多かった。

### 【病棟目標】

1. 固定チームナーシングに向けてそれぞれの役割を理解し実践できる。  
～チームカンファレンスの充実～
2. 確認、確認、再確認！！
3. 心にゆとりを持ち相手に接する。笑顔、優しさ、心づかい
4. コスト意識の向上とコストもれ0を目指す。

### 【目標の反省】

1. 固定チームナーシングにむけてチームカンファレンスの時間をもつように心がけたがなかなか実行できなかった。月1回のチームカンファレンスを習慣化していきたい。
2. ヒヤリハット件数が多かった。検討を重ね引き続き事故防止に努めていきたい。
3. 患者さんへの挨拶についてはばらつきがあるので、来年度も頑張りましょう。
4. コスト漏れは数字に現れているようにだいぶ改善されてきた。担当及び処置についた人が責任をもってコストを取るようにならねばならない。

### 【1年間のまとめ】

病棟全体として高齢化に伴った痴呆症状の強い患者様の入院が多かった。術後及び治療経過は良好であるが、退院後の受け入れ先がなく家庭の事情もあり入院期間が延長している現状である。また、相変わらず転倒転落の報告が後を絶たない。小児科は2年をかけて行った看護研究を基に対応しているがなかなか減少にはいたらない。原因のひとつとして保護者の多国籍化、若年化が考えられる。今後も医療安全を見据えてカンファレンス、家族教育の充実を図りたい。

<文責 木村真貴子>

## 3 B病棟

### 〈 病床数 〉

60床 （重症加算室 5床含）

### 〈 担当科 〉

外科、泌尿器科、内科の混合病棟

### 〈 看護方式 〉

固定チームナーシング

### 〈 年間延べ入院患者数、在院日数、稼働率 〉

年間延べ患者数 19,442名

在院日数 15.3日

稼働率 88.8%

### 〈 病棟の概要 〉

外科の手術件数も増加し、CHDFなど集中治療看護の重症対象も増え、スタッフの勤務状況もハードな時期が続いた。高齢者、独り暮らしの患者様も目立ち、術後の在宅ケアに向けては、ケアマネや施設相談員などとの連携が重要となってきている。

入院での化学療法施行患者数も増加し、薬局との連携、薬剤の取り扱いには充分配慮し、今後は、化学療法に関してのマニュアルを整理していくことが課題である。

緩和ケアは、適切にコントロールできるよう緩和ケアチームが中心となり、カンファレンスなどで情報交換を密にしている。今後は、精神面でもより良い関わりが持てるようにしていきたいと考えている。

ストーマケアなど専門的技術が求められ、対応力、指導力向上のため研修会参加や独自の学習会を開催している。

H20年度外科手術件数 391件 泌尿器科手術件数 131件

### 〈 H20年度 病棟目標 〉

- 1、やりがいのある継続した看護体制の充実
  - ① 固定チームナーシングにおける個々の役割を自覚する
  - ② チーム目標を持ち、チームカンファレンスの実施
  - ③ 申し送りの短縮と廃止に向ける
- 2、マニュアルを熟知し、点滴・注射の間違いをなくす
- 3、受持ち看護師は、勤務開始時と終了時に挨拶をする
- 4、業務改善を検討しながら、コスト漏れをなくす

### 〈 目標の反省 〉

- 1、チームリーダーがチーム全体を把握し、カンファレンスを行う頻度も増加したが内容を記

録に残していないことがある。申し送り時間は、個人差がありポイントを把握して入力するなどして情報共有していきたい。

- 2、薬剤の間違い、紛失が発生しマニュアルを厳守する事はもちろん、二人以上での確認は重要であること、流れ作業にせず声かけあって業務に取り組む。間違いは誰にでもあること、そこを責めるのではなく皆の反省材料にしていく。
- 3、患者様からも自分の担当が誰かがわかるようになったと、今後も継続していく。
- 4、コスト漏れは、以前より減少してきたが看護ケアに関しての漏れあり、新規でケアが開始した時点で項目を必ず入力することを徹底していく。

〈 構成スタッフ 〉 H20年4月1日現在

師 長：木下 文子

主 任：木村恵美子

|             |       |       |       |
|-------------|-------|-------|-------|
| 看 護 師：下夕村優子 | 矢野多智子 | 柿崎美幸  | 嵐田 麗子 |
| 山田百合子       | 佐藤 秀子 | 齋藤みどり | 谷口 順子 |
| 今野谷沙織       | 渡邊あかね | 高橋 美里 | 丹 久美  |
| 小西千穂子       | 高橋 華澄 | 高橋 康子 | 奥山かずえ |
| 高橋 望美       | 小棚木美香 | 浅倉けい子 | 佐藤 愛  |
| 佐々木美智子      | 佐藤 佳織 | 佐々木祐美 | 藤井 千晶 |
| 小田嶋 梢       |       |       | 計 27名 |

病棟事務：佐藤ゆかり 計 1名

看護補助：鈴木 時枝 柴田 美津子 高村 真理 計 3名

<文責 木下文子>

## 4 病棟

### <病床数>

H20. 4月 64床（重症加算室 5床 亜急性期病床 5床含む）

H20. 8月 63床（亜急性期病床 10床へ拡大）

### <担当科>

呼吸器科 循環器科 脳神経内科 内科

### <看護方式>

固定チームナーシング

### <年間延べ入院退院患者数 在院日数 稼働率>

年間延べ患者数 22,347名

在院日数 23.4日

稼働率 97.2%

### <平成20年度 病棟の概要>

当病棟の入院患者は、高齢者患者が殆どを占め70%以上が要支援・要介護者である。またその多くが訪看・特養・老健・ショートステイ・グループホームなどを利用している。

高齢者が誤嚥性肺炎や脳梗塞、心不全等で入院すると病態上安静を強いられるため、入院前のADLより低下することも免れないのが現状である。そのため入院中に介護認定申請や更新することも多く、ケアマネや施設相談員などとの面接・調査なども年々増加しており、在宅に向けての家族指導など、目に見えない部分での時間が多く使われている。

また、当病棟の亜急性期病床は、退院準備の殆どねたきり患者を対象に運用しているがそれまでであった5床に加え、8月から10床に増床となった。他病棟からの転入なども受けながら65.3%の運用率であった。

H20年度の病棟のトピックスといえば、9月から11月中旬にかけて疥癬がアウトブレイクしたことであった。罹患した患者は全部で9名、うち2名はノルウェー疥癬という感染力の高い病状であった。また看護師・補助者などスタッフにも感染し22名が皮膚科の駆虫剤を服用し、殆どのスタッフが休まず自己からの感染にも十分注意して働いてくれたことは、まさに医療職という強い責任感からくるものであると誇らしく思えた。

日々のケアはディスポ手袋・マスクはもちろん、使い捨てガウン、キャップを着用し、長靴を履いて汗だくになり、毎日のリネン交換に加え、白衣も水溶性ランドリーボックスに入れ、1病棟のシャワーを使用して帰宅するという毎日が続いた。事態が終息しても尚、皮膚湿疹には敏感に反応せざるをえないような状況であった。

### <平成20年度 病棟目標>

1. 日のチームカンファレンスを励行し定着させる。また、カンファレンス記録を必ず入力し、チームメンバーに周知させる。
2. リアルタイムに記録入力する習慣を身につける。

3. 患者様からのクレームに対しては、早期に報・連・相を行ない対処する。
4. ルチン業務の見直しと時間外勤務の減少を図る（休憩時間の確保）。

<目標の反省>

1. チームカンファレンスは出来る限り毎日行われている。記録入力も声を掛け合って入力するよう努力している。今後も定着するよう継続して行きたい。
2. 注射の実施入力は、インスリン注射や夜間の点滴交換などもリアルタイムにできるようになった。しかし、看護記録入力については、介助量も多いためなかなかできていない。
3. クレームは3件あり、上司報告までは早めにできた。しかし、看護師へのクレームについて主治医に報告しなかったことでトラブルを招いてしまったことがあり、今後は主治医にも報告していくこととした。
4. 看護方式を2チームから3チームとし、更にフリー業務を無くしたことで業務整理できた。まだ細かい業務において責任の所在がはっきりしないことがあり、病室毎の受持ち看護師の意識付けを徹底していく必要がある。

<構成スタッフ> H20年4月1日現在

師 長：藤井 洋子

主 任：小田嶋恵美子

|        |        |       |       |       |       |
|--------|--------|-------|-------|-------|-------|
| 看 護 師： | 菊谷ゆかり  | 山石 陽子 | 高橋 正子 | 佐藤 恵子 | 佐藤さとみ |
|        | 小田嶋ゆう子 | 高橋 恵子 | 末次エリカ | 鈴木真紀子 | 黒沢真知子 |
|        | 稲川 雅美  | 嶋田麻由子 | 小原 麻美 | 佐藤千夏子 | 高橋 歌澄 |
|        | 煙山由紀子  | 高橋 大樹 | 鳥山十亜良 | 渡部 香織 | 高橋まゆみ |
|        | 高橋 智佳  | 横井 道子 | 武藤 夏子 | 佐々木文子 | 24名   |

病棟事務：小川由美子 1名

|       |       |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 看護補助： | 高橋 容子 | 高橋美代子 | 下夕村早苗 | 藤原 周子 | 池田 律子 |
|       | 山石久美子 | 高橋 栄子 |       |       | 7名    |

退 職 者：佐藤 恵子（H20. 5）

高橋 栄子（H20. 5）

<文責 藤井洋子>

## 外来部門

### 《年間総外来患者数》

年間延人数 163,309名 1日平均672.1名

### 《外来の概要》

外来・病棟一元化として機能しているため、外来の人数不足へは各病棟の応援があり業務が遂行されている。応援体制により接遇面が懸念されるが朝の全体ミーティングを行うことにより周知徹底を心がけている。

外来での化学療法・輸血療法・インターフェロンなど高度医療を行うようになってきた。また、内視鏡室においては消化器医師増員に伴い内視鏡的粘膜切除術・胃瘻造設など増えてきている。眼科外来は、2月より木曜日のPM診察追加になり週2回の診察となる。そのため、看護師の業務が煩雑になってきている。

### 《平成20年度外来目標》

- 1、来各科情報を共有し、何事にも責任ある看護を行う。  
外来もひとつのチームという認識を持つ。
- 2、順路案内・患者受付表の確認を徹底し、患者間違い・注射間違いのないようにする。
- 3、患者一人一人に気配りの出来る接遇を目指す。
- 4、電子カルテを活用しながら不備な点を改善し、外来全体の業務統一をはかる。

### 《目標の評価》

- 1、スタッフ不足の中各部署協力して業務が出来たと思う。
- 2、患者間違い・注射間違いなく経過したが順路案内票の活用方法が徹底されず、患者が正しい順路で動けなかったことがあり再度順路案内の活用を確認し再発防止に努めた。
- 3、特別苦情は聞かれなかったがさらに気配りの出来る接遇に心がけたい。
- 4、不備などところはその都度改善しながら進めているが大きなトラブルはなかった。

### 《まとめ》

化学療法・輸血療法・自己血採血など、これまで入院で行われていたことが外来で施行されることが多くなり看護師の業務が大変煩雑化してきていた。

特に、化学療法の外来での薬液調合に関しては、調合場所が他の薬剤と同じ場所で行うため、本人はもとより周囲のスタッフに対する暴露のリスクや、清潔操作がきちんと行われているかなど問題が多かった。しかし、薬局と話し合い、12月末より薬剤科で調合し払い出しもらえるようになった。このことにより業務改善がすすんできた。

### 《外来スタッフ数（平成20年4月1日現在）》

総数40名（看護師26名、看護補助3名、業務員5名、事務6名）

看護師長 : 佐藤セツ子（副総師長・ベットコントロールマネージャ兼務）  
看護主任 : 和賀美由紀（救急センター兼務）  
看護主任 : 石橋由紀子（4F病棟主任兼務）

|        |   |        |       |       |       |
|--------|---|--------|-------|-------|-------|
| 内科外来   | : | 看護師    | 藤島 美晴 | 赤平 綾子 | 生出 晴美 |
|        |   |        | 谷藤 文子 | 渡部しげ子 | 伊藤 友子 |
|        |   |        | 伊藤 誠子 | 小田嶋裕子 | 吉岡 麻子 |
|        |   |        | 佐藤 直子 | 小沼 時子 | 松井 久子 |
|        |   | 事務(受付) | 堀川 恵  | 高橋 友里 | 小松 陽子 |
|        |   | 看護補助   | 佐藤 春子 |       |       |
| 外科外来   | : | 業務員    | 金子 陽子 | 佐々木優子 | 高橋 朋子 |
|        |   | 看護師    | 丹 厚子  | 渋谷 美紀 |       |
| 整形外科外来 | : | 事務(受付) | 佐藤 昌子 |       |       |
|        |   | 看護師    | 小野ゆう子 | 田中 京子 |       |
| 小児科外来  | : | 事務(受付) | 藤原真貴子 |       |       |
|        |   | 看護師    | 佐藤 幸子 | 石田亜希子 |       |
|        |   | 業務員    | 福田富美子 |       |       |
| 放射線科   | : | 業務員    | 高橋 香里 |       |       |
| 泌尿器科外来 | : | 看護補助   | 佐藤富美江 |       |       |
| 内視鏡室   | : | 看護師    | 藤坂マリ子 | 得平やす子 |       |
|        |   | 看護師    | 加藤真由美 | 大和 麻美 | 松井 久子 |
|        |   | 看護補助   | 高橋トヨ子 |       |       |
|        |   | 業務員    | 平塚 二美 |       |       |
| 《退職者》  | : | 小田嶋裕子  | (8月)  |       |       |

<文責 木村恵美子>

# 手術室、中央材料室、洗濯室

## 1、スタッフ（H20年4月1日現在）

|     |       |         |       |        |       |
|-----|-------|---------|-------|--------|-------|
| 師長  | 高本 和子 |         |       |        |       |
| 主任  | 佐藤 昌悦 |         |       |        |       |
| 看護師 | 佐藤 鋼子 | 岩村 久子   | 赤沼ゆかり | 小田嶋ひとみ |       |
|     | 小松ルリ子 | 柿崎千恵子   | 永須 直美 | 大日向 希  |       |
|     | 補助    | (中央材料室) | 糯田 優子 | 新森いく子  | 佐藤久美子 |
|     |       | (洗濯室)   | 針金 久子 |        |       |

|    |       |            |
|----|-------|------------|
| 移動 | 柿崎千恵子 | (6月 退職)    |
|    | 丹 久美  | (7月 3Bより)  |
|    | 小松ルリ子 | (10月 産休へ)  |
|    | 谷口 順子 | (10月 3Bより) |

## 2、手術ベット数；4台

## 3、看護方式；科別チーム制

## 4、手術件数

|      |            |
|------|------------|
| 外科   | 437件 (+63) |
| 整形外科 | 156件 (-26) |
| 婦人科  | 143件 (± 0) |
| 泌尿器科 | 134件 (-27) |
| 合計   | 870件 (+10) |

全身麻酔件数 522件 (+96件)

緊急手術 105件 (土日祭日・夜間呼び出し35件)

## 5、手術室目標

- 1) 術前・術後訪問の充実を図り カンファレンスによる情報の共有に努める。
- 2) 手術中の指示は復唱し、声だし確認を行う。
- 3) 意識のある患者様の心理面を第一に考え 行動する。
- 4) 看護支援システムの理解を深め 業務改善に努める。

### <前期評価>

- 1) 術前訪問は実施出来、電子カルテに記載している。術後訪問に関してはどの様に施行するか今後も検討課題。
- 2) 復唱・声出し確認を施行し、医療事故はなかった。
- 3) 「意識のある状態」の患者さんに配慮した言動・接遇は出来た。
- 4) 電子カルテ開始から1年経過した現在 バリエーションに関して記録を検討中。

<後期評価>

- 1) 術前訪問は出来る限り実施できた。褥瘡対策も認定看護師と連携し継続的なケアに貢献できた。
- 2) 前期に引き続き復唱・声出し確認を行い医療事故はなかった。
- 3) 意識のある患者様に配慮した言動・接遇は出来たが、入室後の私語が多かったので注意して行きたい。
- 4) クリティカルパスのバリエーションについて 運用方法など検討中で来年度の課題としたい。

<文責 高本和子>

## 人工透析室

### <定床数>

10床

### <構成スタッフ> (外来・病棟一元化により3B病棟より出向)

主任 和泉奈保子

副主任 小田嶋明子 小川 伸 (6月～感染管理認定看護師研修へ)

看護師 中村勇美子 佐々木美紀子 (5月～11月まで病休)

小田嶋千枝子 伊藤 優子 (6月より) 佐々木智美

高階 利子 (4月より)

### <概要>

- ・末期腎不全の診断のもとに、①透析療法が必要だと宣告された患者様や家族の衝撃の深さを知り、②疾病に対する患者様や家族の反応と受容のレベルを査定し、③機械・器具・装置および臓器移植に依拠した状況下における健康回復を目的とした治療を円滑に軌道に乗せるための看護である。
- ・患者様の生涯を通してかかわるエンドレスケアで生じるさまざまな問題の解決にあたっては、患者様および家族の主体を損なわないように配慮し、患者様にとって好ましいセルフケア能力を高めるよう支援する。

### <目標>

#### 1、患者指導の向上

スタッフ間で統一した患者指導を行えるようマニュアルの見直し、習得

#### 2、トリプルチェックの徹底

目で確認！ 声で確認！ 指で確認！

#### 3、看護計画の電子カルテへの移行

### <反省>

#### 1、透析室内での定期的な勉強会に取り組むことで、自己研鑽に努めた。

定期的にカンファレンスを持つことで、患者様に統一した指導を行うことができた。

#### 2、多忙な中でも、トリプルチェックの徹底を図り、事故防止に努めることができた。

#### 3、看護計画の内容を見直し、計画の原型ができた。

### <1年間のまとめ>

- ・人工透析室では、維持透析の他、状況に応じて依頼透析・緊急透析に対応しているが、患者数の増加に伴い、常に90%以上の稼働率である。
- ・H20年度 延べ人数 6,685人
- ・新規導入患者 9名 (内当院維持透析患者 6名)

- ・依頼透析・緊急透析・臨時透析患者 18名
- ・今年度も人事異動があり、スタッフ個々の知識・技術のレベルが同じではないが、勉強会・カンファレンスなどを通し、個々のレベルアップを図っている。
- ・7月より病院から貸し出していた病衣を、個々に個人用の物を準備してもらった。はじめは戸惑いもあったが、患者様の理解・協力を得て、浸透している。
- ・患者様の増加に伴い、業務も多忙になる中、常に医療事故防止に努めることができたと思う。今後も外来維持透析患者様が、安心して透析治療を受けられるよう継続していきたい。

<文責 和泉奈保子>

## 訪問看護センター

<平成20年4月1日現在スタッフ>

高橋礼子 佐々木康子 菅原奈保子 池田知美 三浦君子

<移動>

12月 看護師 佐藤友紀（外来より）

看護師（嘱託）池田知美（12/31で退職）

<平成20年度目標>

1. 交通事故及び医療事故防止に努める。
2. 研修会（勉強会）への積極的参加をし、自己研鑽に努める。
3. 他事業所との連携、連絡を密にし継続看護の充実を図る。

中長期目標

1. 部署内のカンファレンス
2. 病棟との連絡を密にする

<反省>

1. 交通事故はなかったが、5月に在宅へ持参する点滴の入れ物（箱）と点滴が違っていたということがあった。また8月には胃瘻カテーテルの腹腔内逸脱事故があった。それぞれ直ちにマニュアルを見直しし、業務改善をしている。
2. 各自研修会等に参加できた。
3. ケアマネージャー、各介護サービス事業所との連絡を密にすると共に、病棟・外来との連絡も取り合うなど連携を図ることができた。また医療依存度の高い方の介護サービス利用時に同席するなど、介護サービススタッフが安心して作業できるよう協力している。

<機能・概要>（外来・病棟一元化により4病棟より出向）

訪問看護の看護師は、要介護者等の心身の特性を踏まえて、全体的な日常生活動作の維持、回復を図ると共に、生活の質の確保を重視した在宅療養が維持できるよう支援している。

実施にあたっては、関係市町村、地域の保健・医療・福祉サービスとの密接な連携を図り、総合的なサービスの提供に努めるものとする。

現在、訪問看護の対象者は、終末期患者、中心静脈栄養、胃瘻、腸瘻、尿道カテーテル挿入、気管カニューレ挿入、人工呼吸器装着、在宅酸素等、医療依存度の高い方が増えている。訪問看護利用者数も増加傾向にあり、利用者の高齢化、介護者の高齢化も目立ってきている。今後の在宅医療、看護のニーズは高まりつつある。

今年で3回目となる介護保険サービス提供事業所の情報公表に関しては、大きな問題点はなく、情報公表調査もスムーズに受けることが出来た。

<平成20年度訪問看護件数>

訪問看護総件数 2161件

|         |                    |
|---------|--------------------|
| 訪問診察総件数 | 723件               |
| 臨時訪問件数  | 148件               |
| 総人数     | 111人               |
| 新規対象者数  | 38人                |
| 退院者数    | 71人                |
| 入院患者数   | 93人                |
| 全死亡者数   | 33人（うち自宅11名、病院22名） |

<文責 高橋礼子>

# ME室

## 【体制】

《室長》 吉岡 浩  
 《スタッフ》 川越 弦 柏谷 肇

## 【業務内容】

医療機器安全管理室 手術室関連機器管理 透析室機器管理  
 院内機器管理（医療機器中央管理室） 人工呼吸管理（在宅含む）  
 各種血液浄化 腹水処理 心臓カテーテル検査 ペースメーカー管理（在宅含む）  
 内視鏡室業務（健診） 教育啓蒙活動（研修会・院内報の発行など）

## 【委員会活動への参加】

救急センター運営委員会 医療ガス安全管理委員会 防災対策委員会  
 リスクマネージャー委員会 診療材料検討委員会 手術室運営委員会

## 【機器の異動】

老朽化による廃棄が多い中、更新は必要最低限に努めたが、機器によっては更新や台数増を必要とするものが多い。院内増改築に合わせ、かつ機種統一に向け早急に、計画的に更新を申請していきたい。

| 新規・更新   | メーカー | モデル       | 設置部署 | 備考    |
|---------|------|-----------|------|-------|
| 除細動器    | 日本光電 | TEC-7721  | 各部署  | 更新 5台 |
| AED     | 日本光電 | AED-9231  | 正面玄関 | 新規    |
| 人工呼吸器   | IMI  | VELA (CP) | ME室  | 更新    |
| 人工呼吸器   | IMI  | AVEA      | ME室  | 更新    |
| 輸液ポンプ   | テルモ  | TE-161S   | ME室  | 更新 5台 |
| ポリグラフ装置 | 日本光電 | RMC-4000  | カテ室  | 更新    |

| 廃棄       | メーカー  | モデル       | 設置部署        | 備考   |
|----------|-------|-----------|-------------|------|
| ポリグラフ装置  | 日本光電  | RMC-1100M | カテ室         |      |
| 心刺激装置    | 日本光電  | SEC-3012  | カテ室         |      |
| 輸液ポンプ    | アトム   | P-600     | ME室         |      |
| 心電計      | 日本光電  | ECG-8830  | 4F・救外       | 2台   |
| 心電計      | 日本光電  | ECG-8300  | 2F・3A・3B    | 3台   |
| 除細動器     | 日本光電  | TEC-7310  | 4F・カテ室      | 2台   |
| 除細動器     | 日本光電  | TEC-7310  | 2F・3A・3B・OP | 4台   |
| 人工呼吸器    | フクダ電子 | SV-900    | ME室         | 2台   |
| セントラルモニタ | 日本光電  | WEP-8550  | 3A          |      |
| 自動血圧計    | コーリン  | BP-103i   | ME室         | 6649 |

### 【故障・修理・点検依頼など】

点検依頼や故障・修理依頼への対応は、修理伝票の提出がなく記録として残っていないプチ点検が多く課題である。修理件数については電子血圧計やパルスオキシメータ、心電図送信機などの小型機器が増えた。取り扱いには注意してもらいたい・・・

|           | 点検・修理依頼 | 院内修理 | メーカー修理 |
|-----------|---------|------|--------|
| 輸液        | 26      | 7    | 1      |
| シリンジポンプ   | 12      | 9    | -      |
| 電子血圧計     | 9       | 6    | 2      |
| パルスオキシメータ | 2       | 1    | 7      |
| 送信機       | 3       | 1    | 1      |
| 透析室機器     | 16      | 8    | 6      |
| その他の機器    | 7       | 2    | 3      |

※ 日常・使用前後、定期点検・オーバーホールを除く

### 【各施行件数】

NIP、在宅用人工呼吸器はそれぞれリース契約している。今年度は在宅人工呼吸患者が2名となった。入院患者の人工呼吸も件数が増え、不足する事態が度々発生しておりし、その都度リースで対応した。ペースメーカー、心カテ業務は順調である。

|            | 症例数 | 備考         |
|------------|-----|------------|
| CHDF       | 5   | 総施行数69回    |
| PMX        | 7   | 総施行数12回    |
| LCAP       | 3   | 総施行数20回    |
| 人工呼吸       | 31  | 在宅患者2名を除く  |
| NIPPV      | 8   |            |
| 腹水処理       | 10  | 総施行数66回    |
| 心臓カテーテル検査  | 15  |            |
| 血管内異物除去    | 2   |            |
| 体外ペーシング    | 3   |            |
| ペースメーカー植込み | 17  | 新規10件 交換7件 |
| ペースメーカー外来  | 167 |            |

### 【ME報】

お馴染みのME報は昨年同様、定期刊行には至らなかった。リクエストがあれば対応したい。

- 6月3日 Vol. 63 「最近の話題から」
- 7月28日 Vol. 64 「新しい除細動器」
- 9月16日 Vol. 65 「AED」
- 10月6日 Vol. 66 「輸液セット使用上の注意」
- 2月18日 Vol. 67 「輸液ポンプTE-161と輸液セットについて」

### 【学会・研修会への参加、資格取得など】

公私共に多忙な中、それぞれが資格取得へと動き出した。結果に期待したい。

|          |                                |
|----------|--------------------------------|
| 5月29～31日 | 日本医療機器学会（川越）                   |
| 2月15日    | 秋田県臨床工学技士会 第2回ペースメーカー研修会（柏谷）   |
| 3月8日     | 日本臨床工学技士会 第1回ペースメーカー関連検定試験（柏谷） |
| 3月24～27日 | 透析療法合同専門委員会 透析技術認定士 講習会（川越）    |

### 【院内研修の実施】

昨年の医療法改正により研修会の実施に時間をとられるようになった。使用対象となるスタッフ100%への研修の実施は現実的に困難である。同一内容の研修会を複数回開催し参加率を向上させるよりは各部署の例会に参加し、その中で研修を行う場合もあった。むしろこの方がスタッフの負担も幾らかは軽減できたのではないだろうか？（こちらの負担は少ないが・・・笑）。

|            |                              |
|------------|------------------------------|
| 4月2日       | 新採用者オリエンテーション「医療機器の取り扱いについて」 |
| 4月14日      | 臨床研修医対象「ペースメーカー講習会」          |
| 4月28日      | 新採用者対象「輸液ポンプ講習」              |
| 6月2日       | 職員対象「輸液ポンプ講習会」               |
| 6月12～7月8日  | 職員対象「新規除細動器講習会」（各部署にて）       |
| 6月20～7月15日 | 職員対象「新規人工呼吸器講習会」（3回・同一内容）    |
| 7月18日      | 職員対象「ペースメーカー講習会」             |
| 9月11～18日   | 職員対象「新規AED講習会」（医療職種以外）       |
| 3月11日      | 職員対象「輸液ポンプ講習会」               |

### 【来年度に向けて】

臨床業務も煩雑な折、案の定「医療機器安全管理室」を中心とした業務になってきた。定期点検は計画的・確実な実施を心がけたが、点検が必要な機器は法の解釈が難しいところであり大きな悩みでもある。なお昨年度末から閉鎖式保育器についてもMEによる定期点検が行われるようになった。管理機器は今後も増え続けるであろう。

今後も医療安全管理室と連携を強化し、研修会の開催やマニュアルの改訂など、医療安全の質の向上に努めたい。なお、院内増改築を視野に含めた人的資源の確保を考慮しなければならないが、まずは各現場への関わりを十分に検討し、より良い体制で望みたい。

<文責 川越 弦>

## 臨床検査科

|      |        |              |
|------|--------|--------------|
| スタッフ | 佐藤恵美子  | (技師長)        |
|      | 平塚多喜雄  | (室長)         |
|      | 小丹まゆみ  | (室長)         |
|      | 佐々木絹子  | (室長)         |
|      | 工藤真希子  | (主任)         |
|      | 長瀬 智子  | (主任)         |
|      | 佐々木美奈子 | (主任)         |
|      | 大嶋 聡子  | (副主任)        |
|      | 高橋 隆子  | (主席検査助手)     |
|      | 加賀谷美智子 | (検査技師・嘱託)    |
|      | 和賀 幸子  | (検査技師・嘱託)    |
|      | 田中 清美  | (検査技師・嘱託)    |
|      | 谷川真依子  | (検査技師・嘱託)    |
|      | 松井富美子  | (検査科業務員・パート) |

今年度、検査科は生化学自動分析器の更新が念願叶った。

減価償却年数を遙かに超過し、自動分析器の耐用年数も考慮しH19年度も申請したものの、電子カルテ導入という大きな病院事業の計画の基採用はならず2年がかりでの実現であった。前機は国内導入1号機ということでメーカーさんからも格段と思えるフォローを頂きながら12年もの長きに亘り使用した。業務担当技師は毎日「腫れ物に触るように」運用し、丁寧にメンテナンスを繰り返した。しかし、最後の一年はトラブルの連続であった。

検体検査のメインである生化学検査結果が診療に間に合わない危惧に、診療科にはどんなにかご迷惑をおかけしたことか・・・「生化学分析器トラブル発生、メーカーさんが修理に向かってくれています但本日、至急対応は出来ません」「今晚、生化学分析器は使用不可です。測定可能項目は電解質・CRP・NH<sub>3</sub>のみです」何度もこのような内容の文書を外来・病棟・救急外来にFAXした。

「今日は生化学検査できますか?」「結果は今日中にでますか?」などの問い合わせをもらったこともあった。

さらに、予算が付いてからもルーチン業務・検診業務との兼ね合いで導入に至るまでは導入時期の設定にも苦慮し、この間にも診療科には多大なるご迷惑をおかけした。

しかし、機器更新が叶ってからは①勝った処理能力で結果報告時間の短縮②使用試薬の減量でコストダウン③バックアップ機もあり24時間常に分析可能となり365日迅速加算に貢献出来る様になったと思う。

診療科の多種多様なニーズに応える為には、検査科の長期計画のみならず日々の情報収集、的確な状況判断と早期行動の大切さを学んだ一年であった。

平成20年実績 主な項目

生理検査 総数 25,203件

|         |        |      |       |        |       |      |     |
|---------|--------|------|-------|--------|-------|------|-----|
| 心電図     | 10,809 | 肺機能  | 2,015 | 聴力     | 5,862 | MCV  | 79  |
| 負荷心電図   | 260    | 心エコー | 1,903 | 眼底写真   | 1,435 | AABR | 159 |
| ホルター心電図 | 313    | 腹エコー | 1,378 | 頸動脈エコー | 343   | 脳波   | 79  |

病理検査 総数 2,402件

|        |     |        |       |        |       |        |     |
|--------|-----|--------|-------|--------|-------|--------|-----|
| 病理(術材) | 459 | 病理(生検) | 1,943 | 婦人科細胞診 | 3,555 | その他細胞診 | 721 |
|--------|-----|--------|-------|--------|-------|--------|-----|

検体検査 総数 836,425件

|         |         |        |        |          |        |        |        |
|---------|---------|--------|--------|----------|--------|--------|--------|
| 尿一般     | 28,014  | 尿沈査    | 9,991  | 便潜血      | 4,418  | CDトキシン | 250    |
| インフルエンザ | 2,272   | A群β溶連菌 | 634    | 便中ロタウイルス | 289    | RSウイルス | 188    |
| 生化学一般   | 508,720 | 生化学電解質 | 89,209 | 血糖       | 25,526 | HbA1c  | 12,024 |
| 血液一般    | 42,330  | 血液像    | 26,011 | 網状赤血球    | 519    | 心筋関連   | 565    |
| 血液型     | 1,261   | 不規則抗体  | 760    | 交差試験     | 537    | 乳幼児関連  | 565    |
| 出血時間    | 1,001   | 凝固線溶   | 9,378  | 感染症      | 16,767 | 腫瘍マーカー | 8,268  |
| 甲状腺関連   | 3,793   | 穿刺液    | 140    | 一般細菌     | 3,104  | 結核菌    | 1,001  |
| 赤沈      | 3,594   | 血液ガス   | 2,645  | 外注       | 20,946 | 外注率(%) | 2.6    |

<文責 佐藤恵美子>

**生化学自動分析装置 JCA BM-2250 ・ JCA BM-6010を導入して**

平成20年7月より、生化学自動分析装置 JCA BM-2250・JCA BM-6010が導入された。

メイン機の2250は、前機と比較すると検体処理能力に優れ（1800テスト/時、前機は1200テスト/時）、依頼項目の組み合わせによる処理能力の低下も無いので、結果報告までの時間が大幅に短縮された。また、バックアップ機として6010も導入されたため、メイン機のトラブル発生時はもちろん、尿検体の測定等に使用する事によって効率よく検体処理を行う事ができた。

6010は夜間緊急時・土日当番用としても使用しているが、処理能力は800テスト/時で、緊急時の検体にも迅速に対応でき、前機に比べ緊急当番者の負担も少なくなった。

さらに、2機種とも最低反応液量が少なくなったため、試薬コストの低減にもつながっている。今回の導入で、検査科の目標である「正確かつ迅速な結果報告・検査の効率化とコスト削減」の達成に一歩近付いたように感じるが、今後も改善点を見直し、より正確で迅速な検査結果を報告するよう努めていきたいと思う。

<文責 工藤真希子>

## 食 養 科

懸念されていた院内IT化でしたが、無事完成し一年が過ぎようとしています。我々の部署に於いては、まずは順調に稼働できていると感じております。

ところで、当院にとって大きな業績不振（赤字）となってしまった前年度決算ですが、平成20年診療報酬改定では、「後期高齢者退院時指導料」の新設があり（それは通常の栄養指導点数130点より50点多い180点ということ）少しでも収入増に貢献できたのではないかと考えております。

ただ、残念乍ら院長が今年度に期待を寄せていた「糖尿病教室」の規模拡大については、専門医である下斗米Drの異動に続き伊藤Drの寿退職があり、叶える事が出来ませんでした。生活習慣病（特に糖尿病）は今、増加の一途を辿っています。今後ますます教室の重要性が増してくる事と思います。風前の灯にならないように、存続のため尽力して参りたいと思います。

また、「食養科」としては今後も「ホスピタリティー」の精神を持って、患者サービスの向上（徹底）に心掛けて参りたいと思います。

### 食養科スタッフ

|          |  |
|----------|--|
| 技師長      | 原田 優子  |
| 主任       | 川越 真美  |
| 主席調理技能士  | 天羽 勝義  |
| 主任       | 小松 信宏  |
| 嘱託事務員    | 幕沢美紀・藤原由香  |
| 嘱託調理員    | 本間イネ子・松井世津子・佐藤美枝・石川勝美<br>百合川智賀子・大坂美津代・佐藤殉子・高橋 麗・高橋智子<br>赤川千恵・武藤聡子・本間清子（H20・6月退職） |
| パート食器洗浄員 | 柴田文子・田中澄子・小山訪子   |

### 院内活動

平成20年11月1日

コ・メディカル研究発表会「食養科の取り組み」

原田 優子 天羽 勝義

平成21年1月13日

水色の会主催講義

「糖尿病教室の紹介」

原田 優子

### 院外活動

平成20年9月23日

秋田県平鹿地域振興局主催（秋田ふるさと村にて）

「健康づくりフェスティバル」

食事相談

原田 優子

平成20年12月20日

湯沢保健所・秋田県赤十字血液センター主催「生活習慣病予防（メタボを予防しよう）」

栄養・食事指導

原田 優子

教育実習受け入れ状況

平成20年7月28日～8月8日

小林 菜緒子（秋田栄養短期大学）

高橋 真瑠美（聖霊女子短期大学）

平成20年度食数及び給食材料費

| 区分  | 食 数   |       |       |        | 1人1日当たり単価 |      |      |      |
|-----|-------|-------|-------|--------|-----------|------|------|------|
|     | 常食    | 軟食    | 特別食   | 合計     | 常食        | 軟食   | 特別食  | 平均単価 |
| 4月  | 4034  | 5532  | 5698  | 15264  | 1101      | 674  | 718  | 803  |
| 5月  | 3158  | 4616  | 6239  | 14013  | 957       | 660  | 598  | 699  |
| 6月  | 3727  | 4247  | 4973  | 12947  | 662       | 592  | 709  | 657  |
| 7月  | 4530  | 4563  | 5550  | 14643  | 674       | 598  | 613  | 627  |
| 8月  | 4652  | 4131  | 4482  | 13265  | 694       | 596  | 709  | 668  |
| 9月  | 5181  | 4367  | 4755  | 14303  | 663       | 548  | 723  | 648  |
| 10月 | 4736  | 4400  | 5137  | 14273  | 759       | 588  | 595  | 647  |
| 11月 | 5278  | 4607  | 4210  | 14095  | 605       | 575  | 705  | 625  |
| 12月 | 5259  | 4136  | 3931  | 13326  | 698       | 643  | 759  | 699  |
| 1月  | 4643  | 4181  | 4544  | 13368  | 722       | 576  | 613  | 639  |
| 2月  | 5130  | 3883  | 4638  | 13651  | 630       | 602  | 702  | 647  |
| 3月  | 4566  | 4557  | 4909  | 14032  | 798       | 591  | 612  | 666  |
| 合計  | 54894 | 53220 | 59066 | 167180 | 8963      | 7243 | 8056 | 8025 |
| 平均  | 4575  | 4435  | 4922  | 13932  | 747       | 604  | 671  | 669  |

平成20年度 栄養指導（外来、入院、集団）状況

|    |       | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|----|-------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 外来 |       |    |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
|    | 肥満症   |    |    |    |    | 1  |    |     | 1   |     |    |    |    |
|    | 糖尿病   | 4  | 5  | 5  | 5  | 7  | 4  | 2   | 3   | 3   | 2  | 8  | 5  |
|    | 脂質異常症 | 2  |    |    | 1  | 1  |    | 2   |     | 2   |    |    |    |
|    | 慢性腎不全 |    | 4  | 1  | 1  | 1  |    | 1   |     | 1   | 1  |    | 1  |
| 入院 |       |    |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
|    | 手術後食  | 5  | 7  | 1  | 5  | 3  | 4  | 8   | 1   | 1   | 5  | 3  | 7  |
|    | 糖尿病   | 8  | 5  | 10 | 3  | 5  | 5  | 6   | 3   | 2   | 5  | 3  | 3  |
|    | 脂質異常症 |    |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
|    | 慢性腎不全 | 2  |    | 1  | 2  |    | 1  |     |     |     | 1  |    |    |
|    | 肥満    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
|    | 後期高齢者 |    |    | 9  | 4  |    |    |     | 1   |     | 2  |    |    |
|    | 心疾患   |    |    | 1  |    | 4  |    |     |     |     |    | 1  | 3  |
| 集団 |       |    |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
|    | 糖尿病   | 3  | 4  | 7  | 6  | 7  | 4  | 8   | 7   | 9   | 9  | 8  | 3  |
|    | 合計人数  | 24 | 25 | 35 | 27 | 29 | 18 | 28  | 17  | 18  | 25 | 23 | 22 |

<文責 原田優子>

## 健康管理センター

### スタッフ

|      |                            |
|------|----------------------------|
| 所 長  | 船岡 正人 (兼務)                 |
| 所長補佐 | 佐藤 正弘 (兼務)                 |
| 保健師  | 鈴木 久美子                     |
| 保健師  | 佐藤 恵美子                     |
| 保健師  | 松浦 喜美 (平成20年8月 1 日より)      |
| 看護師  | 加藤 亜樹                      |
| 主 査  | 高橋 功                       |
| 事務員  | 新森 百合子 (平成20年 9 月30日まで)    |
| 事務員  | 菊池 智子                      |
| 事務員  | 藤倉 美穂                      |
| 事務員  | 奥山 沙耶香                     |
| 事務補助 | 武内 則子 (平成20年 5 月から 7 月まで)  |
| 事務補助 | 嵯峨 みゆき (平成20年 5 月から 7 月まで) |
| 事務補助 | 小川 良子 (平成20年 5 月から 7 月まで)  |
| 事務補助 | 渡邊 加奈子 (平成20年 5 月から 7 月まで) |

### 概 要

主な健診項目での対前年度比では、受診者数で619名、6.47%の増、請求額で6,956千円、5.61%増となりました。各種健診の延べ受診者は10,647名となり、念願の1万人の大台を達成しました。市役所等の職員健診では早朝健診を実施し、日中の一般健診への影響を少なくするなど、院内の関係部署の方々のご協力のもとにこの実績が達成されたもので感謝いたします。

また、20年度からは「特定健康診査・特定保健指導」が始まり、これまでの事業所中心の受診者に扶養家族の方々が加わったり、受診者の日常生活への保健指導が実施されています。これに二次検診への対応など、保健師の業務範囲が広がってきており、年度途中からは増員を図っていただきました。

また、二次検診の予約窓口を担当することで受診者の継続フォローも充実してきており、保険診療部門へも貢献していけるよう、引き続き努めていきたいと考えます。

今後とも当院の基本理念「地域の人々に信頼される病院を目指します。」に基づき、「地域医療・保健に貢献します。」の基本方針の実現に努めるとともに健全な病院経営に資するように頑張っていきます。

### 20年度目標

1. 医療事故防止に努める
2. 保健指導の充実
3. 業務の見直し改善に努める
4. 特定健康診査・特定保健指導への対応

主な項目の過去5年間の受診者数と請求額

| 健診種別        | 平成16年度  | 平成17年度  | 平成18年度  | 平成19年度  | 平成20年度  |
|-------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 政管一般健診・付加   | 1,486   | 1,566   | 1,960   | 2,013   | 1,842   |
| 日帰り人間ドック    | 868     | 880     | 783     | 910     | 957     |
| 宿泊人間ドック     | 162     | 181     | 186     | 172     | 184     |
| 脳ドック        | 107     | 127     | 157     | 119     | 134     |
| 市役所関係職員健診   | 1,263   | 1,293   | 2,222   | 2,298   | 2,477   |
| 事業所健診       | 695     | 803     | 801     | 797     | 718     |
| 子宮がん検診      | 2,625   | 2,632   | 1,602   | 1,579   | 1,950   |
| 乳がん検診       | 705     | 677     | 949     | 1,243   | 1,500   |
| B型肝炎検査      | 367     | 451     | 451     | 443     | 431     |
| 小計(件数)      | 8,278   | 8,610   | 9,111   | 9,574   | 10,193  |
| 増減率(%)      | 14.23   | 4.01    | 5.82    | 5.08    | 6.47    |
| 二次検診(自動車健保) | 35      | 32      | 43      | 34      | 56      |
| 合計(件数)      | 8,313   | 8,642   | 9,160   | 9,613   | 10,255  |
| 請求額(千円)     | 103,715 | 114,158 | 116,912 | 124,037 | 130,993 |
| 増減率(%)      | 5.11    | 10.07   | 2.41    | 6.09    | 5.61    |

参考資料

|        |     |      |     |          |
|--------|-----|------|-----|----------|
| 特定健康診査 | 受診者 | 150名 | 請求額 | 813,840円 |
| 特定健康指導 | 受診者 | 18名  | 請求額 | 130,200円 |
| 内蔵脂肪CT | 受診者 | 218名 | 請求額 | 654,000円 |

平成20年度(2008年度)健康管理センター報告書

| 健診種別            | 受診者数          | 請求金額               | 検査料金               | 消費税              |
|-----------------|---------------|--------------------|--------------------|------------------|
| 政府管掌一般健診        | 1,763         | 34,173,523         | 32,546,212         | 1,627,311        |
| 付加健診            | 79            | 1,336,573          | 1,272,927          | 63,646           |
| 子宮ガン検診          | 111           | 233,100            | 222,000            | 11,100           |
| 子宮ガン(オプション)     | 425           | 892,500            | 850,000            | 42,500           |
| 乳ガン(オプション)      | 374           | 1,647,338          | 1,568,893          | 78,445           |
| 肝炎ウィルス検査        | 68            | 134,912            | 128,488            | 6,424            |
| 日帰り人間ドック        | 957           | 32,568,494         | 31,017,614         | 1,550,880        |
| 宿泊人間ドック         | 184           | 11,527,782         | 10,978,840         | 548,942          |
| 脳ドック            | 99            | 3,960,000          | 3,771,429          | 188,571          |
| 脳ドック(オプション)     | 35            | 742,000            | 706,667            | 35,333           |
| 市役所関係職員検診       | 2,477         | 22,913,077         | 21,821,978         | 1,091,099        |
| 事業所健診           | 718           | 9,292,412          | 8,849,916          | 442,496          |
| 婦人科検診           | 463           | 1,831,000          | 1,743,810          | 87,190           |
| 婦人科検診(オプション)    | 951           | 2,518,950          | 2,399,000          | 119,950          |
| 乳ガン視触診・マンモグラフィー | 1,126         | 4,847,163          | 4,616,346          | 230,817          |
| B型肝炎ワクチンほか      | 817           | 1,820,069          | 1,733,399          | 86,670           |
| <b>合 計</b>      | <b>10,647</b> | <b>130,438,893</b> | <b>124,227,519</b> | <b>6,211,374</b> |
| 自動車健保二次検診       | 56            | 554,434            | 528,032            | 26,402           |

<文責 高橋 功>

## 事務局

平成20年度の診療報酬改正は、診療報酬本体でプラス0.38%となったものの薬価改定等はマイナス1.2%となり、全体ではマイナス0.82%となりました。また、全国の自治体病院の平成19年度決算は、赤字事業数の割合が75.1%（前年度比3.8ポイント減）となり依然として厳しい状況が続いています。

当院においては、平成19年度の厳しい決算を克服しようとさまざまな検討会を開催しながら職員一丸となって経営の改善に努めてまいりました。その結果、収支状況を大幅に改善することができましたが、もう少しの頑張りが必要というところで、非常に残念な思いをしております。

平成20年度中の策定を求められていた「病院事業改革プラン」は、地方公営企業法全部適用という経営形態を維持し、増改築事業を進めながら経営の効率化と安定を目指すという内容になっております。

また、「市民のための優しい病院づくり」を目指して進めている増改築事業も9月末には実施設計を終え、予算の組替え、施工業者のJV結成、入札手続を経て、平成21年2月から工事を開始しました。工事を始めるにあたっては、患者さんにできるだけご迷惑、ご不便をかけないよう注意を払ったところです。

平成20年度も、患者さん中心の安心・安全な医療の提供に努め、地域の人々に信頼される病院を目指して努力してまいりました。今後も引き続き、経営の健全化に努め、地域の人々の信頼に応えるべく努力してまいります。

<文責 佐藤正弘>

## 総務課

### 企画係

スタッフ 栗田公平、柿崎正行、阿部千鶴子

### 業務内容

- ・ 病院事業の基本計画の策定及び推進に関すること。
- ・ 病院の事務事業の改善及び目標管理に関すること。
- ・ 病院機能評価の取得に関すること。
- ・ 病院事業の経営改善の調査に関すること。
- ・ 病院広告及び広報に関すること。
- ・ 病院ホームページに関すること。
- ・ 皆様の声（投書箱）集計。
- ・ 外来・入院患者様アンケート調査及び集計。

平成20年度皆様の声集計結果

【入手方法】

| 皆様の声 | 電 話 | メール | 職員へ口頭で | その他 | 合 計 |
|------|-----|-----|--------|-----|-----|
| 37   | 3   | 4   | 3      | 7   | 54  |

【内容】

|            | 苦情 | 要望 | 感謝 | その他 |
|------------|----|----|----|-----|
| 診 療 科      | 3  |    | 4  | 7   |
| 看 護 科      | 8  | 2  | 4  |     |
| 事 務 局      | 6  | 4  |    | 6   |
| 診療放射線科     | 1  |    |    |     |
| 薬 剤 科      |    | 1  |    |     |
| リハビリテーション科 |    | 1  | 1  |     |
| 食 養 科      |    | 1  | 3  |     |
| 警 備 員      |    | 1  | 3  |     |
| 病 院        | 2  | 3  | 2  |     |
| そ の 他      | 4  | 1  |    | 1   |
| 合 計        | 25 | 13 | 14 | 7   |

<文責 阿部千鶴子>

総務係

スタッフ 岩根育子（課長補佐兼係長）、水上 彰、吉田綾子、佐藤清美、後藤美佐子、  
中田千絵、佐藤ひろみ、三浦和也、津川明子

人事給与等の管理業務

支払、会計処理、予算・決算処理、起債の管理業務

電話交換業務

公用車・患者搬送車の運転、維持管理業務

文書收受・発送・保管業務

選挙事務（院内入院患者の不在者投票）

互助会会計事務

医局秘書担当

スタッフ 谷口明美

医局関連庶務業務全般

医師スケジュールの管理業務【学会・出張関係各手配、年休管理など】

医局図書室、医師当直室、産泊室の管理業務

医局費、旅行積立金収支報告処理業務

医師給与に関する書類の作成業務

医局行事のセッティング業務

事務当直

スタッフ 佐々木悟、茂木伸悦、小田島定男、浅倉徳夫

夜間の救急患者の受付、電話取次ぎ、早朝の診察券受付等業務

夜間警備

スタッフ 照井祐一、福田藤太郎、石川信雄、鈴木清治、堀江努

夜間の来院者等の確認、院内巡回による戸締り・火気確認等業務

<文責 佐藤 潤>

## 管財係

### 管財係スタッフ

係長（薬品担当） 阿部光子

物品担当 菅原祐司、照井真澄、伊藤有希子

施設担当 伊藤建一、高橋正男、渡辺ひとみ

ボイラー室 森谷 茂、杉田健一、高橋幸志、堀江敦司、山中慎太郎、千葉禎彦

駐車場 珍田 健、黒沢秀利、佐々木政雄、谷口英明

### \* 係長（薬品担当）

#### 業務内容

- ・ 管財係統括
- ・ 医療機器の購入に関すること
- ・ 医薬品・試薬・血液購入の経理、価格交渉、在庫管理
- ・ 酸素使用状況調査
- ・ 職員被服の見積・発注
- ・ 未払金入力処理、貯蔵品入力処理
- ・ 医薬品・診療材料関係使用状況調査
- ・ 棚卸資産調査、統計に関すること
- ・ 院内掲示に関すること
- ・ 行政財産使用許可業務
- ・ その他管財係に関すること

#### ○医療機器契約業務

契約件数 生化学自動分析装置他 3 4 件

契約総額 ￥179,093,238. -

#### ○医薬品見積状況

試薬 H20.3.26

薬品 H20.9.19 1442品目

平成20年度医療機器購入実績

|    | 品名                     | 科・課名           |
|----|------------------------|----------------|
| 1  | 高輝度光源装置（更新）            | （医局）消化器科       |
| 2  | スコープハンガー（新規）           | （医局）消化器科       |
| 3  | 気管支ビデオスコープ（新規）         | （医局）アレルギー・呼吸器科 |
| 4  | 血管撮影システム（更新）           | （医局）放射線科       |
| 5  | 運動負荷装置（トレッドミル）（更新）     | （医局）循環器科       |
| 6  | 多機能心電計（解析機能付）（更新）      | （医局）循環器科       |
| 7  | 小型収納式階段（更新）            | リハビリテーション科     |
| 8  | 生化学自動分析装置（更新）          | 臨床検査科          |
| 9  | 恒温器（インキュベータ）（更新）       | 臨床検査科          |
| 10 | 卓上型プッシュプル換気装置          | 臨床検査科          |
| 11 | 送信機（自動血圧計）（更新）         | ME室            |
| 12 | 除細動器（更新）               | ME室            |
| 13 | 人工呼吸器（更新）              | ME室            |
| 14 | ブレンダー（新規）              | 食養科            |
| 15 | ミーレジェットウォッシャー（新規）      | 手術室・中材室        |
| 16 | バリアフリースケール（更新）         | 透析室            |
| 17 | 多関節CPM装置（新規）           | 3A病棟           |
| 18 | 車搭載用トランスファーストレッチャー（更新） | 総務課            |
| 19 | エコーシステム・感染症改修（新規）      | 医療情報管理室        |
| 20 | 電子カルテシステム端末関連機器（交換用）   | 医療情報管理室        |
| 21 | 画像診断ワークステーション          | 放射線科           |
| 22 | ビデオアップコンバーター           | 内視鏡室           |
| 23 | 無線LANアクセスポイント増設        | 医療情報管理室        |
| 24 | 薬用冷蔵ショーケース             | 無菌室            |
| 25 | 自動血圧計                  | 内科外来           |
| 26 | 画像サーバー増設               | サーバー室          |
| 27 | 輸液ポンプ                  | ME室            |
| 28 | デジタル一眼レフカメラセット         | 標本室            |
| 29 | 血液ガスシステム               | 分娩室            |
| 30 | テーブルトップ遠心機             | 臨床検査科          |
| 31 | ヘッドライトシステムセット          | 泌尿器科           |
| 32 | レセプト博士DPC機能追加          | 医療情報管理室        |
| 33 | 膀胱腎盂ビデオスコープシステム        | 泌尿器科外来         |

|    |          |       |
|----|----------|-------|
| 34 | 臨床用ポリグラフ | 血管造影室 |
| 35 | 安全キャビネット | 無菌製剤室 |

薬品購入実績

|    | 19年度        | 20年度        |
|----|-------------|-------------|
| 内服 | 215,846,805 | 218,527,419 |
| 注射 | 428,893,504 | 464,958,766 |
| 外用 | 45,461,709  | 40,374,376  |
| 血液 | 27,025,796  | 31,963,182  |
| 試薬 | 68,159,625  | 65,161,237  |
| 合計 | 785,387,439 | 820,984,980 |

(消費税含まない)

ボイラー経費実績

|       | 19年度       | 20年度       |
|-------|------------|------------|
| 重油    | 31,795,550 | 32,721,108 |
| 水(市水) | 810,987    | 730,664    |
| 薬品    | 1,073,500  | 1,434,933  |
| 電気    | 6,230,825  | 6,370,738  |
| 合計    | 39,910,862 | 41,257,443 |

(消費税含む)

医療消耗品購入実績

|          | 19年度        | 20年度        |
|----------|-------------|-------------|
| 特定保険医療材料 | 114,081,107 | 130,049,546 |
| 一般医療材料   | 145,027,556 | 157,327,225 |
|          | 259,108,663 | 287,376,771 |

(消費税含む)

<文責 阿部光子>

\*ボイラー室

業務内容

- ・ボイラー室の保守管理
- ・空調機器保守管理
- ・冷暖用ファンコイル保守管理・蛍光灯交換及び管理
- ・冷房・暖房運転
- ・自家発電機の管理

- ・重油取り扱い及び管理
- ・医療ガス設備点検及び酸素ポンベ交換

○宿直時のトラブル及びナースステーションからの要請

|       |     |
|-------|-----|
| 警報関係  | 5件  |
| 施設関係  | 36件 |
| 蛍光灯関係 | 87件 |
| ナース関係 | 62件 |

**まとめ**

20年度の気候は例年より夏は涼しく冬は雪が少なく過ごし易い一年だったように思います。重油は原油価格の高騰で10月まで前年度より高めに推移し特に8月がピークで19年度は1㍶当たり75円60銭が20年度は123円38銭まで上がり先行きが心配されました。11月から前年度より価格が下がり3月末で約93万円程の増加にとどまりました。使用量は前年度より18000㍶の減で暖房や省エネ（温水の有効利用、ファンコイル、空調の再検討）により大幅に減量ができました。水、電気も省エネの効果が出て減になり薬品はボイラの缶体保護を重視し使用量が増えました。

夜間のトラブルや要請件数ですが総体の件数は若干減少しました。蛍光灯、施設関係は経年毎に増える傾向にあります。警報関係は昨年度に続き減少し良い傾向です。

年々冷暖房の要求が早くなってきており切り替えの期間が短く苦慮しておりますができる限り重油の使用量を抑え要望にこたえて参りたいと思っております。そのためには効率の良い運転と再利用水の比率を高める事が大切です。知恵と更に技術を身に付け今までのすべてを再検討する必要があります。

21年度は次の目標でがんばります。

1. 急激な負荷変動をなくし時間に余裕と緊張感をもって安全な運転操作を心がけます。
1. 省エネを重視し更にボイラ効率の向上に努めます。（空調機、温水の有効活用、補給水の再利用率の向上）
1. 早期発見、早期対応を心がけ修理の拡大や被害を最小限に抑え経費減に努めます。

<文責 森谷 茂>

## 医 事 課

ここ数年、医療保険制度が大きく変化する中で、度重なる診療報酬の引き下げで医療収益の確保が厳しい状況にあります。

平成19年10月から電子カルテの導入により、患者情報の共有化、医療の効率化が図られました。また、平成21年4月からのDPC対象病院実施に向けて体制の準備を行いました。

医事課にとっては診療部門の努力をいかに保険請求に反映させていくか、また、査定、返戻の減少は永遠のテーマでもあり、日々解決策を模索しております。

なお大変厳しい経営環境にあり、請求漏れ等のないよう「質の高い医療事務職員」を目指して努力してまいりたいと思います。

### ○ 平成20年4月1日現在のスタッフ

|        |         |        |         |        |
|--------|---------|--------|---------|--------|
| 高橋 幸一  | 浮嶋 優子   | 石山 博幸  | 木村 宏樹   | 百合川 深里 |
| 村田 芳江  | 石塚 紫    | 伊藤 雅子  | 田澤 妙子   | 谷川 香奈子 |
| 伊藤 雅子  | 佐々木 有紀子 | 伊藤 春香  | 佐々木 和貴子 |        |
| 照井 希世子 | 菅原 真由美  | 藤田 ゆかり | 伊藤 喜美子  |        |
| 高橋 真知子 | 藤原 明子   | 青池 満雄  |         |        |

### ○ 医事課の業務内容

#### ※診療報酬請求事務

##### 医 事 係

##### 《 入院事務担当 》

- ・受付業務
- ・入院日報作成
- ・入院情報登録
- ・カルテ管理
- ・保険請求業務
- ・定期、退院会計
- ・空床状況救急報告
- ・労災、公務災害の処理
- ・交通事故の処理
- ・新生児出生届出
- ・諸証明の受付管理
- ・産科医療補償制度

##### 《 外来事務担当 》

- ・受付業務
- ・カルテ管理
- ・交通事故の処理
- ・労災、公務災害の処理
- ・生保給付券の処理
- ・諸証明の受付処理
- ・医療要否意見書の処理（生保）
- ・検診契約
- ・CTスキャン委託契約
- ・病院日報、月報の作成
- ・各種申請届出
- ・院内調整

##### 会 計 係

- ・窓口現金徴収
- ・未払い金の徴収
- ・窓口現金振込金と領収書の突合
- ・現金収入内訳表の作成（月報）
- ・日計表の作成
- ・納入通知書の作成、消込
- ・調定業務
- ・決算資料の作成

##### 医療相談室

- ・医療相談
- ・福祉機関との連携
- ・介護保険主治医意見書の処理

○ 地域別患者数の状況 (平成20年度)

| 区分    | 入院     | 外来      |
|-------|--------|---------|
| 横手区   | 33,944 | 80,959  |
| 平鹿町   | 8,707  | 16,359  |
| 雄物川町  | 3,837  | 8,606   |
| 大森町   | 866    | 2,663   |
| 大雄    | 2,340  | 5,711   |
| 十文字町  | 6,782  | 11,611  |
| 増田町   | 3,964  | 6,233   |
| 山内    | 3,745  | 6,173   |
| 美郷町   | 1,513  | 3,128   |
| 湯沢・雄勝 | 10,576 | 14,463  |
| 大曲・仙北 | 2,564  | 5,176   |
| 湯田町   | 463    | 840     |
| その他   | 573    | 1,387   |
| 合計    | 79,874 | 163,309 |

|      |        |       |       |        |      |
|------|--------|-------|-------|--------|------|
| 外科   | 13,221 | 693   | 760   | 13,981 | 18.2 |
| 整形外科 | 5,569  | 172   | 176   | 5,745  | 32.0 |
| 産婦人科 | 3,014  | 420   | 432   | 3,446  | 7.1  |
| 小児科  | 2,858  | 709   | 704   | 3,562  | 4.0  |
| 泌尿器科 | 2,536  | 212   | 209   | 2,745  | 12.0 |
| 呼吸器科 | 7,039  | 256   | 270   | 7,309  | 26.8 |
| 消化器科 | 25,764 | 1,487 | 1,416 | 27,180 | 17.7 |
| 循環器科 | 12,437 | 310   | 295   | 12,732 | 41.1 |
| 合計   | 75,525 | 4,340 | 4,349 | 79,874 | 17.4 |

|      | 在院患者   | 入院    | 退院    | 総患者    | 在院日数         |
|------|--------|-------|-------|--------|--------------|
| 2病棟  | 17,076 | 1,212 | 1,190 | 18,266 | 86.3<br>14.2 |
| 3A病棟 | 18,575 | 1,237 | 1,244 | 19,819 | 81.0<br>15.0 |
| 3B病棟 | 18,296 | 1,140 | 1,146 | 19,442 | 88.8<br>16.0 |
| 4病棟  | 21,578 | 751   | 769   | 22,347 | 94.2<br>28.4 |
| 合計   | 75,525 | 4,340 | 4,349 | 79,874 | 87.5<br>17.4 |

※ 在院日数中、上段は病床利用率

<文責 高橋幸一>

## 医療情報管理室

20年度は院内医療情報システムの安全かつ合理的な運用と適正な管理を目標とし、電子カルテのさらなる構築を行なった。

昨年度の電子カルテシステムの導入に伴い、既存のオーダーリングシステムの改善にも取り組み、院内システム機器関連では、泌尿器科・外科・産婦人科のエコーシステムを整備することで電子カルテとの運用を可能にし、医局のパソコンの入れ替え、検査科のハード関係の整備を行なった。

また、病棟でのノートパソコンの使用については、電波状況を把握しつつ運用を勧めてきたが、看護業務と絡めて課題が残っている。

さらに2月に行った電子カルテ使用に関するアンケート調査の結果を公表、相対的に見て概ね良好との評価を得たが、今後も職員の意見を参考に改善を行っていきたいと考えている。

情報の管理では、今年度はセキュリティソフトを導入し管理を強化。現在大きな事故は発生していないが、院内システムのセキュリティ管理については、今後も適正な管理を行う必要がある。

秋田県診療情報共有化システムについては、県のシステムと当院の電子カルテ・オーダーリングシステムとの連携について手法・予算・日程等が合わず、当院では専用端末を紹介状受信専用とし、情報公開等については当院のシステムを使用することで県と合意。20年度も事業は継続されたが、当院での利用状況はととも低く、今後の運用については課題が残った。

今後は電子カルテの更なる向上と医療情報の管理・提供・開発に努めてまいりたい。

### スタッフ

|       |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 藤盛 修成 | 加藤 健  | 佐藤セツ子 | 照井 洋子 | 高橋 共子 |
| 浮嶋 優子 | 柿崎 正行 | 照井 圭子 | 渡辺 瑞穂 | 田中 大輔 |
| 伊藤 誉幸 | 岩野 陽悦 |       |       |       |

<文責 浮嶋優子>

## 病診連携室

今年度は、診察2052件、検査754件、合計2806件のご紹介をいただきました。昨年度と比較いたしますと、紹介件数は67件の減少となりました。

紹介件数としましては減少となりましたが、診療科別に見ますと、昨年度と比較し、消化器科で約80件、泌尿器科で約40件、放射線科で約120件の増加となっております。

今後も皆様に選ばれる病院を目指し、地域医療に貢献できるよう努めていきたいと思っております。

また、10月28日には病診連携セミナーを開催し、19施設の先生方のご参加をいただきました。消化器内科藤盛医師より「病診連携システムのご紹介」、消化器内科船岡医師より「当院におけるC型慢性肝炎治療とインターフェロン治療助成金制度開始後の状況」と題してセミナーがありました。

今後も年1回の貴重な情報交換の場として続けていきたいと思っております。

### スタッフ

|         |    |    |
|---------|----|----|
| 室長      | 吉岡 | 浩  |
| 副室長     | 藤盛 | 修成 |
| 医事課課長補佐 | 浮嶋 | 優子 |
| 医事課     | 高橋 | 美幸 |

### 業務内容

- ・ 医療機関からの紹介患者の受け入れ
- ・ 医療機関からの検査予約の受け入れ（電話・FAX）
- ・ 紹介患者の経過報告
- ・ 医師異動や外来担当変更時、変更内容について医療機関へ連絡
- ・ 紹介元医療機関と病院側との諸連絡取次ぎ
- ・ 紹介患者実績や検査利用状況など統計資料を定期的に作成
- ・ 病診連携室だより「かじか」発行

#### 医療機関訪問

- ・ 8月上旬・・・34医療機関訪問、12月下旬・・・36医療機関訪問  
（丹羽副院長、吉岡副院長、藤盛副院長、浮嶋課長補佐、高橋）

### 病診連携セミナー

10月28日（会場：横手セントラルホテル）

セミナー「病診連携システムのご紹介」

副院長 藤盛 修成

「当院におけるC型慢性肝炎治療とインターフェロン治療助成金制度開始後の状況」

副院長 船岡 正人

セミナー（院外19名、院内42名 計61名参加）

懇親会（院外17名、院内35名 計52名参加）

平成20年度 市立横手病院紹介率

|        | 4    | 5    | 6    | 7    | 8    | 9    | 10   | 11   | 12   | 1    | 2    | 3    | 計     |
|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| ①初診患者数 | 1402 | 1450 | 1456 | 1407 | 1436 | 1515 | 1642 | 1313 | 1408 | 1486 | 1440 | 1429 | 17384 |
| ②救急搬送数 | 60   | 57   | 69   | 51   | 59   | 64   | 65   | 44   | 61   | 56   | 43   | 51   | 680   |
| ③紹介患者数 | 157  | 125  | 168  | 197  | 126  | 168  | 164  | 128  | 143  | 151  | 149  | 145  | 1821  |
| 紹介率(%) | 15.5 | 12.6 | 16.3 | 17.6 | 12.9 | 15.3 | 13.9 | 13.1 | 14.5 | 13.9 | 13.3 | 13.7 | 14.4  |

$$\text{紹介率} = (\text{②} + \text{③}) / \text{①} \times 100\%$$

(①・・・時間外、休日、深夜受診の6歳未満の小児患者を除く)

平成20年度平均紹介率=14.4%

平成20年度 病診連携室紹介内訳

|         | 4   | 5   | 6   | 7   | 8   | 9   | 10  | 11  | 12  | 1   | 2   | 3   | 計    |
|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 診察      | 170 | 149 | 203 | 212 | 152 | 190 | 190 | 130 | 164 | 164 | 161 | 167 | 2052 |
| C T     | 20  | 18  | 28  | 36  | 31  | 25  | 22  | 17  | 14  | 21  | 37  | 31  | 300  |
| MRI     | 34  | 36  | 33  | 42  | 27  | 34  | 27  | 37  | 36  | 30  | 39  | 36  | 411  |
| MCV     | 2   | 2   | 7   | 1   | 1   | 1   | 4   | 3   | 5   | 3   | 1   | 4   | 34   |
| EEG     | 0   | 0   | 0   | 0   | 1   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 1    |
| トレッドミル  | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0    |
| ホルター心電図 | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0    |
| UCG     | 1   | 0   | 0   | 2   | 1   | 1   | 1   | 1   | 0   | 0   | 0   | 1   | 8    |
| 計       | 227 | 205 | 271 | 293 | 213 | 251 | 244 | 188 | 219 | 218 | 238 | 239 | 2806 |

平成20年度 病診連携室紹介内訳(診療科別)

|      | 4   | 5   | 6   | 7   | 8   | 9   | 10  | 11  | 12  | 1   | 2   | 3   | 計    |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 内科   | 14  | 12  | 15  | 16  | 15  | 14  | 13  | 8   | 13  | 14  | 19  | 14  | 167  |
| 消化器科 | 62  | 44  | 73  | 73  | 54  | 72  | 71  | 52  | 67  | 61  | 55  | 62  | 746  |
| 循環器科 | 9   | 9   | 19  | 16  | 8   | 15  | 13  | 1   | 10  | 11  | 11  | 8   | 130  |
| 呼吸器科 | 2   | 8   | 16  | 7   | 6   | 4   | 10  | 6   | 8   | 5   | 3   | 5   | 80   |
| 外科   | 6   | 6   | 16  | 22  | 8   | 11  | 12  | 11  | 9   | 9   | 12  | 10  | 132  |
| 整形外科 | 21  | 19  | 25  | 19  | 20  | 23  | 22  | 17  | 22  | 19  | 19  | 20  | 246  |
| 婦人科  | 18  | 11  | 16  | 17  | 12  | 15  | 16  | 10  | 9   | 8   | 10  | 14  | 156  |
| 小児科  | 29  | 27  | 24  | 34  | 22  | 27  | 27  | 23  | 21  | 28  | 25  | 23  | 310  |
| 泌尿器科 | 9   | 14  | 6   | 8   | 6   | 11  | 10  | 5   | 10  | 10  | 7   | 16  | 112  |
| 眼科   | 1   | 1   | 0   | 1   | 1   | 0   | 0   | 0   | 0   | 1   | 1   | 0   | 6    |
| 心療内科 | 2   | 0   | 0   | 2   | 2   | 0   | 1   | 1   | 0   | 1   | 0   | 0   | 9    |
| 放射線科 | 54  | 54  | 61  | 78  | 59  | 59  | 49  | 54  | 50  | 51  | 76  | 67  | 712  |
| 計    | 227 | 205 | 271 | 293 | 213 | 251 | 244 | 188 | 219 | 218 | 238 | 239 | 2806 |

平成20年度 病診連携室紹介内訳(地域別)

紹介件数

|         | 診察   | 検査  | 計    |
|---------|------|-----|------|
| 横手市     | 1467 | 709 | 2176 |
| 湯沢市・雄勝郡 | 285  | 4   | 289  |
| 大仙市・仙北郡 | 109  | 33  | 142  |
| 県内      | 71   | 0   | 71   |
| 県外      | 120  | 8   | 128  |
| 計       | 2052 | 754 | 2806 |

依頼検査

|         | CT  | MRI | MCV | EEG | UCG | ホルター心電図 | トレッドミル | 計   |
|---------|-----|-----|-----|-----|-----|---------|--------|-----|
| 横手市     | 292 | 376 | 32  | 1   | 8   | 0       | 0      | 709 |
| 湯沢市・雄勝郡 | 3   | 1   | 0   | 0   | 0   | 0       | 0      | 4   |
| 大仙市・仙北郡 | 1   | 30  | 2   | 0   | 0   | 0       | 0      | 33  |
| 県内      | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0       | 0      | 0   |
| 県外      | 4   | 4   | 0   | 0   | 0   | 0       | 0      | 8   |
| 計       | 300 | 411 | 34  | 1   | 8   | 0       | 0      | 754 |

<文責 高橋美幸>

# 医療安全管理室

## 概要

医療安全管理室は、医療事故防止活動を通して「医療の質を保証すること・質の向上を目指すこと」を目的とし組織横断的に安全管理体制を構築する事を目的としている。

平成20年4月より、医療安全管理室に専任の医療安全管理担当者を配置し、病院全体の医療安全のに関する業務に従事し、医療安全に関する企画・立案および評価、委員会の円滑な運営の支援、また、職員への医療安全に関する教育研修、情報収集と分析、再発防止策や、発生予防等に務める。

## 構成員

医療安全管理室は、医療安全管理室長のもと次にあげる者をもって構成する。

- |                            |        |
|----------------------------|--------|
| 1) 医療安全管理室長                | 丹羽 誠   |
| 2) 医療安全管理室担当者（専任リスクマネージャー） | 佐々木 佳子 |
| 2) 医薬品安全管理者                | 石田 良樹  |
| 3) 医療機器安全管理担当者             | 川越 弦   |
| 4) 転倒転落作業部会長               | 高橋 貞広  |
| 5) 看護科作業部会長                | 佐藤 セツ子 |
| 6) 医療安全管理室事務               | 阿部 千鶴子 |
| 7) 院内感染対策担当者               | 小川 伸   |

## 業務

### 1、院内報告制度の整備

ひやりハット報告書の検討

集計・分析

### 2、医療安全の委員会に関する活動

リスクマネージャー委員会・感染対策委員会・救急運営委員会etc.

### 3、医療安全の為の部署間の調整・対策等の提案

ひやりハット通信の作成・回覧

### 4、医療安全の為の指針やマニュアルの作成

1) 医療安全に関する指針・規程の見直し

2) 医療安全マニュアルの作成

### 5、医療安全に関する研修・教育

| 開催    | 内容                          | 対象                  |
|-------|-----------------------------|---------------------|
| 4月18日 | 転倒・転落の事故防止                  | 臨床研修医・看護師・リハビリ・看護補助 |
| 6月5日  | アンカロン使用時における<br>輸液ポンプ使用上の注意 | 臨床研修医・看護科・薬剤科       |
| 7月9日  | 造影検査における<br>リスクマネージメント      | 臨床研修医・看護科           |

|              |                                  |                           |
|--------------|----------------------------------|---------------------------|
| 11月17日       | 院内感染対策について                       | 全職員                       |
| 12月15日       | 危険薬剤について                         | 臨床研修医・看護科                 |
| 12月18日       | 医療安全の概要について<br>K Y T トレーニング・事例検討 | 臨床研修医・看護科主任・薬剤師           |
| 2月20・<br>23日 | 医療安全の考え方<br>医療事故発生時の対応           | 全職員                       |
| 3月11日        | MR I 検査における医療安全<br>自動輸液ポンプの安全使用  | 臨床研修医・看護科・放射線科・ME・<br>その他 |

#### 6、医療安全に関する院外からの情報収集と対策

医療安全情報の掲載

#### 7、医療安全に関する院内評価業務

投薬確認の監査

薬品保管に関する監査

救急カートの整備状況監査

### 平成20年度の主な事項

#### 1、平成20年5月「微量採血用穿刺器具の不適切使用」の注意喚起（厚生労働省）

厚生労働省からの「微量採血用穿刺器具の不適切使用」の注意喚起を受け、当院では、穿刺器具の不適切使用が平成18年2月から平成19年6月までのあいだ認められたために、不適切使用の可能性のある患者368名に対し、お詫びとお知らせを郵送。また、感染の可能性のある患者310名のうち、希望のある患者に感染症の無料検査を施行した。結果121名が検査を希望し、感染の陽性反応が疑われる患者はいなかった。

また、不適切と指摘された微量採血用穿刺器具を、適切な器具に変更を行った。

#### 2、医療安全研修会「院内感染対策について」

全職員対象の医療安全研修会の開催を平成20年11月17日（月）かまくら館で開催した。秋田大学臨床検査医学准教授 萱場宏之先生をお迎えして「アウトブレイク事例から学ぶ感染対策」と題して、講演を頂いた。当院、大森病院以外にも平鹿病院、羽後病院、角館病院からもたくさんの参加者があった。当院の参加者は209名の参加があった。

#### 3、医療安全マニュアルの作成

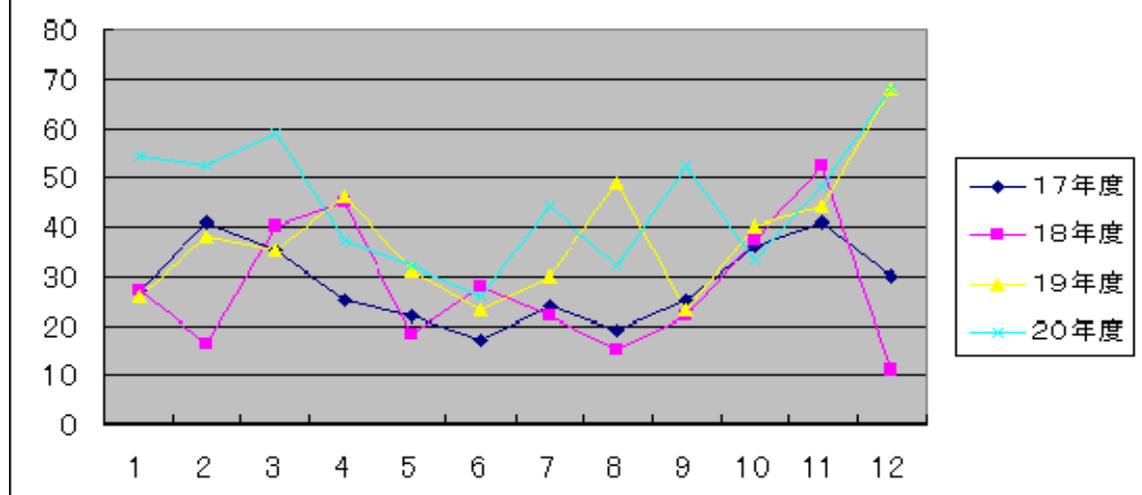
院内で決定された医療安全対策を「医療安全マニュアル」として作成した。各部署（22部署）に冊子として配布し、また、院内ネットワークに掲載し、閲覧できるようにした。

平成20年度ひやりハット集計

<月別件数>

| 月   | 13年度 | 14年度 | 15年度 | 16年度 | 17年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 |
|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 4月  |      | 1    | 22   | 28   | 27   | 27   | 26   | 54   |
| 5月  |      | 23   | 30   | 30   | 41   | 16   | 38   | 52   |
| 6月  |      | 15   | 25   | 45   | 35   | 40   | 35   | 59   |
| 7月  | 4    | 21   | 44   | 28   | 25   | 45   | 46   | 37   |
| 8月  | 28   | 22   | 38   | 28   | 22   | 18   | 31   | 32   |
| 9月  | 24   | 29   | 40   | 10   | 17   | 28   | 23   | 26   |
| 10月 | 32   | 33   | 19   | 35   | 24   | 22   | 30   | 44   |
| 11月 | 19   | 30   | 31   | 40   | 19   | 15   | 49   | 32   |
| 12月 | 15   | 42   | 33   | 40   | 25   | 22   | 23   | 52   |
| 1月  | 24   | 26   | 17   | 27   | 36   | 37   | 40   | 33   |
| 2月  | 17   | 21   | 20   | 37   | 41   | 52   | 44   | 48   |
| 3月  | 8    | 31   | 39   | 25   | 30   | 11   | 68   | 68   |
| 合計  | 171  | 294  | 358  | 373  | 342  | 333  | 453  | 537  |

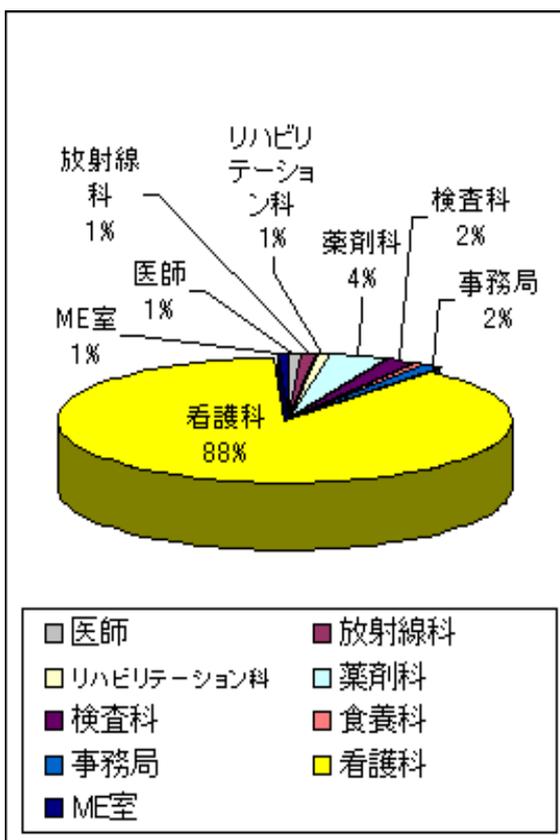
<年度毎 月別提出件数グラフ>



< 部署別提出率 >

| 部署名        | 提出数 | 提出率    | 人数  | 人数に対する % |
|------------|-----|--------|-----|----------|
| 医師         | 5   | 0.9%   | 30  | 17%      |
| 放射線科       | 6   | 1.1%   | 8   | 75%      |
| リハビリテーション科 | 4   | 0.7%   | 8   | 50%      |
| 薬剤科        | 23  | 4.3%   | 12  | 192%     |
| 検査科        | 10  | 1.9%   | 14  | 71%      |
| 食養科        | 2   | 0.4%   | 22  | 9%       |
| 事務局        | 9   | 1.7%   | 73  | 12%      |
| 看護科        | 474 | 88.3%  | 203 | 233%     |
| ME室        | 4   | 0.7%   | 2   | 200%     |
| 総提出数       | 537 | 100.0% | 372 |          |

< 部署別提出率グラフ >



< 月毎重大度別件数 >

| 重大度 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 平均   |
|-----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|------|
| 1   | 29 | 32 | 33 | 19 | 15 | 9  | 15  | 14  | 26  | 13 | 34 | 0  | 21.7 |
| 2   | 23 | 19 | 22 | 9  | 14 | 14 | 19  | 13  | 19  | 11 | 11 | 29 | 17.1 |
| 3   | 0  | 0  | 0  | 1  | 1  | 0  | 4   | 1   | 1   | 0  | 0  | 33 | 0.9  |
| 無回答 | 2  | 1  | 4  | 8  | 2  | 3  | 6   | 4   | 6   | 9  | 3  | 6  | 4.5  |

< 月毎レベル別件数 >

| レベル | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 平均   |
|-----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|------|
| 1   | 41 | 29 | 31 | 16 | 11 | 13 | 20  | 19  | 22  | 14 | 24 | 37 | 23.0 |
| 2   | 6  | 18 | 18 | 9  | 10 | 11 | 15  | 6   | 13  | 9  | 13 | 12 | 12.4 |
| 3   | 1  | 1  | 2  | 1  | 5  | 0  | 0   | 0   | 1   | 1  | 2  | 1  | 1.4  |
| 4   | 0  | 0  | 0  | 1  | 1  | 0  | 0   | 0   | 0   | 0  | 0  | 0  | 0.3  |
| 5   | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0   | 0   | 0   | 0  | 0  | 0  | 0.0  |
| 0   | 4  | 3  | 4  | 5  | 3  | 2  | 9   | 4   | 11  | 4  | 6  | 15 | 4.3  |
| 無回答 | 2  | 1  | 4  | 5  | 2  | 0  | 0   | 3   | 5   | 5  | 3  | 3  | 2.8  |

< 文責 佐々木佳子 >

# 病院統計



収支決算  
貸借対照表

|             | 平成 20 年度      |
|-------------|---------------|
| 固定資産        | 3,363,115,353 |
| 有形固定資産      | 3,362,087,773 |
| 土地          | 233,689,628   |
| 建物          | 1,885,406,559 |
| 構築物         | 55,808,238    |
| 器械及び備品      | 1,114,426,542 |
| 車両          | 5,043,356     |
| 建設仮勘定       | 67,713,450    |
| 無形固定資産      | 1,027,580     |
| 電話加入権       | 1,027,580     |
| 流動資産        | 2,123,310,491 |
| 現金預金        | 1,090,389,387 |
| 未収金         | 999,609,997   |
| 貯蔵品         | 33,311,107    |
| その他流動資産     | 0             |
| 資産合計        | 5,486,425,844 |
| 流動負債        | 183,999,345   |
| 未払金         | 173,205,240   |
| 預り金         | 10,794,105    |
| 預り有価証券      | 0             |
| 負債合計        | 183,999,345   |
| 資本金         | 5,303,122,724 |
| 自己資本金       | 2,307,806,153 |
| 借入資本金       | 2,995,316,571 |
| 企業債         | 2,995,316,571 |
| 剰余金         | 57,285,000    |
| 資本剰余金       | 57,285,000    |
| 受贈財産評価額     | 0             |
| 他会計負担金      | 57,285,000    |
| 他会計補助金      | 0             |
| 国県補助金       | 0             |
| 利益剰余金       | 1,860,000     |
| 減債積立金       | 1,860,000     |
| 当年度未処分利益剰余金 | 0             |
| 欠損金         | 59,841,225    |
| 当年度未処理欠損金   | 59,841,225    |
| 資本合計        | 5,302,426,499 |
| 負債資本合計      | 5,486,425,844 |

単位:円

収益的収支決算(税抜き)

| 科目         | 平成 20 年度      | 単位:円 |
|------------|---------------|------|
| 病院事業収益     | 4,547,394,307 |      |
| 医業収益       | 4,358,723,450 |      |
| 入院収益       | 2,674,818,833 |      |
| 外来収益       | 1,479,195,451 |      |
| その他医業      | 204,709,166   |      |
| 医業外収益      | 188,670,857   |      |
| 受取利息及び配当金  | 2,173,992     |      |
| 国県補助金      | 13,781,300    |      |
| 他会計負担金     | 151,007,000   |      |
| その他医業外収益   | 21,708,565    |      |
| 特別利益       | 0             |      |
| 病院事業費用     | 4,576,504,298 |      |
| 医業費用       | 4,448,702,073 |      |
| 給与費        | 2,455,433,011 |      |
| 材料費        | 1,195,867,420 |      |
| 経費         | 462,093,032   |      |
| 減価償却費      | 312,031,824   |      |
| 資産減耗費      | 7,504,356     |      |
| 研究研修費      | 15,684,230    |      |
| 重量税        | 88,200        |      |
| 医業害費用      | 127,698,525   |      |
| 支払利息及び企業債取 | 127,620,410   |      |
| 雑損失        | 78,115        |      |
| 特別損失       | 103,700       |      |

資本的収支決算

|               |               |              |
|---------------|---------------|--------------|
| 資本的収入         | 1,045,803,000 | 581,155,000  |
| 他会計出資金(H18より) | 127,003,000   | 120,655,000  |
| 企業債           | 918,800,000   | 460,500,000  |
| 固定資産売却代金      | 0             | 0            |
| 資本的支出         | 1,210,694,150 | 782,182,325  |
| 建設改良費         | 245,495,238   | 457,087,247  |
| 企業債償還金        | 965,198,912   | 325,095,078  |
| 差引収支不足額       | -164,891,150  | -201,027,325 |
| 補てん財源         | 164,891,150   | 201,027,325  |
| 過年度分損益勘定留保資金  | 164,891,150   | 201,027,325  |

参考(H19)

他会計負担金

|       |         | 外 来           | 入 院           |
|-------|---------|---------------|---------------|
|       |         | 平成 20 年度      |               |
| 内 科   | 患 者 数   | 79,594        | 50,395        |
|       | 一 日 平 均 | 327.5         | 138.1         |
|       | 収 入     | 728,239,483   | 1,428,546,335 |
|       | 平 均 単 価 | 9,149         | 28,347        |
| 外 科   | 患 者 数   | 15,050        | 13,981        |
|       | 一 日 平 均 | 61.9          | 38.3          |
|       | 収 入     | 161,662,633   | 638,219,324   |
|       | 平 均 単 価 | 10,742        | 45,649        |
| 整形外科  | 患 者 数   | 17,968        | 5,745         |
|       | 一 日 平 均 | 73.9          | 15.7          |
|       | 収 入     | 77,558,779    | 237,624,838   |
|       | 平 均 単 価 | 4,316         | 41,362        |
| 産婦人科  | 患 者 数   | 6,814         | 3,446         |
|       | 一 日 平 均 | 28.0          | 9.4           |
|       | 収 入     | 43,240,175    | 158,270,460   |
|       | 平 均 単 価 | 6,346         | 45,929        |
| 小 児 科 | 患 者 数   | 30,118        | 3,562         |
|       | 一 日 平 均 | 123.9         | 9.8           |
|       | 収 入     | 183,690,312   | 109,093,795   |
|       | 平 均 単 価 | 6,099         | 30,627        |
| 泌尿器科  | 患 者 数   | 12,557        | 2,745         |
|       | 一 日 平 均 | 51.7          | 7.5           |
|       | 収 入     | 271,456,513   | 103,064,081   |
|       | 平 均 単 価 | 21,618        | 37,546        |
| 眼 科   | 患 者 数   | 1,208         |               |
|       | 一 日 平 均 | 5.0           |               |
|       | 収 入     | 13,347,556    |               |
|       | 平 均 単 価 | 11,049        |               |
| 計     | 患 者 数   | 163,309       | 79,874        |
|       | 一 日 平 均 | 672.1         | 218.8         |
|       | 収 入     | 1,479,195,451 | 2,674,818,833 |
|       | 平 均 単 価 | 9,058         | 33,488        |



## 委員会活動



# 安全管理委員会

## 概要

医療安全管理委員会は、院内における医療の安全管理体制の確立を図り、適切かつ安全な医療の提供に資することを目的としている。

本委員会は、リスクマネジャー委員会と事故対策委員会から組織されている。

リスクマネジャー委員会は、医療事故防止を図るための実質的な委員会として、医療事故・ひやりハット体験報告書の評価、分析、具体的対策の検討、また、決定された医療安全の為の対策の周知・徹底を行っている。

事故対策委員会は、重大な医療事故の発生時に召集され、具体的な事故対応を行うものである。

## 委員会の構成員

### リスクマネジャー委員会

委員長 丹羽 誠

|    |        |       |       |       |
|----|--------|-------|-------|-------|
| 委員 | 吉岡 浩   | 和泉千香子 |       |       |
|    | 赤川恵理子  | 田中 由江 | 小野寺撰子 | 嶋田麻由子 |
|    | 鳶田 麗子  | 高橋 美里 | 高橋 正子 | 矢野多智子 |
|    | 小田島千津子 | 木村恵美子 | 佐藤セツ子 | 佐藤 昌悦 |
|    | 小田嶋明子  | 佐々木佳子 |       |       |
|    | 石田 良樹  | 法花堂 学 | 高橋 信夫 | 川越 弦  |
|    | 平塚多喜雄  | 天羽 勝義 | 木村 宏樹 | 吉田 綾子 |

### 事故対策委員会

委員長 丹羽 誠

|    |       |       |       |       |
|----|-------|-------|-------|-------|
| 委員 | 長山正四郎 | 吉岡 浩  | 藤盛 修成 | 木村カズ子 |
|    | 佐藤 正弘 | 高橋 幸一 |       |       |

## リスクマネジャー委員会開催日

|             |        |        |        |
|-------------|--------|--------|--------|
| 平成20年 4月 8日 | 5月13日  | 6月10日  | 7月 8日  |
| 9月 9日       | 10月10日 | 11月11日 | 12月 9日 |
| 平成21年 1月13日 | 2月 4日  | 3月10日  |        |

## 主な協議決定事項

- 1) 放射線科での検査・処置時に使用する薬剤の指示入力について  
放射線検査時の指示入力手順の見直し
- 2) 薬剤科から払いだされる、訪問看護患者・在宅患者の高カロリー輸液の確認方法について  
訪問看護・在宅医療患者の処方方法の手順見直し
- 3) 特殊薬剤使用時の点滴ルートおよび自動輸液ポンプの取り扱いについて  
PVCフリー輸液セット使用一覧の作成と勉強会の開催

- 4) 入院時持参薬の取り扱いについて  
入院時持参薬管理手順の作成
- 5) 服薬自立度の判定基準とカルテ画面表示について  
服薬自立度区分の確認と服薬自立度判定基準の作成
- 6) 重要薬剤の重複投与防止について
- 7) 麻薬製剤の処方方法と取り扱いについて  
麻薬製剤管理マニュアルのみなおし
- 8) 静脈採血による神経損傷について  
神経損傷マニュアル作成
- 9) 持注ポンプ取り扱いについて  
持注ポンプの見直し（機種）新規の購入決定
- 10) ハイリスク薬剤の管理について  
リマインダー作成・オーダーリング上の注意喚起
- 11) 特殊検査について
- 12) 時間外検査の指示入力について  
時間外検査指示入力のシステム変更（新規伝票に設定）
- 13) 転倒・転落後の対応手順作成

医療事故対策委員会は、取り扱うべき案件がなく招集されなかった

<文責 佐々木佳子>

## 倫理委員会

### 概要

院内で実施される医療または臨床研究について、生命倫理及び医学倫理に関する事項が妥当であるかを審査することを目的として設置された。院外委員1名を含んでいる。

### 構成員氏名

|      | 役 職           | 氏 名     |
|------|---------------|---------|
| 委員長  | 副 院 長         | 丹 羽 誠   |
| 副委員長 | 副 院 長         | 藤 盛 修 成 |
|      | 総看護師長         | 木 村 カズ子 |
|      | リハビリテーション科技師長 | 小田嶋 尚 人 |
|      | 薬剤科主任         | 渡 邊 圭 子 |
|      | 事 務 局 長       | 佐 藤 正 弘 |
|      | 見識を有する者       | 三 橋 由美子 |

### 活動記録

平成20年度は、倫理委員会で審議すべき申請がなかったので開催されなかった。

<文責 佐藤正弘>

## 栄養管理委員会

栄養管理委員会は、給食関係諸部との連絡を緊密にし、栄養管理業務の円滑な運営と給食の充実・改善・向上を図ることを目的としています。

### 協議事項

- ①栄養業務の運営に関する事項
- ②栄養業務の向上に関する事項
- ③各職域間の円滑な運営に関する事項
- ④施設・設備の改善に関する事項
- ⑤その他栄養サービスに関する事項

委員会の構成員は以下に示したとおりであり、平成20年度の主な議題を示しました。

| 役 職         | 氏 名   | 役 職       | 氏 名   |
|-------------|-------|-----------|-------|
| 院 長         | 長山正四郎 | 薬 剤 師     | 小宅 英樹 |
| 副 院 長       | 船岡 正人 | 食養科技師長    | 原田 優子 |
| 食 養 科 長     | 粕谷 孝光 | 主 任       | 川越 真美 |
| 事 務 局 長     | 佐藤 正弘 | 主席調理技能士   | 天羽 勝義 |
| 医 事 課 長     | 高橋 幸一 | 主 任       | 小松 信広 |
| 総 師 長       | 木村カズ子 | 嘱 託 調 理 師 | 本間イネ子 |
| 2 病 棟 師 長   | 高橋千鶴子 | 嘱 託 調 理 師 | 松井世津子 |
| 3 A 病 棟 師 長 | 木村真貴子 |           |       |
| 3 B 病 棟 師 長 | 木下 文子 |           |       |
| 4 病 棟 師 長   | 藤井 洋子 |           |       |

### 平成20年度委員会開催日および主な議題

平成20年4月22日

- \* 「緊急時病院給食協力支援マニュアル」作成中である
- \* 栄養補助食品についての説明
- \* 平成20年診療報酬改定「後期高齢者退院時指導料」について

平成20年7月2日

- \* 「エンジョイプロテインF e z」の採用決定
- \* 予算請求していた「ブレンダー」が納品された

平成20年10月8日

- \* 「緊急時病院給食協力支援マニュアル」の完成報告
- \* 介護用スプーンの商品説明
- \* 残食調査に関するアンケート結果について

平成21年1月27日

- \* 見直しをかけていた「約束食事箋」が完成した
- \* 災害時における備蓄品の確保について
- \* 東北厚生局による調査結果から

<文責 原田優子>

# NST委員会

## 目的

個々の患者の栄養状態を評価し、最もふさわしい栄養管理を提言することで、個々の患者の治療、回復、退院及び社会復帰に寄与し、もって当院の医療の質の向上を目的とする。

## 構成員

Supervisor 長山正四郎

Chairman 粕谷 孝光

Director 船岡 正人

Core Staff 江畑公仁男 高橋 洋 木村カズ子 佐々木康子  
小田嶋千枝子 金子由美子 松本 優子 佐藤由美子  
藤井 涼子 渡邊あかね 小棚木美香 櫻谷 麻美  
藤井 洋子 渡部 香織 原田 優子 川越 真美  
小宅 英樹 佐々木美奈子 水上 彰 百合川深里

## 役割

1. 適切な栄養評価
2. 栄養管理法の提言
3. 栄養管理に伴う合併症の予防・早期発見・治療
4. 患者の早期退院・早期社会復帰に努める
5. 栄養管理法に関するコンサルテーション
6. 栄養管理法の啓蒙

## 活動内容

1. 全入院患者に対して栄養評価を行い個人ファイルとして保存する。この中から問題症例を抽出し、個々の症例に最適な栄養療法を立案・提言する。
2. 抽出した症例に対して NST Core Staff による症例検討会及び回診を行い、栄養管理の判定・評価を継続的に行う。
3. 検討会、栄養評価、回診の内容に関しては記録し、保存する。
4. 前記各号に掲げた活動は主治医、NST メンバーからのコンサルテーションにより開始されることがある。更に、このコンサルテーションは24時間体制で行うものとする。
5. 栄養療法に関する情報の収集・提供、各種勉強会や研修会などの開催。
6. その他、栄養療法に関する事柄

## 委員会開催日時（ミーティング、NST 回診）

平成20年4月7日、4月14日、4月21日、4月28日、5月12日、5月19日、5月26日、  
6月2日、6月9日、6月16日、6月23日、6月30日、7月7日、7月14日、  
7月28日、8月4日、8月11日、8月18日、8月25日、9月1日、9月8日、  
9月20日、10月6日、10月20日、10月27日、11月10日、11月17日、12月1日、

12月8日、12月15日、12月22日

平成21年1月5日、1月19日、1月26日、2月2日、2月9日、2月16日、2月23日、  
3月2日、3月9日、3月16日、3月23日、3月30日

勉強会

平成20年11月10日

『血糖コントロールのための、間食のススメ！？』

講師：せんぼ東京高輪病院 栄養管理室 足立香代子先生

<文責 百合川深里>

## 褥瘡対策委員会

本委員会は院内の褥瘡対策を討議・検討をし、その効率的な推進を図るため、平成14年度より設置されました。褥瘡の発生に対する予防対策の確立、感染褥瘡源の調査、またそれらに関する情報の収集等が主な討議・検討内容となっており、その他、褥瘡及び合併する感染予防対策についても様々な調査・審議が行われています。平成20年度の主な活動内容としては毎月開催される委員会での各種検討に加え平成20年度は、毎週月曜日に行っている褥瘡回診の他に、定期的なカンファレンスの実施、毎月院内に発行される「褥瘡委員会だより」の作成、ハイリスク加算の算定等を行いまして、平成20年度院内褥瘡発生率2%以下を目指して頑張っていました。

ハード面ではエアーマットを追加購入する等、体圧分散マットレスの院内整備の充実も行ってきました。平成20年度は目標としてきた院内発生率2%を切ることができませんでしたが、今後も高い目標を持ち、褥瘡発生を極力少なくして行けるよう更なる取り組みをしていきたいと思えます。

### 構成員氏名

|       |        |       |
|-------|--------|-------|
| 委員長   | 副院長    | 吉岡 浩  |
| 副委員長  | 副院長    | 船岡 正人 |
| 褥瘡管理者 |        | 佐藤美夏子 |
| 委員    | 病棟師長   | 木下 文子 |
|       | 看護師    | 佐々木史子 |
|       | 看護師    | 桐原 峰子 |
|       | 看護師    | 柿崎 美幸 |
|       | 看護師    | 煙山由紀子 |
|       | 看護師    | 鈴木 利恵 |
|       | 看護師    | 岩村 久子 |
|       | 看護師    | 高橋 礼子 |
|       | 看護師    | 佐々木智美 |
|       | 管理栄養士  | 原田 優子 |
|       | 薬剤師    | 渡辺 圭子 |
|       | 臨床検査技師 | 工藤真希子 |
|       | 理学療法士  | 小田嶋尚人 |
|       | 総務課長補佐 | 阿部 光子 |
| 事務局   | 管財係    | 菅原 祐司 |
|       | 医事課    | 百合川深里 |

### 委員会開催日時

平成20年4月2日・5月7日・6月4日・7月2日・8月6日・9月3日・10月1日・  
11月5日・12月17日  
平成21年1月19日・2月4日・3月4日

<文責 菅原祐司>

## 患者サービス向上委員会

目的： 選ばれる病院になるために職員一人一人が接遇マナーを身につけることができる。

目標： ①接遇意識を高めることができる

②患者の満足を得るために全職員の対応サービスの向上が図れる。

検討内容：①接遇研修会の開催

②患者満足度調査の実施と評価（外来・入院）

構成員： 委員長 木村カズ子

委員 長山正四郎 丹羽誠 佐藤セツ子 細谷謙 照井圭子 佐藤正弘

委員会開催日

平成20年12月3日

① 外来患者様アンケートの実施について 実施日を決定

② 退院患者様アンケートの実施について 実施日を決定

平成21年3月13日

① 外来患者様アンケート調査結果について・・・結果について委員会で検討

② 意見箱「皆様の声」について・・・掲示期間などのルールを確認

③ 退院患者様アンケートの調査について・・・継続して調査していく

④ 平成21年度研修・教育について

○接遇研修（全職員対象）

日時：平成20年10月23日（木）17：30～18：30

場所：4階会議室

講師：医療経営研究所 伝え方コンサルタント 佐藤健太氏

テーマ：「あなたの仕事はなんですか？」

ーホスピタリティー・マインドの調べー

参加者 146名

<評価と今後の課題>

接遇研修からホスピタリティーとサービスの違い、ホスピタリティーとは“こころ”である。目配り・気配り・心配りが大事で患者様の期待値をあげ、更に上の対応を提供することが重要であること。患者さんの期待を上回るためには患者さんの事をもっと知ること、それには具体的な対応が必要。研修会に参加してそれぞれ個々に自分でできることは何かを学ぶことができました。患者満足度調査の結果、沢山の意見・要望をいただきました。貴重な意見を活かし、地域の皆様が安心して利用できる病院を目指していきたい。

<文責 木村カズ子>

## 緩和ケアチーム委員会

### 【設置目的及び経緯】

当院では平成8年からターミナルケア勉強会『虹の会』が有志により行われていたが、当院に来られた患者・家族全ての方に当然のこととして高い水準の緩和ケアが提供できるようになることを目的として緩和ケア研究会が平成13年に設立された。さらに緩和ケアの保証について病院としての責任を明らかにするため平成14年10月に公的委員会として緩和ケア委員会が認められた。その後名称を緩和ケアチーム委員会に変更し現在に至る。

### 【事業検討事項及び事業】

- 1) 症状緩和の方法論の勉強・実践・普及
- 2) 患者・家族のQOL向上のためのあらゆるアプローチ

上記のために①勉強会及びケースカンファレンス②緩和ケアチーム(PCT)回診③院内勉強会等を行う。

### 【20年度構成員】

委員長： 丹羽 誠

副委員長：石田良樹

委員： 高橋共子・池田弘恵・佐藤秀子・高橋康子・末次エリカ・菅原奈保子・原田優子・  
高橋貞弘・石山博幸

事務局： 水上 彰

### 【委員会開催】

毎月第3火曜日に開催

### 【特記事項】

① 緩和ケア回診：毎週月曜日・・・全病棟オピオイド使用患者及び依頼患者対象

② 勉強会の開催：

- ・ 7月14日 デュロテップパッチについて
- ・ 9月17日 疼痛緩和の基本・オピオイドの使い方
- ・ 10月28日 医局勉強会・緩和ケアについて

③ 院外勉強会への参加：

- ・ 9月12日 第4回県南緩和医療研究会 横手市  
主題『地域で緩和ケアを進める上での問題点』

パネルディスカッション司会 丹羽 誠

- ・ 10月4日 第12回東北緩和医療研究会秋田大会 秋田市  
一般演題発表『意欲的にADLの維持・向上に取り組めた終末期癌の一症例』

リハビリテーション科 鈴木 務

大会テーマ『包括的がん医療の実現に向けて』

オープニングリマーク及び特別講演座長 丹羽 誠

主管：秋田県緩和ケア研究会 事務局：秋田市立病院 丹羽が当番世話人となり、準備や当日裏方に当病院から多大の支援を頂いた。

- ・ 2月14日 緩和ケアチーム研修会 秋田市  
当院チームで参加し課題を明らかにすることに有益であった。
- ・ 3月19日 横手市医師会主催・在宅緩和ケア勉強会  
当委員会で企画事務を担当した
- ・ 秋田大学主催緩和ケア研修会 H20/6/28, 7/27, 11/23, 12/7 秋田市  
当院から医師4名 看護師4名 薬剤師3名が参加し9人が修了書を授与された。  
講師及びファシリテーター 丹羽 誠
- ・ 仙北組合病院主催緩和ケア研修会 H21/3/1, 3/29 大仙市  
講師及びファシリテーター 丹羽 誠

<文責 高橋共子 丹羽 誠>

## 救急センター運営委員会

救急センター運営委員会は、当病院における救急センター運営を討議、検討し、その効率的な推進を図る事を目標に、設置された。（平成14年12月）

本委員会は、救急部門の体制の整備、救急部門の適切な運営の検討を行う。また、当病院の救急部門の地域における役割の明確化、院内救急時の対応マニュアル、救急患者統計についても検討を行っている。

### 救急センター運営委員

|      |       |    |       |
|------|-------|----|-------|
| 委員長  | 吉岡    | 浩  |       |
| 副委員長 | 藤盛    | 修成 |       |
| 委員   | 小松    | 明  | 工藤真希子 |
|      | 法花堂   | 学  | 渡邊 圭子 |
|      | 木村真貴子 |    | 川越 弦  |
|      | 佐々木佳子 |    | 和賀美由紀 |
| 事務局  | 木村    | 宏樹 |       |

### 本年度の活動状況

|             |                    |
|-------------|--------------------|
| 平成20年 8月14日 | AED について検討         |
| 平成20年 9月11日 | AED・BLS 学習会に31名参加  |
| 平成20年 9月12日 | AED・BLS 学習会に33名参加  |
| 平成20年 9月18日 | AED・BLS 学習会に37名参加  |
| 平成20年10月20日 | 救急救命講習会に20名参加（1回目） |
| 平成20年10月22日 | 救急救命講習会に20名参加（2回目） |
| 平成21年 1月28日 | 救急カートについて検討        |

<文責 木村宏樹>

# 手術室運営委員会

## 概 要

手術室の様々な点で業務改善及び見直しを立案並びに討議する。

## 構成氏名

|       |       |                  |
|-------|-------|------------------|
| 委員 長  | 江畑公仁男 | 手術室室長 副院長 整形外科科長 |
|       | 吉岡 浩  | 副院長 外科科長 ME室室長   |
| 委 員   | 畑澤 淳一 | 産婦人科科長           |
|       | 神崎 正俊 | 泌尿器科科長           |
|       | 木村カズ子 | 総看護師長            |
| 事 務 局 | 高本 和子 | 手術室師長            |
|       | 佐藤 昌悦 | 手術室主任            |
|       | 川越 弦  | ME室主任            |

## 委員会開催年月日及び検討事項

H20年 5月12日

- \* H19年度手術件数報告
- \* 手術申し込み方法の確認
- \* 病院増改築に関し「BCR」の要件について検討

7月11日

- \* 病院増改築中の手術スケジュールなど運営に関して

11月14日

- \* 救急救命士再教育院内実習に関して 12月～H21年2月 18名
- \* 厚生省からヤコブ病二次感染予防について
- \* 医療機器購入に関して 各科からの意見交換
- \* 手術申し込み「手術室制限」に関する要望（電子カルテ）

H21年 2月13日

- \* 麻酔科医師常勤体制に関して各科より確認事項  
(依頼可能な麻酔の種類・曜日・時間帯・麻酔科受診・研修医への指導など)
- \* 常勤麻酔科医師による麻酔管理体制の確立に向けて検討
- \* 病院増改築に関して (時期の検討)

<文責 高本和子>

## 薬事審議委員会

### ◆概要

薬事委員会は院内の薬剤に関する適正な管理、薬剤業務の改善向上、安全性の確保並びに薬事業務の効率的な運営を図ることを目的としている。検討する事項は主に下記のような内容となっている。

- ① 院内の薬品管理に関する事項の審議（新規採用医薬品・限定採用医薬品の審議、採用後の使用状況の確認、医薬品の適正使用、その他）
- ② 医療安全や経営面の観点から定期的に採用医薬品を見直す（同種同効品目の比較検討、削減）
- ③ 委員からの提案された事項についての審議
- ④ 副作用事例の収集・報告・伝達・対策

### ◆構成員

|      | 委 員           | 氏 名     |
|------|---------------|---------|
| 委員長  | 副 院 長         | 吉 岡 浩   |
| 副委員長 | 副 院 長         | 藤 盛 修 成 |
|      | 副 院 長         | 丹 羽 誠   |
|      | 副 院 長         | 船 岡 正 人 |
|      | 副 院 長         | 江 畑 公仁男 |
|      | 診 療 部 長       | 畑 澤 淳 一 |
|      | 診 療 部 長       | 小 松 明   |
|      | 産 婦 人 科 科 長   | 滝 沢 淳   |
|      | 循 環 器 科 科 長   | 根 本 敏 史 |
|      | 循 環 器 科 科 長   | 和 泉 千香子 |
|      | 消 化 器 科 科 長   | 奥 山 厚   |
|      | 消 化 器 科 科 長   | 小田嶋 傑   |
|      | 泌 尿 器 科       | 神 崎 正 俊 |
|      | 放 射 線 科 科 長   | 平 野 弘 子 |
|      | 外 科 科 長       | 加 藤 健   |
|      | 外 科 科 長       | 粕 谷 孝 光 |
|      | 呼吸器科・アレルギー科科長 | 齋 藤 紀 先 |
|      | 内 科 科 長       | 塩 屋 齊   |
|      | 消 化 器 科 科 長   | 武 内 郷 子 |
|      | 放 射 線 科 科 長   | 泉 純 一   |
|      | 薬 剤 科 科 長     | 石 田 良 樹 |
|      | 看 護 科 主 任     | 小田嶋 恵美子 |
|      | 医 事 課 長 補 佐   | 浮 島 優 子 |
|      | 総 務 課 長 補 佐   | 阿 部 光 子 |

◆委員会開催日及び検討事項

|     | 開催日         | 検討事項  |
|-----|-------------|---|
| 第1回 | 平成20年5月21日  | <p>※ジェネリック医薬品に関するアンケート調査の結果報告</p> <p>※院内のみ処方可となっている製品の条件を見直し、院外処方でも処方できるように条件を改善。<br/>(オピオイド製品についても受け入れ可能な調剤薬局を事前に調査したリストを作成して対応へ)</p>  |
| 第2回 | 平成20年7月16日  | <p>※ジェネリック医薬品の導入について検討(GE3品目を採用)<br/>ファモチジンD錠(10mg)・同(20mg)、エピナジオン錠20mg</p> <p>※ストミラーゼ顆粒・同Cap販売中止に対する対応の検討<br/>プロスタルモン・E錠(0.5mg)販売中止に対する対応の検討<br/>エストララダーム貼布(0.72mg)販売中止に対する対応の検討</p> <p>※同種同効品の見直し(抗血小板薬①)<br/>※同種同効品の見直し(NSAIDs①)</p>                           |
| 第3回 | 平成20年9月17日  | <p>※同種同効品の見直し(抗血小板薬②)<br/>(重篤な副作用作用の多いパナルジン錠は中止とし、プラビックス錠の使用を促進する)</p> <p>※同種同効品の見直し(高脂血症治療薬①)<br/>※同種同効品の見直し(経口硝酸薬)<br/>※同種同効品の見直し(PPI、H2受容体拮抗剤)<br/>※硫酸マグネシウム販売中止に対する対応の検討<br/>※点滴静注用ミノマイシン100mg欠品に対する対応の検討<br/>(代替品としてジェネリック品を採用)<br/>※採用品目数を削減する必要性について討議</p> |
| 第4回 | 平成20年11月19日 | <p>※同種同効品の見直し(局麻剤)<br/>※同種同効品の見直し(NSAIDs②)<br/>※同種同効品の見直し(不整脈治療剤)<br/>※ポンシルFP錠125mg販売中止に対する対応の検討<br/>※ミフロール錠販売中止に対する対応の検討<br/>※適正な採用品目数について他施設と比較し検討<br/>※限定採用医薬品の扱いについて再度確認<br/>(使用状況を把握し、使用症例が多い品目については新規採用品への移行も含めて検討する。新規採用とした場合は1増1減についても審議する)</p>           |
| 第5回 | 平成21年1月21日  | <p>※同種同効品の見直し(注射用抗菌薬)<br/>※同種同効品の見直し(注射用H2受容体拮抗薬)<br/>※メナンミン筋注販売中止に対する対応の検討<br/>※アビショット錠50販売中止に対する対応の検討<br/>※プラビックス錠75による院内発生副作用の報告<br/>(服用中推奨されている定期検査の実施について注意喚起)</p>   |
| 第6回 | 平成21年3月25日  | <p>※同種同効品の見直し(Ca拮抗薬)<br/>※同種同効品の見直し(高脂血症治療薬②)<br/>※ハイリスク薬剤について適切に管理する為、当該薬品について電子カルテ上で薬品名に★印を使用し注意喚起する。</p>   |

新規採用薬の情報・使用中止薬・委員会の決定事項については薬局報にて院内に情報提供を行った。

院内の副作用事例については、委員会開催毎に症例を集計し院内の発生状況を報告・検討した。

不動態在庫薬品や有効期限の近い薬品については、使用促進のため院内報で定期的にお知らせした。

#### ◆平成20年度採用品目の動向

|                |           |
|----------------|-----------|
| 新規採用医薬品        | 23品目      |
| 試験採用           | 2品目       |
| 限定採用医薬品        | 52品目（延べ数） |
| 使用中止医薬品        | 49品目      |
| ジェネリック医薬品への切替え | 6品目       |

#### ◆まとめ

今年度も病院規模に見合った適正な採用品目数について他施設と比較しながら検討し、同種同効品・使用実績の少ない製品の見直しなどをおこないました。

今後も薬剤費の効率化、医薬品の適正使用の推進などの観点から採用医薬品の見直し、院内医薬品の使用状況の把握に努めていきたいと思えます。

当院も来年度は DPC 導入予定となっておりますが、DPC では多くの薬剤が包括化されるため薬剤使用の合理化が求められます。それに伴い本格的にジェネリック医薬品の採用を検討する必要性がでてきます。平成20年7月から一部の内服薬・注射薬についてジェネリック品を導入しましたが、院内の皆様のご協力もありスムーズに変更を行うことができました。

これからも、単に価格の安い薬剤を採用するのではなく医療の質を維持し、有効性・安全性及び経済性を含めた多くの視点で評価しながら慎重に候補薬を選定できるよう取り組んでいきたいと思えます。

〈文責 佐々木洋子〉

## 輸血療法委員会

|            |                          |
|------------|--------------------------|
| 委員長（産婦人科）  | 畑澤 淳一                    |
| 診療科（外科）    | 吉岡 浩                     |
| 診療科（消化器内科） | 船岡 正人                    |
| 診療科（整形外科）  | 江畑公仁男                    |
| 診療科（泌尿器科）  | 神崎 正俊                    |
| 薬剤科        | 石田 良樹                    |
| 臨床検査科      | 佐藤恵美子                    |
| 臨床検査科      | 加賀谷美智子                   |
| 看護科        | 佐藤セツ子                    |
| 看護科（手術室）   | 小松ルリ子（産休のため年度途中で佐藤鋼子に交代） |
| 総務課        | 阿部 光子                    |
| 医事課        | 百合川美里                    |

### 概要

輸血関連業務の安全性の確保および適正使用のための施策実施のため輸血療法委員会が設置されている。

### 委員会開催状況

平成21年 1 月15日

### 議題内容

緊急時に O 型赤血球製剤が使用可能であることの啓蒙活動

輸血後感染症検査について、原則全例実施するためのシステム整備について  
血液型判定加算の効果的算定方法について。

| 診療科  | 製剤名         | 年度使用本数 |
|------|-------------|--------|
| 外科   | Ir-RCC-LR-1 | 96     |
|      | Ir-RCC-LR-2 | 372    |
|      | Ir-PC-10    | 21     |
|      | Ir-PC-15    | 5      |
|      | Ir-PC-20    | 5      |
|      | FFP-5       | 74     |
|      | FFP-LR-2    | 174    |
|      | 自己血         | 11     |
| 産婦人科 | Ir-RCC-LR-1 | 4      |
|      | Ir-RCC-LR-2 | 16     |
|      | FFP-5       | 1      |
|      | FFP-LR-1    | 1      |
|      | FFP-LR-2    | 3      |
|      | 自己血         | 52     |
| 整形外科 | Ir-RCC-LR-1 | 14     |
|      | Ir-RCC-LR-2 | 45     |
|      | 自己血         | 42     |
| 内科   | Ir-RCC-LR-1 | 104    |
|      | Ir-RCC-LR-2 | 408    |
|      | Ir-PC-10    | 32     |
|      | Ir-PC-15    | 9      |
|      | Ir-PC-20    | 8      |
|      | FFP-5       | 17     |
|      | FFP-LR-2    | 81     |
| 泌尿器科 | Ir-RCC-LR-1 | 10     |
|      | Ir-RCC-LR-2 | 47     |
|      | Ir-PC-10    | 9      |
|      | Ir-PC-20    | 4      |
|      | 自己血         | 26     |

<文責 石田良樹>

# 臨床検査適正化委員会

## 概要

当院において臨床検査を適正かつ円滑に遂行するための検討を行うことを目的とし、平成12年度に設けられた委員会である。年数回開催するものとし、検討事項は以下の通りである。

1. 精度管理に関すること
2. 検査項目に関すること
3. 検査の実施状況に関すること
4. 外部委託に関すること
5. 研究検査に関すること
6. その他臨床検査全般の運用に関する事項

## 構成員

- 委員長 長山正四郎 (院長)  
委員 船岡 正人 (副院長)  
藤盛 修成 (副院長)  
畑澤 淳一 (検査科科长)  
加藤 健 (外科科長)  
高橋 幸一 (医事課長)  
木村カズ子 (総看護師長)  
佐藤恵美子 (検査技師長)  
長瀬 智子 (内部精度管理責任者)

## 委員会開催日時及び検討事項

平成20年11月18日(火)

1. 平成20年度診療報酬改定に伴う検査科収支状況について
2. 平成20年度日臨技コントロールサーベイ結果報告
3. 臨床検査科アンケート結果について
4. 病理部門に関して  
病理窓口として丹羽・畑澤先生に依頼決定。医局窓口として畑澤先生に対応して頂くことに決定。迅速検査の出し方も含めて、決定事項を確認すること。検査科窓口を明らかにすること。
5. 当直・24時間対応に関しては現状体制とする。
6. 細胞診のオーダーリングに関しては、準備は進行しており実施について医療情報室と再度話し合う。
7. 生化学セット項目に関して、全セットを院長に提示すること。

平成21年3月5日(木)

1. 平成20年度医師会コントロールサーベイ結果報告
2. 試薬検討等には、当委員会の了解を得ることに決定

- ①TTT、LAP はコスト割れのため2009年4月より外注に決定。尿中 M-ALB は院内測定に決定
- ②亜鉛・SAA は導入に向け検討することに決定
- ③2009年4月より便潜血カットオフ値100mg/dl に変更とする。
- 3. 平成21年度外部委託は、SRL、AKH、(財) 秋田県総合保険事業団とする。
- 4. 平成21年度4月からのDPCに伴う検査科の対応について

<文責 長瀬智子>

## 図書委員会

### [目的]

図書室は病院の理念及び方針に基づき、運営・診療・教育及び研究活動に必要な環境を整備し、その運用によって医療の維持、向上を図ることを目的としている。

### [スタッフ]

|      |             |          |
|------|-------------|----------|
| 委員長  | 平野 弘子 (診療科) | 平成15年9月～ |
| 副委員長 | 谷口 明美 (総務課) | 平成14年9月～ |
| 書記   | 中田 千絵 (総務課) | 平成19年4月～ |
| 委員   | 島田万里子 (看護科) | 平成19年4月～ |
| 委員   | 阿部千鶴子 (総務課) | 平成20年1月～ |

### [図書室概要]

面積・・・34.8㎡ 場所・・・4階

座席数・・・4席

設備・機器・・・コピー機 (1台)、コンピュータ2台 (1台インターネットに接続、1台院内LANに接続)、プリンター 1台

書架・・・移動式書架・固定書架、ブックトラック (患者図書用)

閲覧時間・24時間閲覧可能

所蔵資料・書籍 (約720冊)、製本雑誌 (約1850冊)、患者図書 (約1100冊)

・和雑誌 (48誌)、洋雑誌 (18誌)、学会誌 (3誌)

配架・・・単行書 (NLMC分類順)

・和雑誌 (あいうえお順) ・洋雑誌 (アルファベット順)

・移動図書 (大分類・中分類・小分類順)

サービス・医学中央雑誌 Web 版

・秋田大学附属図書館医学部分館への文献複写の依頼

・個人医学図書の購入・支払い・製本と取次ぎ

### [活動]

・委員会開催日

6/11・8/18・12/8・3/16の4回

・図書購入予算の確定と管理

年度始めに各科に予算配分をし、各科月毎に購入収支簿を作成後月1回パソコン院内LANで全職員に伝達。

・購入図書の受入れと配架作業・・・月毎の受入れ図書のリスト作成と所定位置への配架。

月1回パソコン院内LANで新着図書の情報提供。

・メディカルオンライン無料トライアル実施 (9/1～9/30)

利用件数 (246件) 和雑誌だけの検索しかできないため今回は採用しない。

・蔵書点検

不明図書（42冊）・除籍図書（21冊）

[統計]

- ・図書室に常勤担当者不在のため図書貸出し数、利用者数は明確に出せない。
- ・秋田大学附属図書館医学部分館への文献複写依頼数（26件 内謝絶9件）

<医中誌アクセス回数・検索回数・ログイン回数>

| 年度        | アクセス回数 | ログイン回数 | 検索回数      |
|-----------|--------|--------|-----------|
| 16年度（7月～） | 700回   | 126回   |           |
| 17年度      | 1271回  | 199回   |           |
| 18年度      | 3069回  | 186回   |           |
| 19年度      | 3778回  | 245回   | 625回（8月～） |
| 20年度      | 4414回  | 271回   | 858回      |

患者図書サービス（巡回型）

[目的]

入院患者さん及び付添いの方々の不安やストレスを少しでも癒してもらい、闘病生活の支えや回復への意欲につながることを目的としている。

[活動]

各病棟を委員2名で1台のブックトラックに約200冊の本を積み、第2・4水曜日13:30～15:00の間全病棟を巡回している。又、今年度から各病棟ディルームに蔵書一覧ファイルを設置し利用しやすいようにした。このサービスがスタートして7年、娯楽書主体の貸出しサービスから医療現場でのインフォームドコンセントの重要性が増す中、図書を通しての「医療情報の提供」を視野におき患者さんの要望にこたえていきたい。

[統計]

<移動図書貸出し数>（平成20年4月～平成21年3月）

| 病棟   | 総貸出し数 | 月平均    | 総利用者数 | 月平均   |
|------|-------|--------|-------|-------|
| 2病棟  | 58冊   | 4.83冊  | 33人   | 2.75人 |
| 3A病棟 | 42冊   | 3.50冊  | 25人   | 2.08人 |
| 3B病棟 | 57冊   | 4.75冊  | 26人   | 7.17人 |
| 4病棟  | 38冊   | 3.17冊  | 23人   | 1.92人 |
| 計    | 195冊  | 16.25冊 | 107人  | 8.92人 |

<文責 谷口明美>

## 臨床研修管理委員会

### 概要

医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修を当院と協力病院及び協力施設で実施するために設置された委員会である。

当院の研修プログラムは内科系重視のAコース、外科系重視のBコースがあり、それぞれ定員2名となっている。研修プログラムの中の精神科研修では、横手興生病院・市立角館総合病院、地域保健・医療研修では、横手保健所に協力をいただいている。また、本荘第一病院・秋田大学医学部附属病院、市立角館総合病院の研修プログラムの協力型臨床研修病院となっている。

### 構成員氏名

|        |   |
|--------|---|
| 委員長    | 吉岡 浩（研修実施責任者）   |
| 委員     | 船岡 正人（Aコースプログラム責任者）、藤盛 修成、小松 明、<br>畑澤 淳一、根本 敏史、和泉千香子、塩屋 齊、奥山 厚、齋藤 紀先、<br>武内 郷子、粕谷 孝光、加藤 健（Bコースプログラム責任者）、<br>小田嶋 傑、滝澤 淳、佐藤 正弘、<br>永井 伸彦（横手保健所長）、<br>杉田多喜男（横手興生病院長）、<br>西成 忍（西成医院長、横手市医師会長）、<br>小野 剛（市立大森病院長）、<br>佐々木道基（市立角館総合病院精神科長） |
| オブザーバー | 長山正四郎、丹羽 誠  |
| 事務局    | 岩根 育子   |

### 委員会開催年月日及び案件

#### ○管理委員会

平成20年6月5日

案件 研修プログラムのスケジュール変更について  
臨床研修病院群の変更について

平成21年3月9日

案件 研修医の終了認定について  
平成21年度の研修実施について  
平成22年度研修プログラムについて  
東北厚生局実地調査の報告について

#### ○評価・プログラム委員会

平成20年6月2日

案件 2年次生の研修進捗状況について  
研修プログラムのスケジュール変更について  
臨床研修病院群の変更について

平成20年6月2日

案件 平成21年度採用臨床研修医マッチング登録順位について

平成20年11月5日

案件 2年次生の研修進捗状況について  
後期研修について  
東北厚生局 臨床研修病院実地調査について

平成21年2月16日

案件 臨床研修医2年次生の研修評価について  
平成21年度以降の臨床研修日程について

○研修医会議（指導医と研修医との意見交換等）

平成20年4月3日、5月8日、6月5日、7月3日、8月7日、9月4日、  
10月2日、11月13日、12月4日、  
平成21年1月9日、2月5日、3月5日

○平成20年度 臨床研修医

2年次 Aコース 榊原 亙、小川 和孝  
Bコース 渡辺 昇、井上 雅文  
1年次 Aコース 寺田 考太  
Bコース 本郷麻依子

本荘第一病院からの研修医

津田 顕洋、成田 岳雄、工藤 孝毅、卞 祖平

秋田大学医学部附属病院からの研修医

千葉 充

○マッチング日程

平成20年6月5日 参加登録開始  
7月24日 参加登録締切  
8月28日 希望順位登録受付開始  
9月11日 希望順位登録中間公表前締切  
9月12日 中間公表  
10月2日 希望順位登録最終締切  
10月16日 組み合わせ結果発表

○平成21年度採用臨床研修医

Aコース 定員2名 佐伯 博範（岡山大学）、高木 遥子（弘前大学）  
Bコース 定員2名 佐々木 研（福島県立医科大学）、荻原 真実（秋田大学）

○病院説明会参加状況

平成20年7月13日 民間主催の合同説明会（東京都 県協議会企画）  
11月27日 秋田大学医学部合同説明会（秋田市 県協議会主催）  
平成21年2月10日 秋田大学医学部合同説明会（秋田市 県協議会主催）  
3月15日 東北ブロック合同説明会（仙台市 東北厚生局主催）

<文責 佐藤 潤>

## 治験委員会

### 構成員氏名

委員長 吉岡 浩  
委員 船岡 正人 佐藤 政弘 石田 良樹  
外部委員 三橋由美子  
事務局 渡邊 圭子

本委員会は当院で実施される臨床試験について、その目的および手順ならびに倫理性の面から当該臨床試験を実施することの妥当性を検討するために設置されている。新GCP基準における条件を満たすために外部委員1名を加えている。

### 委員会開催日及び検討事項

平成20年5月13日

案件1. オメプラゾール、ファモチジン、モサプリド、テブレノン無作為割付比較試験

案件1は条件付で承認される。

案件2. フェアストン錠成績調査

案件3. ティーエスワン使用成績調査

案件4. メバロチン特定使用成績調査

案件5. パリエット錠特定使用成績調査

以上案件2～5は問題なく承認される。

平成20年10月27日

案件1. デュロテップMTパッチ使用成績調査

案件2. タルセバ特定使用成績調査

以上案件1～2は問題なく承認される。

案件3. StageⅢ (Dukes`C) 結腸癌治癒切除術に対する術後補助化学療法としてのカペシタビンの至適投与期間に関するランダム化第Ⅲ相比較臨床試験

案件3は条件付で承認される。

<文責 渡邊圭子>

## 診療材料新規採用検討委員会

本委員会は診療材料に関する適正な購入・管理・業務の円滑な運営を図ることを目的として設置されました。診療材料の新規採用についての検討のみならず、院内で使用されている診療材料の合理化・効率化に向けた取り組みや、診療材料の統一化に向けた取り組みについても協議を行います。

新規に診療材料を使用する場合は必ずこの委員会で承認を受けることになっており、原則としてそれ以外の診療材料は使用することはできません。また、承認を受けていない材料を特定の患者に使用する場合には「診療材料限定使用申請書」を提出させ、委員長より使用の可否を判断することとしています。

H20年度の主な検討材料

採血針（単回使用用）、採血ホルダー（単回使用用）等  
診療材料限定使用申請書の提出はありませんでした。

<文責 菅原祐司>

# 電子カルテ導入推進委員会

## (目的)

この規程は、電子カルテ及び診療情報の適切な管理について討議・検討し、診療の質の向上を図ることを目的とする。

## (業務)

1. 委員会は次の各号における事項について審議する。
  - ・電子カルテ内の情報の真正性、見読性、保存性の確認に関すること。
  - ・オーダーリングシステムの内容の検討に関すること。
  - ・紙カルテ、フィルム、検査データの保存に関すること。
  - ・その他カルテについての重要事項に関すること。
2. 委員会は前項の審議結果を速やかに院長へ報告するものとする。

## 構成員氏名

|      |       |        |       |       |
|------|-------|--------|-------|-------|
| 委員長  | 藤盛 修成 |        |       |       |
| 副委員長 | 加藤 健  |        |       |       |
| 委員   | 和泉千香子 | 佐藤セツ子  | 藤井 洋子 | 照井 洋子 |
|      | 赤川恵理子 | 高橋 共子  | 稲川 雅美 | 木村恵美子 |
|      | 下夕村優子 | 小田嶋恵美子 | 草薙美保子 | 佐々木佳子 |
|      | 小宅 英樹 | 渡辺 瑞穂  | 浮嶋 優子 | 柿崎 正行 |
|      | 照井 圭子 |        |       |       |

## 活動報告（検討内容）

平成20年4月17日

- ・外来採血の流れについて
- ・病棟無線について
- ・次回来院時の使い方について 他

平成20年5月13日

- ・職種権限について
- ・順路案内票について 他

平成20年6月17日

- ・外来検査実施確認について
- ・おでん屋について 他

平成20年7月17日

- ・アンケート調査結果について
- ・看護情報について 他

平成20年9月30日

- ・行動制限開始・継続・終了
- ・口頭指示 他

平成20年10月27日

- ・持参薬について
- ・腹囲表示について 他

平成20年11月26日

- ・入院処置簡易入力について
- ・臨床研修医の診療録確認について 他

平成21年1月6日

- ・大腸CT（CTコロノグラフィー）検査について
- ・臨床研修医の診療録確認について
- ・医師事務作業補助員）の入力内容について 他

平成21年2月25日

- ・検査について
- ・入院診療計画書の様式変更について 他

<文責 照井圭子>

# D P C委員会

今年度はD P C準備病院2年目ということで、厚労省へのデータ提出、来年度のD P C請求へ向けての対策、データ分析を中心に活動を行った。

データ分析の結果を踏まえ、ジェネリック薬品の導入や、検査、画像などの外来への移行、各診療科との症例検討などを行い、次年度への対策を検討した。

今後も、他院とのベンチマークや更に詳細なデータ分析が必要になってくると思われるので委員会で取り組んでいきたい。

## 構成員

|      |       |       |       |       |       |  |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|--|
| 委員長  | 畑澤 淳一 |       |       |       |       |  |
| 副委員長 | 藤盛 修成 |       |       |       |       |  |
| 〃    | 加藤 健  |       |       |       |       |  |
| 委員   | 塩屋 斉  | 佐藤セツ子 | 藤井 洋子 | 佐藤恵美子 | 小宅 英樹 |  |
|      | 郡山 邦夫 | 浮嶋 優子 | 柿崎 正行 | 照井 圭子 | 渡辺 瑞穂 |  |
|      | 長山正四郎 |       |       |       |       |  |

## 活動報告

平成20年10月20日

- ・全国自治体病院協議会によるデータ分析事業による2008年7月分の分析結果について
- ・出来高比較でマイナスの部分各診療科と検討の方向で

平成20年11月25日

- ・全国自治体病院協議会によるデータ分析事業による2008年8月分の分析結果について
- ・D P C請求ソフトの導入、使用方法説明

平成20年12月15日

- ・全国自治体病院協議会によるデータ分析事業による2008年9月分の分析結果について
- ・ジェネリック薬品の導入について
- ・検査、レントゲンの外来移行を検討

平成21年1月15日

- ・全国自治体病院協議会によるデータ分析事業による2008年10月分の分析結果について
- ・パスの見直し、ジェネリック薬品の採用について
- ・症例ごとにまとめ、Dr ごとに比較を検討

平成21年2月12日

- ・沢井製薬株式会社様より「D P Cの目的と導入対策について」という内容で講演していただく
- ・D P C請求に向けての対策について（平成21年4月～対象病院確定）
- ・診療科ごとに症例数上位のものを具体的に検討する

平成21年3月12日

- ・D P C請求対策について（各診療科との検討結果報告）
- ・21. 3. 17、18 D P C院内説明会を行う
- ・21. 4月より院内掲示、ホームページへの掲載、入院患者への周知
- ・医局への説明
- ・分析ソフト導入の検討

<文責 渡辺瑞穂>

## クリニカルパス委員会

### 構成員氏名

委員長 藤盛 修成  
 委員 畑澤 淳一 加藤 健 江畑公仁男 小松 明 塩屋 斉  
 奥山 厚 小田嶋 傑 齋藤 紀先 和泉千香子 藤井 洋子  
 高橋 洋 郡山 邦夫 小宅 英樹 赤川恵理子 高橋亜由美  
 高橋 亮子 泉谷真理子 下夕村優子 長井美憂希 渡邊あかね  
 末次エリカ 稲川 雅美 永須 直美 藤沢 親子 加藤真由美  
 原田 優子 浮嶋 優子

### 概要

20年度退院患者パス適用率は次のとおり

| 病棟／診療科 | パス適用(数) | 退院(人) | パス適用率(%) |
|--------|---------|-------|----------|
| 2病棟    | 554     | 1,326 | 41.8     |
| 3A病棟   | 86      | 1,244 | 6.9      |
| 3B病棟   | 235     | 1,146 | 20.5     |
| 4病棟    | 127     | 769   | 16.5     |
| 合 計    | 1,002   | 4,485 | 22.3     |

|             |       |       |      |
|-------------|-------|-------|------|
| 内科          | 2     | 87    | 2.3  |
| 外科          | 115   | 760   | 15.1 |
| 整形外科        | 0     | 176   | 0.0  |
| 婦人科         | 313   | 567   | 55.2 |
| 小児科         | 0     | 705   | 0.0  |
| 泌尿器科        | 32    | 209   | 15.3 |
| アレルギー・呼吸器内科 | 0     | 270   | 0.0  |
| 消化器内科       | 525   | 1,416 | 37.1 |
| 循環器内科       | 15    | 295   | 5.1  |
| 合 計         | 1,002 | 4,485 | 22.3 |

<文責 浮嶋優子>

## 業務改善委員会

### 概要

病院業務の改善を図ることを目的とする。

院内に設置された他の委員会の所掌事項に属さない業務の改善。

複数の他委員会に係るため、改善できない事項を調整する。

### 構成員

委員長 藤盛 修成

副委員長 加藤 健

委員 高橋 信夫 藤原 理吉 石田 良樹 木村カズ子

照井 洋子 高本 和子 佐藤恵美子 原田 優子

佐々木佳子 佐藤 正弘 高橋 幸一 浮嶋 優子

平成20年度は審議すべき事項がなかったため開催されなかった。

<文責 浮嶋優子>

## 衛生委員会

### 概要

病院事業職員の健康保持及び増進を図るため、また安全衛生管理を推進するために、平成13年度から設置されている。

### 構成員

|            |                              |
|------------|------------------------------|
| 委員長        | 丹羽 誠                         |
| 副委員長       | 藤原 理吉（診療放射線科）                |
| 委員         | 長山正四郎（産業医） 佐藤 正弘（事務局）        |
|            | 木村カズ子（看護科） 高橋 功（健康管理センター）    |
| 委員（労働組合推薦） | 小田島千津子（看護科） 高橋 洋（リハビリテーション科） |
|            | 高橋 礼子（看護科） 末次エリカ（看護科）        |
|            | 鈴木 務（リハビリテーション科）             |
| 書記         | 水上 彰（総務課）                    |

### 委員会開催日時及び検討事項等

【開催日時】 毎月最終木曜17:00～17:30

#### 【検討事項等】

- 4/24 メンタルヘルスチェックの検討、職員健診の報告。
- 5/29 メンタルヘルスチェックの検討と報告、職員採用時のB型肝炎検査について検討、敷地内禁煙の検討。
- 6/26 メンタルヘルスチェックの報告、敷地内禁煙について10月1日実施に決定
- 7/29 メンタルヘルスのカウンセリングについて検討、結核患者発生時の対応について検討、アスベスト検査の報告
- 8/28 職員健診の結果報告、放射線被ばく量の報告
- 9/25 アスベスト検査の結果報告、結核患者接触者フォローの報告
- 10/30 電離放射線健診の報告、インフルエンザ予防接種の検討、結核患者接触者フォローの報告、労働者代表委員交代の報告
- 11/26 電離放射線健診の報告、深夜従事者健診の報告、職員健診二次検診の検討、インフルエンザ予防接種の検討
- 12/25 電離放射線健診の報告、メンタルヘルスチェックの検討、深夜従事者健診の報告、職員健診二次検診の報告
- 1/29 メンタルヘルスチェックの検討、職員採用時のHBVワクチン接種費用の検討
- 2/25 病院増改築に伴う環境衛生の検討、放射線被ばく量の報告
- 3/26 放射線被ばく量の報告、職員健診の検討、臨床研修医の健康診断について検討

<文責 菊池 優>

## 病院教育委員会

### 概 要

当委員会は、院内の職員研修に関して病院全体で体系的、効果的に実施するために設置された委員会である。

### 構成員氏名

|      |       |       |  |
|------|-------|-------|--|
| 委員長  | 長山正四郎 |       |  |
| 副委員長 | 藤盛 修成 |       |  |
| 委員   | 木村カズ子 | 郡山 邦夫 |  |
| 事務局  | 佐藤 正弘 | 栗田 公平 |  |
| 書記   | 岩根 育子 |       |  |

### 委員会開催

平成20年度 開催実績なし

<文責 佐藤 潤>

# 広報委員会

## 【概要】

広報委員会は、院外の皆様によりよい情報提供ができるよう検討し、病院広報誌を発行することを目的としております。病院広報誌は、年4回の発行を目標に、患者様、地域の皆様、秋田県内の各病院、病診連携室関連の施設などにむけて、当院の活動紹介や医療情報の提供、病気の予防策などを掲載しております。

今後も委員会の活動を活発にし、市立横手病院を知っていただきながら、地域の皆様のお役に立つような病院広報誌を作っていきたいと考えております。

## 【構成員氏名】

|      |       |        |
|------|-------|--------|
| 委員長  | 診療科   | 船岡 正人  |
| 副委員長 | 総務課   | 栗田 公平  |
|      | 医事課   | 石山 博幸  |
|      | 病診連携室 | 高橋 美幸  |
|      | 総務課   | 阿部 千鶴子 |

## 【委員会開催】

平成20年7月16日 病院広報誌14号について検討

平成20年10月20日 病院広報誌15号・16号について検討

## 【病院広報誌の発行】

平成20年5月 第13号発行

平成20年8月 第14号発行

平成20年11月 第15号発行

平成21年1月 第16号発行

<文責 阿部千鶴子>

## 個人情報保護推進委員会

### 【目的】

患者様の個人情報の確実な保護を目的とし、院内の各種情報システムのセキュリティ強化及び各種情報の開示等について、その手法及び各種規定等について検討するとともに、全職員に対して個人情報保護に関する周知を図る。

### 【構成員】

|     |                |
|-----|----------------|
| 委員長 | 佐藤 正弘（事務局兼務）   |
| 委員  | 長山正四郎（診療科）     |
|     | 木村カズ子（看護科）     |
|     | 寫田 敏雄（医事課）     |
|     | 栗田 公平（総務科）     |
|     | 柿崎 正行（医療情報管理室） |

### 【業務】

- 電子カルテシステムの稼動に伴い、各種医療情報システムのセキュリティ強化の検討
- 「個人情報保護規定」等各種規定・要領等の改正
- 全職員対象の個人情報保護に関する研修会の開催

平成20年度は審議すべき事項なく開催されなかったが、来年度は機能評価に向けて検討事項が増えると思われるため委員会の必要性が求められる年になると予想される。

<文責 柿崎正行>

## 診療記録開示審査委員会

### 概要

「横手市個人情報保護条例」の制定を受けて策定された「市立横手病院における診療情報提供実施要領」及び「診療記録開示事務処理要領」に基づき、院内に設置された。本人もしくは家族からの開示請求手続きによって開催される。

### 構成員氏名

|       | 役 職     | 氏名      |
|-------|---------|---------|
| 委 員 長 | 副 院 長   | 丹 羽 誠   |
|       | 副 院 長   | 吉 岡 浩   |
|       | 副 院 長   | 船 岡 正 人 |
|       | 副 院 長   | 藤 盛 修 成 |
|       | 副 院 長   | 江 畑 公仁男 |
|       | 総看護師長   | 木 村 カズ子 |
|       | 事 務 局 長 | 佐 藤 正 弘 |
|       | 医 事 課 長 | 高 橋 幸 一 |

### 活動記録

平成20年度は、5件の開示請求があり、文書回覧による決裁により開示を行ったが、委員会の開催実績はなかった。

<文責 佐藤正弘>

## 年報編集委員会

委員会開催日時及び主な案件

- 第1回 平成20年6月11日（水）  
前年度の反省及び今年度の方向性  
今年度年報編集の原稿依頼
- 第2回 平成20年7月28日（水）  
未提出原稿の督促と期日
- 第3回 平成20年8月18日（月）  
提出済み原稿の確認  
未提出原稿の督促と期日
- 第4回 平成20年9月22日（月）  
原稿の回覧、校正

| 所 属        | 氏 名     |
|------------|---------|
| 医 局        | 小 松 明   |
| 放 射 線 科    | 岡 根 和 義 |
| リハビリテーション科 | 高 橋 茂 実 |
| 薬 剤 科      | 渡 邊 圭 子 |
| 看 護 科      | 赤 沼 ゆかり |
| 看 護 科      | 鳶 田 麗 子 |
| 臨床検査科      | 小 丹 まゆみ |
| 食 養 科      | 天 羽 勝 義 |
| 総 務 課      | 岩 根 育 子 |
| 医 事 課      | 百合川 深 里 |

# 医療ガス安全管理委員会

## 構成員

委員長 吉岡 浩（監督責任者）  
副委員長 江畑公仁男  
委員 佐々木洋子 照井 洋子 高橋 共子 木村恵美子 小田嶋恵美子  
佐藤 昌悦 柏谷 肇 森谷 茂 阿部 光子（事務局）  
伊藤 建一（実施責任者）

## 医療ガス保安講習会の開催

平成20年7月14日に開催

内容：医療ガスの扱い方～ビデオ上映～

医療ガスアウトレット端末機器の取り扱い方～機器の取付け/取り外し～

酸素ガスボンベの取り扱い方

## 委員会での協議、活動報告

開催日 平成21年3月16日

1. 病院増改築工事が着工となり、医療ガスを停止する工事が伴いますので、その都度工事中の安全対策や工事内容等について関係部署へ周知徹底を図ることを確認。
  2. 酸素のコストがしっかり取れているかを確認。また、酸素ボンベ使用後はバルブを閉めるなど安全管理が徹底されているか、無駄な消費がないか検証した。
  3. 医療ガス保安講習会を計画し、安全管理の教育を行う。
- 当委員会では、高圧ガス保安法第27条に基づく保安講習会を計画し実施いたしました。また、医療ガスを安全に供給できる体制の維持は当然のことながら、職員一人一人がコスト意識をもち医療ガスの無駄な消費を無くし、請求漏れを防止することを再確認いたしました。医療ガスは取り扱いを間違えると重大な事故にもなりかねません。患者様に安全に供給する体制を維持できるよう、知識の習得、使用方法の徹底を図りたいと考えております。

<文責 伊藤建一>

## 医療廃棄物管理委員会

### 構成員

|      |            |         |       |
|------|------------|---------|-------|
| 委員長  | 医局(副院長・外科) | 丹羽 誠    | 管理責任者 |
| 副委員長 | 事務局 長      | 佐藤 正弘   |       |
| 委員   | 臨床検査科      | 佐々木 美奈子 |       |
| 〃    | 薬剤科        | 石田 良樹   |       |
| 〃    | 看護科        | 高本 和子   |       |
| 〃    | 看護科        | 照井 洋子   |       |
| 〃    | 看護科        | 高橋 共子   |       |
| 〃    | 看護科        | 下夕村 優子  |       |
| 〃    | 看護科        | 小田島 恵美子 |       |
| 〃    | 看護科        | 石橋 由紀子  |       |
| 〃    | 看護科        | 小川 伸    |       |
| 〃    | 診療放射線科     | 藤原 理吉   |       |
| 〃    | 医療安全管理室    | 佐々木 佳子  |       |
| 〃    | 総務課        | 伊藤 建一   | 事務局   |

### 委員会の業務

医療廃棄物処理状況の把握  
 医療廃棄物処理計画の作成  
 医療廃棄物処理マニュアルの作成  
 医療廃棄物処理マニュアル及び知識の普及啓発に努める

- 今年度はコストが安く、針刺事故防止効果の高い針捨て BOX を採用し、経費の削減と安全面の向上を図った。
- 病院機能評価受審の準備を進めます。医療廃棄物の適正処理については、保健所の立入り検査でも特に重点的なチェックが入る項目ですので、処理方法の周知徹底を図ることを確認。
- 今後も院内感染対策委員会と連携を強化し、院内感染防止の観点からも廃棄物の適正処理について力を入れ、医療廃棄物の処理費用の削減について努めていきたいと考えております。また、針刺事故が起きないように指導の徹底を図って生きたいと思っております。

＜文責 伊藤建一＞

# 防火管理委員会

## 委員構成

自衛消防隊長 長山正四郎  
自衛消防副隊長 丹羽 誠、吉岡 浩、藤盛修成  
防火管理者 佐藤正弘  
委員 木村カズ子、佐藤セツ子、高橋千鶴子、木村真貴子、木下文子、藤井洋子、  
高本和子、川越 弦、栗田公平、高橋幸一、藤原理吉、佐藤恵美子、原田優子、  
高橋信夫、高橋 洋、石田良樹、佐々木佳子、森谷 茂、伊藤建一

## 開催日

第1回 平成20年6月23日  
第2回 平成20年10月22日

当委員会では、年2回の防災訓練を計画し実施した。火災の訓練を重ねました。

## 第1回目委員会

平成20年6月23日（月）に実施する防災訓練について

【概要】 4病棟から火災が発生した想定で、避難訓練、応急救護訓練、本部での情報収集訓練などを実施することにする。避難誘導では入院患者を同一階の別の防火区画へ一時的に避難させる事を取り入れる。

## 第2回目委員会

平成20年10月22日（水）に実施する防災訓練について

【概要】 2病棟から火災が発生した想定で、1回目同様に避難訓練、本部での情報収集訓練などを再度実施することにする。また救助袋からの避難訓練も取り入れ、各部署の職員が自ら体験することとした。

- 当委員会では、火災の想定のもと今年度は避難訓練を2回実施しました。この訓練はその他の災害でも必ず役に立つと考えます。火災はあってはならないことですが、いざというときには職員一人一人が自分の任務をしっかり務め、職員が一致団結して患者様の安全と医療の継続に全力を注げるよう努めてほしいと考えております。また、防災設備の使用法の習得や日頃の防災用品のチェックも重要ですので、それぞれが防災意識を高めていく必要があると思います。

<文責 伊藤建一>

## 看護科の委員会

### 教育委員会

#### 【委員会目的】

専門職業人として、個々の支質や能力を伸ばし、主体的に学習し成長してゆくために継続的に支援することを目的とする。

#### 【構成メンバー】

委員長 木村真貴子  
副委員長 木村恵美子 石橋由紀子  
委員 佐藤 鋼子 中村勇美子 斎藤みどり 池田 弘恵 真田由美子  
藤谷 栄 佐藤 秀子 高橋 美里 小原 麻美 高橋まゆみ

#### 【平成 20 年度委員会目標】

1. 皆が興味をもって参加できる教育計画をたて実施する。
2. 新人看護技術チェック表、新人の短期教育目標の見直し、修正する。

#### 【活動内容】

##### <新人研修・新人教育>

- 基本技術と基礎知識（4～5月）
  - 「インスリン、麻薬の取り扱いについて」
  - 「輸液ポンプ、シリンジポンプの取り扱いについて」
  - 「胃瘻について」
  - 「十二誘導心電図モニター装着と取り扱いについて」
- 新人評価 3回（7月、12月、3月）
- 糖尿病教室見学
- 次年度プリセプター研修（3月）

##### <継続教育>

- 卒後2年目看護研究班にて活動
- 卒後3年目（当院就職後含む） OP室見学及び挿管、抜管介助 対象者6名
- 卒後5～7年目（当院就職後含む） グループワーク  
対象者5年目4名 10年目4名 2グループにわかれてディスカッション  
「医療事故に遭遇した際のリーダーシップのとり方」
- 伝達講習 10月「癌化学療法患者の看護」 池田弘恵 出席人数48名  
2月「らくらく統計学」 赤沼ゆかり  
「口からものを食べたい」 櫻谷麻美 出席人数53名
- 研修会 11月「NIPPVについて」 外部講師 出席人数48名

【平成20年度の反省】

1. 力を入れた伝達講習が計画通りできてよかった。今回は教育委員がおこなったが研修前に伝達講習を依頼すればよかったのではないか。課題として当院に反映できる内容にしていければよい。研修参加率は毎回50～60名程度であった。今後は興味のあるものをすくい上げていきたい。
2. 新人看護師技術チェック表はリアルタイムで見直しできた。H21年度には活用していきたい。4病棟は2チームから3チームになったので再度見直しが必要となった。

<文責 木村真貴子>

# 看護研究委員会

## 【委員会目的】

看護研究の質的向上をめざし、研究を通して看護の質を高める

## 【構成員氏名】

委員長 高橋千鶴子  
副委員長 藤沢 親子  
委員 佐藤 友紀 高橋はるみ 高橋 美樹 赤沼ゆかり 丹 久美  
高橋 望美 佐々木美智子 高橋 大樹 鈴木真紀子

## 【目標】

- 1、継続した研究の推進  
研究したことが自分たちの仕事に還元できるような取り組みを促していく
- 2、研究委員は、部署の研究メンバーに入る  
研究に携わり連絡係りの役割を行う

## 【反省】

昨年よりの継続テーマでの発表があり、積み重ねでいい研究となりました。他の部署はテーマがしぼれず、プロセスレコードにおこし事例研究となりました。

## 【看護研究発表内容】

- 1、不穏患者とのかかわり  
2病棟 高橋かおり
- 2、がん患者とのかかわり  
3 B病棟 佐々木裕美
- 3、看護師をみて対応を変える患者とのかかわり  
4病棟 高橋 知佳
- 4、はじめて訪問看護を受ける家族とのかかわり  
訪問看護 菅原奈緒子
- 5、患児転落に対する付き添いの意識調査  
3 A病棟 高橋加美子
- 6、圧分散マットレスの使用状況と今後の褥瘡管理における課題  
褥瘡管理担当 佐藤美夏子

講師：鳥居奈津子先生

参加人数 院長

看護師 72名

<文責 高橋千鶴子>

## 看護支援委員会

### 概要

目的：平成19年10月に電子カルテ導入になり、それに伴いよりよい運用に向けて、活動すること。  
4班に分かれ活動し、月1回の委員会を開催し、それで決定されたことを電子カルテ委員会で承認してもらう。

業務内容：看護部門で電子カルテに慣れ、他部門との調整、また、コストもれのないようなシステム作りなど電子カルテの有効利用について検討をする。

### SOAP記録班

メンバー：小田島ゆう子 丹 久美 高橋智美 森本和子 真壁美保子 川崎智美  
谷口順子 高橋優子 稲川雅美

(活動内容) SOAP記録の開始とその充実。記録に関するルール決めなど、マニュアル作成に取りかかった。

### 看護情報班

メンバー：照井洋子 小松ルリ子 小田嶋千枝子 佐藤千春 真壁美保子 佐藤秀子  
小田嶋恵美子 稲川雅美 高橋まゆみ

(活動内容) 看護ケア実施に関してケア入力条件の統一化の検討とコストもれのないようにバーコード実施にむけての取り組みさらに、看護師入力の権限などについて検討を重ねた。

### 看護計画班

メンバー：藤井洋子 佐藤セツ子 高本和子 和泉奈保子 高橋千鶴子 森本和子  
木村真貴子 真壁美保子 川崎智美 木下文子 下夕村優子 小田嶋ゆう子

(活動内容) 看護計画使用マニュアルの作成と使ってみて不備な点などを見つけ出し改善した。

### データベース班

メンバー：高橋共子 石橋由紀子 高橋智美 谷口順子 末次エリカ

(活動内容) 電子カルテ導入後、患者情報・禁忌画面などの充実と看護サマリーについてもさらに検討を行った。

<文責 佐藤セツ子>

## 師長会

目的 1、看護科における諸問題を協議し、看護科運営の円滑をはかる。  
2、病院運営に関する諸問題について看護科の意見を反映する。

内容 1、看護科の諸問題を協議し決議する。  
2、予算、決算、人事、各委員会に関する事。  
3、病院経営への提案及び答弁。  
4、リーダー教育。  
5、部署会議の報告。

構成 総看護師長 副総看護師長 看護師長（6名）

回数 月2回（前期・後期）

平成20年度師長会目標と評価

### ○目標管理の徹底

個々にあわせて面接2～3回実施。師長はスケジュールを組み計画的に実施することを目標に行い、面接を通してスタッフの要望、意見、想いを分かることができたと思われる。しかし中途退職者が昨年より多くメンタル面での対応については、師長会でも毎回議題となり今後も大きな課題である。

各部署定例会、議題、検討事項などはあらかじめ資料を配布し検討してもらい、師長会で最終決定している。病院経営に関する事、人事、患者状況の報告、後期では当番制で勉強会を取り入れ意見交換の場をしている。

勉強会 4月 あいさつの意義について  
5月 ある病院の眠剤点滴中の死亡事故事例から学ぶ  
6月 事故後の情報収集に求められるインタビュー力  
7月 身だしなみについて  
8月 短時間の正職員について  
9月 在宅死の時代 「ERのピットホール」研修会の報告  
10月 自治体病院学会の報告  
11月 コーチングについて  
12月 タブーから目を反らさずに議論を「人工呼吸器外し」  
H21・1月 患者と医療者が満足できる療養環境を構築するために  
2月 病院機能評価の評価項目改定について  
3月 医療過誤の考え方・自己決定権による医師の尊厳について

<文責 木村カズ子>

## 抄読会

- 目的 1、専門性を追求し医療や看護の視野を広げる。  
2、文学に触れ情緒的感覚を育て人間性を高める。

- 内容 1、図書の読後感を紹介し感動を共有する。図書は専門書に限らない。  
2、研修会、学会出席し情報を共有する場とする。

構成 総看護師長 副総看護師長 師長（6名） 主任（11名） 輪番制で行う。

| 月          | 氏名                       | 題名   |
|------------|--------------------------|--|
| 5月         | 石橋由紀子<br>和賀美由紀<br>佐藤セツ子  | こころのマネジメント<br>持たない暮らし<br>① 脳卒中の血栓除去溶解療法 rt-PT 静注療法<br>② 朝日新聞「医を創る」のコーナーより<br>後期高齢者医療制度について |
| 6月         | 木村真貴子<br>高橋共子            | おひとりさまの老後<br>やっぱりリフレッシュって必要  |
| 7月         | 藤井洋子<br>照井洋子             | 日経メディカル Cadetto<br>日本の家紋 入門  |
| 8月         | 佐藤昌悦<br>高橋千鶴子            | ホンネがわかる心理テスト<br>日本は世界で第何位？   |
| 9月         | 和泉奈保子<br>佐々木佳子<br>小田嶋恵美子 | 踊る大捜査線に学ぶ組織論入門<br>さまよう刀<br>問題な日本語その3   |
| 10月        | 木下文子                     | Nurse Call 10月号  |
| 11月        | 木村カズ子<br>高橋礼子            | 看護展望より2008・11月「病院のクレーマー」<br>いのちのハードル   |
| 12月        | 木村恵美子<br>高本和子            | 特集「明日はいい日に！」前向きになれるヒント<br>持たない暮らし  |
| H21年<br>1月 | 下夕村優子<br>木村真貴子<br>石橋由紀子  | O型 自分の説明書<br>論語のことがマンガで3時間でマスターできる本<br>社会人として大切なことはみんなディズニーランドで教わった                        |
| 2月         | 和賀美由紀<br>佐藤セツ子           | 33歳ガン漂流ラスト・イグジット<br>① 脳卒中電気でリハビリ<br>② いま注目される半固形化栄養法                                       |
| 3月         | 藤井洋子                     | 「電子カルテ 看護情報交換会に出席して」   |

＜文責 木村カズ子＞



## 學術研究業績



## 院内 <医局勉強会>

|          |   |                    |
|----------|---|--------------------|
| 平成20年4月  | 薬物乱用頭痛について・・・・・・・・・・                          | 塩屋 斉 (脳神経内科)       |
| 平成20年4月  | ブルガダ症候群について・・・・・・・・・・                         | 根本 敏史 (循環器内科)      |
| 平成20年5月  | 免疫アレルギーについて・・・・・・・・・・                         | 齋藤 紀先 (呼吸器・アレルギー科) |
| 平成20年5月  | 化学療法における制吐剤について・・・・                           | 谷川 裕子 (薬剤科)        |
| 平成20年6月  | 昨年度当院で加療した急性虫垂炎例の検討<br>・・・・・・・・加藤 健 (外科)      |                    |
| 平成20年6月  | NSAIDsによる消化管障害・・・・・・・・・・                      | 奥山 厚 (消化器内科)       |
| 平成20年7月  | GERDを診たら・・・・・・・・・・・・・・・・                      | 小田嶋 傑 (消化器内科)      |
| 平成20年7月  | CKDにおけるARBの副作用・・・・・・・・・・                      | 神崎 正俊 (泌尿器科)       |
| 平成20年9月  | アルコール多飲+ケトアミドーシス・・・・                          | 伊藤 綾美 (内科)         |
| 平成20年10月 | インスリン自己注射服薬指導・・・・・・・・                         | 小宅 英樹 (薬剤科)        |
| 平成20年11月 | 緩和ケア・最近の話題など・・・・・・・・                          | 丹羽 誠 (外科)          |
| 平成20年11月 | メタボリックシンドロームと特定健診・・・・                         | 船岡 正人 (消化器内科)      |
| 平成20年12月 | 当院における心臓CTの実際・・・・・・・・                         | 和泉千香子 (循環器内科)      |
| 平成20年12月 | 私が行っている性教育講座・・・・・・・・                          | 滝澤 淳 (産婦人科)        |
| 平成21年1月  | 主な経管栄養法とPTEG・・・・・・・・・・                        | 藤盛 修誠 (消化器内科)      |
| 平成21年1月  | インクレチン(消化管ホルモン)関連薬について<br>・・・・・・・・佐々木洋子 (薬剤科) |                    |
| 平成21年2月  | 定位放射線治療について・・・・・・・・                           | 泉 純一 (放射線科)        |
| 平成21年3月  | Prader-Willi Synd・・・・・・・・・・                   | 小松 明 (小児科)         |
| 平成21年3月  | 変わってきた胃癌の化学療法・・・・・・・・                         | 粕谷 孝光 (外科)         |



# 同好会活動



## 野球部

今年度の野球部の活動は、県南病院対抗野球大会の1試合のみとなってしまいました。その唯一の試合も初戦敗退という結果に終わってしまいました。

結果だけみると1点差という僅差でしたが、試合内容では完敗でした。今年は、天候に恵まれずほとんど練習できないままに大会を迎える事になり、本番ではなかなか思うように体が動かず、最後まで自分達の力を出す事ができずに終わり練習の重要性をあらためて感じさせられました。

来年はもう一度、初心に帰り基本から練習し、技術的にも精神的にも強くなって、全県大会に出場できるように取り組んでいきたいと思います。

### \*試合結果

7月12日（土） 県南病院対抗野球大会  
V S 興生病院 3 × 4 敗戦

<文責 木村宏樹>

## バレーボール部

この2年間、練習参加人数不足のため、対外試合ができず中々練習にも力が入らない日々が続いていた。今年こそ対外試合をしようと、4月より月1～2回の練習を続けてきた。まずは、「全県病院対抗バレーボール大会出場」目指しての練習となった。

忙しい勤務のなかの練習だったが、毎回10人以上の人が参加し大会にむかうことが出来た。

そして、9月7日（日）に行われた「全県病院対抗バレーボール大会」は12病院12チームの参加により開催された。当バレーボール部は2年ぶり新制チーム結成しての参加だった。結果は2敗を期し決勝ブロックへの出場は出来なかったが、久しぶりの対外試合に楽しい汗を流すことができ満足した一日だった。

来年こそは1勝、いや決勝進出をと意気揚揚と帰宅した。

### H20年度部員（順不同）

|       |       |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 高橋 貞広 | 熊谷 剛  | 鈴木 務  | 渡部 香里 | 高橋 香里 | 佐藤 裕基 |
| 鈴木久美子 | 加藤 亜紀 | 細川 陽子 | 青池 満雄 | 石塚 紫  | 森谷 茂  |
| 照井 真澄 | 阿部千鶴子 | 佐藤恵美子 | 小田嶋明子 | 高橋 亮子 | 渡部あかね |
| 木村恵美子 | 高橋ますみ | 池田 律子 | 鈴木 時枝 |       |       |

<文責 木村恵美子>

## 職員等互助会



## 職員等互助会

### 概 要

職員等互助会は、当院に勤務する職員及び嘱託職員並びにパート職員（会員）の相互共済を図り、福利増進に寄与することを目的としている。職員歓送迎会、盆踊り大会参加、研修旅行、大忘年会など各種行事の主催・運営、祝い金・見舞金・弔慰金の給付、院内同好会活動への補助を行っている。今後もこれらの福利厚生事業などを通じ、会員の親睦と交流を深め、初期の目的を達成するため活動をしていく予定である。

### 役員氏名

|     |  |
|-----|--|
| 会長  | 藤盛 修成                                  |
| 副会長 | 高橋 信夫                                  |
| 幹事  | 栗田 公平、郡山 邦夫、原田 優子、<br>高本 和子、丹 厚子、後藤美佐子 |
| 監事  | 木村カズ子、浮嶋 優子                            |
| 事務  | 岩根 育子                                  |

### 20年度に実施した主な病院行事等

○平成20年4月25日 職員歓迎会 横手セントラルホテル 参加者99名

|       |   |
|-------|---|
| 実行委員長 | 塩屋 斉  |
| 実行委員  | 細谷 謙、鈴木 務、北小路由紀、和賀 幸子、天羽 勝義、<br>高橋 希、高橋加美子、佐藤 佳織、佐藤さとみ、佐藤 昌子<br>永須 直美、堀江 敦司、石山 博幸、鈴木久美子 |

○平成20年7月28日 盆踊り用半纏購入 30着

|    |       |
|----|-------|
| 幹事 | 栗田 公平 |
|----|-------|

○平成20年8月15日 市民盆踊り大会 横手市役所前 おまつり広場 参加者57名

|       |   |
|-------|---|
| 実行委員長 | 渡部 昇  |
| 実行委員  | 法花堂 学、鈴木 務、小川由起子、平塚多喜雄、小松 信宏、<br>高橋かおり、須田 鮎美、小田嶋 梢、高橋 大樹、菅原奈緒子、<br>丹 久美、水上 彰、石塚 紫、奥山沙耶香 |

○平成20年9月17日・10月4日・10月16日・10月18日・10月21日・11月7日・11月15日

研修旅行 仙台・松島、那須高原、田沢湖 参加者148名

|       |   |
|-------|---|
| 実行委員長 | 小川 和孝   |
| 実行委員  | 藤原 理吉、高橋 洋、谷川 裕子、工藤真希子、原田 優子、<br>齊藤紗希子、小田嶋勝子、佐々木祐美、末次エリカ、佐藤富美江、<br>高階 利子、栗田 公平、阿部千鶴子、高橋真知子、高橋 功 |

○平成20年12月19日 大忘年会 横手セントラル 参加者189名

実行委員長 榊原 互

実行委員 齊藤 千尋、熊谷 剛、柿崎 幸、小丹まゆみ、川越 真美、  
黒沢奈保子、三好 奈央、佐藤 愛、小田嶋 梢、小田島千津子、  
小田嶋明子、津川 明子、山中慎太郎、渡辺 瑞穂、菊地 智子

○平成21年3月19日 送別会 松與会館 参加者105名

実行委員長 奥山 厚

実行委員 佐藤 裕基、高橋 貞広、小宅 英樹、加賀谷美智子、天羽 勝義、  
高橋亜由美、草薨美保子、山田百合子、横井 道子、石田亜希子、  
谷口 順子、後藤美佐子、佐々木和貴子、加藤 亜樹

○サークル補助等 3件

○慶弔給付 結婚祝金 13件、弔慰金 17件、退職報償金 6件、入院見舞金 1件

<文責 佐藤 潤>

## 編集後記

めまぐるしく変わる医療制度の中で、当院も生き残るべく試行錯誤を繰り返している。2月から病院増改築が約2年の予定で始まった。出入口の制限・変更、入院病床の減少、騒音など、患者さんに直接迷惑をかける事柄が増えている。患者さんへの繰り返しの説明、接遇の徹底などにより、当院離れを極力減らす努力を職員一丸となってしていかなければならない。

私事では、45歳になり、医局規定により当直免除となった。少し寂しい気もするが、体は楽である。たくさんの研修医の先生方に感謝である。

<文責 小松 明>